

# 学習支援センター(SLAサポート) 年次活動報告書 2022年度

Annual Report 2022 / Center for Learning Support(SLA Support Office)

C

L

S

L

A

東北大学  
高度教養教育・学生支援機構  
Institute for Excellence in Higher Education,  
Tohoku University



---

**学習支援センター（SLA サポート）**  
**年次活動報告書**  
**2022年度**

---



## 「即興詩人」

学習支援センター長 芳賀 満

学習支援センターでの SLA (Student Learning Adviser) による活動とは、student「学生」が learn「わかる」ことを advise「見届ける」ことである。

ad·vise は字面に見ての通り語源が videō (“to see”) であり、「見る」が本懐である。つまり、educate「教育」のように e (“out”) + ducere (“to lead, draw”)、即ち「(対象者を) 牽引する、(対象者の) (中から外へ) 引き出す」とは異なる態度である。また教員が student 本人ではない他者として、student にあくまで直接には手で触れない距離をおいた態度でもある。ではそのようにして何を、「見る」のであろうか。

student とは即ち「study する者」であるが、それを「主語」としつつも、study と learn は大きく異なる。study は学習「行為」そのものを意味する。その「行為」の結果、学習内容を「習得」したのか否かかは、全く判然としない。対して learn の印欧語の語源は”to track, to furrow” (轍を辿る、畝を作る) である。それは学習内容の「習得、会得、領略」と訳すべきで、学習の「完了」の意であり、その結果として既に深く高く轍や畝が生成されたのである。(即ち I studied English. は「英語を勉強した」行為だけを意味するが、I learned English. では「英語を習得した」のである。だから study には very hard と副詞をつけることができるが learn にはできない。)

つまり SLA とは、「学習行為をする者」が、その学習対象を深く「習得する」ことを、あくまで他者として「見届ける」者なのである。

さて、「習得する」とは「わかる」ことであるが、同じ learn の範疇にあっても、「知る」と「わかる」とは大きく違う、と人は良く言う (例えば佐伯啓思『学問の力』NTT 出版 2006, pp.124-128)。「知る」とは、文字情報、人との会話などにより外部の情報が学習者の脳にインプットされることである。「わかる」とは、外部情報や学習対象が真に学習者の腑に落ちて、ゆえにこそ当事者が思考プロセスを自分で自力でもう一度再現する、あるいは自分なりに再構築できることである。この両者の質的差異をよくわかって欲しい。その上で、「知る」だけではない「わかる」をこそ、SLA と学生、あるいは全ての教員と学生は目指して欲しい。

私も教員として経験があるが、「知る」状態程度である事柄をいざ講義で話していると、準備は万端であった筈なのに急に途中で自分の論理と言葉に自信がなくなり立ち止まったり 躓<sup>つまづ</sup>いたりしてしまうことがある。本当に「わかる」状態ではなかったのである。本当は講義は、講義ノートもパワポに用心のために書き込んだ細かい説明もなしに、自由自在に再構成できるような「わかる」状態

において初めて教員は実施しなければならない。一方の受講する学生も、「知る」から始まり「わかる！」と己の臍腑おのれに落ちる状態にならないといけない。そのような講義（そして SLA 活動）であるべきなのだ。

だから本来、講義は自由自在な「即興」であるべきだと思う。（「即興」はその本義においてそれは、記録・保存とは全くに遊離した、非記録性と瞬間性に富んだあり方である。だから、現代の高等教育に関わる者としては大声では言えないが、授業の録画やその「リフレクション」なんぞには未だに違和感を覚える。記譜法はむしろ即興を駆逐するからだ。）

ここで言う「即興」とは、楽譜や台本による進行を事前に定めた上でその枠組みには敢えて指定がないフレーズ部分を演奏する「アドリブ」（“*ad libitum*”「お好きなように」）ではなく、それとは大いに異なる「インプロビゼーション」を指す。それは作曲しながら即座に演奏するもので、より壮大で深い理解である「わかる」を真に前提としてその成立の必要とするのである。

『人魚姫』、『みにくいアヒルの子』、『雪の女王』、『マッチ売りの少女』などを後に書くこととなる H.C.アンデルセンの最初の長編小説、その名も *Improvisatoren* の森鷗外による訳『即興詩人』に於いて、初めて斯くの如き即興詩人が登場するところには以下のようにある。その「骨組太き童一人」が「心ともせずや、「キタルラ」のいと絃、おもしろげに搔き鳴して坐したり。忽ちにして歌ふこと一句、忽ちして又奏づること一節。」、そしてこのように「童の歌ひたる歌こそは、いたく我心を動かしつれ。あはれ此歌よ。こは尋常の歌にあらず。この童の歌ふは、目の前に見え、耳のほりに聞ゆるが儘なりき。（中略）其歌には韻脚あり、其調はいとたへ妙なり。童の歌ひけるやう。青き空をふすま衾として、白き石を枕としたる寝ごゝろの好きよ。」

これが即興詩人なのであり、この小説の主人公アントニオ（＝アンデルセンの分身）は、「まことに詩人とは、見るもの、聞くものにつけて、おもしろく歌ふ人にぞありける。げにこは面白き業なり。」と覚る。このような「面白き業」の「即興」をこそ、教員の「わかる」を前提として学生においてもそれを実現する講義として、いつの日か行いたいものだ。

そもそも、イタリア語も知らないスカンディナヴィア人がイタリア人の主人公アントニオと成って書いた自伝的小説が H.C.アンデルセンのデンマーク語の *Improvisatoren* (1835 年)であり、イタリア語を知らぬ明治時代日本人森鷗外がそのデンマーク語原文ではなくそのドイツ語訳からさらに自分の日本語へと「じゅうやく重訳」したのが擬古文体の近代日本文学としての『即興詩人』(1902 年)なのである。（長島要一「『即興詩人』とイタリアー森鷗外とアンデルセン」『立命館言語文化研究』20 卷 2 号参照。なお最近の「重訳」一般に関する論考としては東大比較文学會『比較文学研究』（特輯「重訳」）107 号 2022 年を参照。）

つまり、アンデルセン、アンデルセンの分身としてのアントニオ、そのアントニオに投影される鷗外、明治時代日本人としての鷗外自身といった各々の存在の臍腑に落とした「わかる」の状態を何重にも基盤として重ねつつ新しく編纂されたのが『即興詩人』であった。

当時としても既にいささか賞味期限の切れかけた「熟れすぎた果実のような甘味と芳香を発し」

（上掲の長島要一氏による表現）た雅文体による日本文学ではあるかもしれないが、それは「わかる」を幾重にも果たした上での切実で見事な新しい創造行為である。それは「わかる」を志向する SLA を含む教育者、そして研究者、さらには藝術家として目指すべき「即興詩人」の姿ではないだろうか。



写真：2022 年度前期活動報告会 集合写真



## 目次

巻頭言 「即興詩人」 センター長 芳賀 満	1
<b>◆ 2022 年度事業内容・成果</b>	<b>6</b>
1. センター概要	8
2. センター活動・実績報告	12
3. 歴代センター教員による論考	20
1) 私が SLA のマネジメント業務の中で重視していたこと 縣 拓充 (20)	
2) SLA サポート運営の心がけ 中島 啓貴 (25)	
4. 研修実績報告	29
1) 活動説明会 (30)	
2) 活動報告会 (49)	
5. 部会活動報告	77
1) 物理部会 (77)	
2) 数学部会 (86)	
3) 化学部会 (94)	
4) ライティング部会 (102)	
5) 英語部会 (113)	
6) 日本語部会 (127)	
7) 企画部会 (136)	
6. SLA 卒業プレゼンテーション	153
資料	167
編集後記	206

## ◆2022年度事業内容・成果

### 1. スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

SLA（Student Learning Adviser）とは本学学生による学生のための学習支援スタッフである。学部生の授業時間外の教科学修や英語学習、留学生の日本語学習、及び学際的なテーマに関する協同学習実践への支援を行っている。2022年度のSLA数は、前期48名、後期は49名であった。うち当該年度中に新規採用したSLAは計21名である。

このSLAによる学習支援は、①理系科目の学習支援、②ライティング支援、③英会話、④日本語会話、⑤学習イベント企画、⑥学習情報発信・広報活動という6つに大きく分けられる。2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大により、Web会議システムとGoogle Workspace for Educationを活用しながら、感染拡大収束期に対面も併用する形で、SLAサポート窓口支援の活動を行った。当該年度はオンラインによる支援にも慣れ、様々な工夫を凝らしながら体制整備を進めることができた。2022年度の全体の窓口利用者数は延べ1,207名であった。

#### ① 理系科目支援

2022年度は、昨年度と比較すると自然科学総合実験やレポート関連の相談対応件数が多かった。理系科目全体では、2022年度の利用者数が延べ341名、実数では146名であった。昨年度比での傾向としては、利用者延べ数が大きく減少した（ただし一部、集計方法の当該年度限りの変更で実際の利用者延べ数よりも少なく集計されているという問題あり）。当該科目の学修の初歩でつまづいている学生から発展的な内容の学修を自発的に進めている学生の相談まで、多様な内容での相談があった。個別相談以外にも、積極的な情報発信を行った。講義棟内でのポスターやマルチメディア棟前でのホワイトボードによる発信を行った。昨年同様、オンラインではセンターHPやTwitterでの発信も行った。

#### ② ライティング支援

2022年度も前年に引き続きオンラインでの個別支援を継続しながら、対面でのドロップイン方式を再開した。ライティング支援の2022年度の窓口利用者は、延べ121名、実数で60名であった。留学生を中心に、授業レポート以外のライティング（研究計画書や就活関連書類など）の相談があった。留学生利用者数は延べ75名だった。2022年度入学の学部1年生より全学教育カリキュラムに大きな変更があったため、前年度までの授業連携ができず、「学問論」等の初年次全学教育科目との連携が課題として残った。

コロナ禍で休止していた対面でのライティング・セミナー実施を再開し、前期に全12回のセミナーを行った。参加人数は延べ93名だった。

#### ③ 英会話

2022年度は、オンラインでの事前予約の際にドロップインの選択肢を設け、部分的に対面支援を再開した。年度当初はオンラインでの「1 on 1」（個別対応）を中心としつつ、不定期に対面での交流イベントを実施する形での活動をスタートした。後期には、少しずつ対面での活動の比重を増やしていった。2022年度の英会話支援の利用者数は延べ278名、実数69名だった。例年と比して利用者数が少なく留まったこともあり、広報等の面で課題が残った。

#### ④ 日本語会話（留学生対象）

年間を通し、オンライン支援を基本として活動した。2022年度の日本語支援の利用者数は延べ237名、実数67名だった。実数で見ると昨年度比で減少しているが、延数では昨年よりも増加している。利用者としては中国の留学生を中心としつつも、多様な地域・国の留学生の利用があった。所属学部・研究科や学年は多様で、多くが複数回利用となっている。日本語能力者の中上級者（日本語だけで会話できる、N1-N2レベル）の利用が多く、またリピート率も高かった。留学生と国内学生の交流促進を目的とした「SLA文化カフェ kick-off（新入生向け新歓イベント）」や抽象概念を扱う日本語対話実践を目的とした「SLAかんがえる文化カフェ」も2回開催した。

## ⑤ 学習イベント企画

2022年度は、哲学カフェ「かんがえるソファ」（哲学カフェ、平日の5限の時間帯を中心に各回90分を実施）を中心にしつつも、デザイン思考を体験するワークショップ「デザイン思考ワークショップ」や「美術館企画」など新しいタイプのワークショップも実施した。2022年度のイベント開催数は19回であり、参加者数は110名であった。

## ⑥ 学習情報の発信および広報活動

2023年度の学部新生に配布予定の『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2023』を作成した。この冊子では、学習支援センターの利用案内や、大学で学ぶ上で役立つヒント等を紹介している。また、留学生向けの『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2023 for international students』を作成し、2022年から内容を改訂し、充実させることができた。

## 2. 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2022年度は、前年度に引き続き、SLA研修の大半をオンラインで実施した。全てのSLAを対象として、各 Semester の始期に活動説明会、終期に全体リフレクション会や活動報告会を開催した。例年の通り、これらの活動により期間を通したSLAサポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題のふりかえりを行った。新規SLA向けの研修としては、研修用資料（SLAハンドブック）と理解度確認テストなどにより、効率的で効果の高い研修のあり方を模索・試行した。Semester中にはSLAの担当分野別に「部会」（担当別研修会）を実施し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。その他にも、Semester末には全SLAに対してアンケートやヒアリングを実施した。そのデータや日頃の教職員による観察から得た情報に基づいて課題を抽出し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討し、全体課題の精査を行った。

このように2022年度は例年通りの基本的な活動を行ったものの、SLAに対する研修や育成として積極的な活動ができなかった。特にスタッフの入替わり等により、属人的な能力や経験に依存していた部分について、従前の活動が継続できなくなるという問題も顕在化した。支援者育成システムの再構築が、次年度の課題である。

## 3. 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

半期ごとに、学務審議会においてセンターの利用状況・活動報告を行った。また、正課カリキュラムと学習支援センターでの活動を有機的に連携させるため、TGLプログラム「グローバルゼミ」に対して、レポートの書き方についての出前授業1コマ（90分）を実施した（センター教員が担当、前期5クラス、後期2クラス）。今年度は、昨年度に改訂したライティングのオンデマンド教材を活用し、充実した教育を効率的かつ効果的に提供することができた。その他、化学については、SLA窓口の利用実態（相談内容や件数等）について、個人情報に配慮したうえで、科目委員会にフィードバックした。

## 4. 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLAによる学習支援活動を中心に様々な学習企画や学習支援活動を実施した。今年度より、状況を見つつ、対面開催でのイベント実施を行った。哲学カフェ「かんがえるソファ」は、平日（曜日は不定）の4-5限の時間帯を中心に、各回90分で開催した。また、数年ぶりに宮城県美術館との連携イベントを再開し、美術館職員の方の協力を得て、美術の楽しみ方を学び合う企画として「美術館ツアー」を開催した。その他、学生団体TIDEと共催で「デザイン思考ワークショップ」（全3回）を開催した。

## 5. 学内外における学習支援ネットワークの構築

留学生等への学習支援に関する情報交換や広報等において、グローバルラーニングセンターとの効果的な連携を継続できた。学外との学習支援ネットワークとしては、3月に国際基督教大学からの視察の受け入れ（川内北キャンパスにて）、および国際基督教大学（東京都三鷹市）への視察訪問を行った。

# 1. センター概要

学習支援センターは、2014年度の高度教養教育・学生支援機構の発足に伴い設立された業務センターの一つである。その前身となったのは、高等教育開発推進センターにおける「SLA サポート室」の活動（2013年度）であり、さらにはそれ以前の「全学教育学習支援プロジェクト—SLA（Student Learning Adviser）制度の実践—」（総長室付け、2010年度～2012年度）の活動が土台となっている。

2019年6月、「学習支援センター運営要領」を一部改訂した。

## （1）理念・使命

学習支援センターの使命には、次の3点を掲げている。

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に支援・促進し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

学習支援センターの支援対象は主に学部生を対象とした全学教育（教養教育）である。特に1・2年次学生にとっては、高校教育から大学教育への移行において「学びの転換」が課題となっており、その転換を実践的に支援・促進するのが本センターの重要な役割の1つである。

本センターの学習支援の特徴は、学習支援活動の主な担い手が「SLA（Student Learning Adviser）」と呼ばれる学生スタッフであることにある。「学生による学生のための学習支援」の在り方を模索し、開発していくことも本センターの使命の一つである。

## （2）事業

学習支援センターが行う事業は、次の4点である。

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA、 Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施
- (2) 正課カリキュラムの改善・充実への貢献および全学教育に対する教育開発支援
- (3) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進
- (4) 学内外における学習支援ネットワークの構築

本センターでは、高大接続の円滑化と大学教育での「学びの転換」、そして「単位制度の実質化」に対応するため、大学初期段階での学びのスタートアップ支援を行う。研究大学における学習支援としては「リメディアル教育」に資する支援を行うと同時に、学生が学修を深化させ、あるいはより幅広い学習へと拡張していくための「レベルアップ」のための支援を開発・実施していく。

## (3) センタースタッフ構成 (2022 年度)

センター長	芳賀 満	高度教養教育・学生支援機構 教授、 考古学
副センター長	佐藤 智子	同 准教授、 生涯学習・社会教育
センター員	中島 啓貴	同 助教、 数学・幾何学
	新井 庭子	同 助教、 計量言語学
	堀越 徳子	教育・学生支援部 教務課、 事務補佐員

SLA

前期 48 名、 後期 49 名 (下表のとおり)

## 2022 年度 SLA 一覧

	担当	名前	所属	学年	活動開始
1	物理	木下 豊	理学研究科	D1	2021 年前期～
2		鈴木 善久	理学研究科	M2	2020 年前期～
3		本間 飛鳥	理学研究科	M2	2021 年後期～
4		中村 悠斗	工学研究科	M1	2020 年前期～
5		中村 牧人	理学研究科	M2	2020 年後期～
6		松井 理輝	理学研究科	M2	2019 年前期～
7		安田 陸人	理学研究科	M2	2020 年前期～
8		菅野 翼	理学部	B4	2021 年後期～
9		千葉 公哉	理学部	B3	2022 年前期～
10		雨宮 功来	理学部	B3	2022 年後期～
11	数学	森 祥仁	理学研究科	D3	2021 年前期～
12		渡辺 孝佳	理学研究科	D2	2018 年前期～
13		竹平 航平	理学研究科	D1	2019 年前期～
14		松本 悠太	情報科学研究科	M2	2020 年後期～
15		渡辺 楓	理学研究科	M1	2020 年前期～
16		吉野 舜太郎	情報科学研究科	M1	2021 年後期～
17		上田 龍磨	理学研究科	M1	2022 年前期～
18		檜山 快	工学研究科	M1	2022 年前期～
19		大橋 春希	工学研究科	M1	2022 年前期～
20		笹山 一星	工学部	B3	2022 年前期～
21	化学	中島 優斗	理学研究科	M2	2021 年前期～
22		千葉 湧太	理学研究科	M1	2020 年前期～
23		三上 翠跳	理学研究科	M1	2020 年前期～
24		菊地 涉	農学部	B4	2022 年前期～
25		宇那木 優斗	工学部	B3	2022 年後期～
26	ライティング	中野 惟文	文学研究科	D3	2020 年後期～
27		保泉 空	文学研究科	D2	2021 年前期～
28		増田 友哉	文学研究科	D2	2021 年前期～
29		服部 祥英	工学研究科	D1	2020 年後期～
30		小田切 裕史	文学研究科	D1	2022 年前期～
31		野々瀬 真理	文学研究科	D1	2022 年前期～

32		加藤 里彩	工学研究科	M2	2022 年後期～
33	英語	ZHANG XINYU	国際文化研究科	D1	2021 年前期～
34		森岡 駿	経済学研究科	M2	2022 年前期～
35		槇島 千仁	文学研究科	M2	2021 年後期～
36		近森 藍璃	文学研究科	M2	2021 年後期～
37		LO CHUAN	医学研究科	M2	2022 年後期～
38		Tan Kei Chloe	農学部	B4	2022 年前期～
39		Belli Komessu Pedro	工学部	B3	2022 年前期～
40		原 幸日	工学部	B3	2022 年後期～
41		日本語	鏡 耀子	文学研究科	D3
42	江村 玲		文学研究科	M2	2020 年後期～
43	秋山 千皓		農学研究科	M2	2021 年前期～
44	小森谷 仁子		文学研究科	M2	2022 年後期～
45	鈴木 こほと		文学部	B3	2022 年前期～
46	松尾 美祐		工学部	B3	2022 年後期～
47	企画	飯田 司	理学研究科	M2	2019 年前期～
48		須田 華	工学研究科	M1	2020 年前期～
49		福士 海伊	工学研究科	M1	2021 年後期～
50		加藤 嵩大	農学部	B4	2021 年前期～
51		生方 颯真	理学部	B3	2022 年前期～
52		日下部 翔大	薬学部	B3	2022 年後期～
53		田村 彩奈	教育学部	B3	2022 年後期～



写真：2022 年度後期活動報告会 集合写真



写真：英語部会による英会話イベントの様子



写真：企画部会によるイベント「お外で『かんがえるソファ』」の様子

## 2. センター活動・実績報告

### 1. 2022 年度 SLA サポート事業重点目標とその成果

#### ①自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実

- ・ Web 会議システムと Google Workspace を活用した SLA サポート窓口支援の運用。
- ・ リフレクションを充実させ、1・2 年生に学びの転換を促し、自律的な学習者になってもらう方法の検討に力を入れた。
- ・ 過去の対応記録から、学習支援のあり方や対応事例の共有に努めた。

#### ②多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

- ・ 学生間の交流と協同的な学習を促すワークショップ開催。
- ・ センター（SLA）外の団体との協働活動の実施や企画が実現した。

### 2. 支援の実施方法：オンラインと対面の支援を組み合わせる実施

- オンラインでの支援
  - インターネットでの事前予約制  
(～2019 年度) 学生の休み時間や放課後での利用を想定し、予約不要の drop in 方式を採用
  - SLA 活動全般で Google Workspace (Meet、jamboard、Classroom 等) および Zoom を利用
- 対面での支援
  - BCP レベルが 1 以下の場合に対面支援を実施
  - 対面サポート時は検温・消毒・マスク着用を徹底し、SLA と利用者間にアクリル板を設置
- 活動におけるオンラインと対面の使い分け場面に応じて適切な方法を検討した
  - 個別相談 (理系) : 対面支援
  - 個別相談 (英会話、日本語会話、ライティング) : オンラインと対面を併用 (利用者の選択)
  - イベント : 状況や参加対象者に合わせて、オンラインと対面を選択

### 3. 2022 年度 SLA サポート利用状況・活動報告

#### 1) 2022 年度 SLA サポート利用数

##### 【前期】

- 窓口利用者延数 : 723 人 (活動日数 55 日、1 活動日当たり 13.1 人)
- イベント参加者延数 : 253 人

##### 【後期】

- 窓口利用者延数 : 484 人 (活動日数 52 日、1 活動日当たり 9.3 人)
- イベント参加者延数 : 82 人

##### 【年間】

- 窓口利用者延数 : 1207 人 (活動日数 107 日、1 活動日当たり 11.3 人)
  - イベント参加者延数 : 335 人
- ※前期 : SLA 48 名 (新規 14 名) / 後期 : SLA 49 名 (新規 7 名)



## <2022 年度の成果と課題>

- ❖ 1年生の利用が低調だった（特に、理系科目と英会話）。
- ❖ 代わりに、理系科目や英会話については、積極的な情報発信ができた（ホワイトボード、ポスター掲示、SNS などを利用）。
- ❖ 留学生の利用は好調だった（特に、日本語会話とライティング）。
- ❖ イベントについては、「かんがえるソファ」（哲学カフェ）が参加者獲得に苦勞した反面、美術館ツアー企画は募集開始後すぐに定員が埋まる状況だった。
- ❖ 前年度以前から継続のイベントだけでなく、新しいイベントの試行ができた。
- ❖ SLA に対する積極的な研修機会の提供ができなかった。

## 2) 理系科目支援：対面での支援を再開

- 実施形態：1対1での個別対応型支援
  - 2022年度は前期の途中から、基本的に対面で drop in 方式を採用。
  - 1セッション原則 60分。次の枠に予約が入っていなければ延長して対応。
- 利用傾向：科目別の利用傾向が変化
  - 全体としては、昨年度と比較し利用者実数・延数ともに減少。
  - 科目別では昨年度と比較し、自然科学総合実験の利用増加。物理学の利用減少。
  - 物理部会 SLA によるレポート強化月間（5月・10月）の開催により、自然科学総合実験の利用が増加。強化月間の広報については学務情報システムにて行った。
- 窓口以外の支援：学生が窓口に来なくても利用できる学習支援を継続
  - 主に1年生に向け、教科の学びに関わる情報をオンラインと大学構内ともに発信した。大学構内では、講義棟内でのポスターやマルチメディア棟前にホワイトボードによる発信を行った。また学生食堂内での掲示は今回が初の試みである。昨年同様、オンラインではセンターHPやTwitterでの発信も行った。

<表 1. 2018～2022 年度 利用者数等変遷 理系>

	2018	2019	2020	2021	2022
前期（延べ）	441	625	259	248	201
後期（延べ）	288	386	201	260	140
合計（延べ）	729	1,011	460	508	341
予約枠数	-	-	1275	759	120
予約枠充足率	-	-	36.1%	39.9%	28.4%
合計（実数）	224	257	160	194	146
開設コマ数	52	59	50	-	-

<表 2. 2018～2022 年度 科目群別利用者数変遷 理系>

科目群(授業)名	2018	2019	2020	2021	2022
物理	138	271	153	112	84
数学	349	436	203	261	143
化学	98	112	48	60	31
自然科学総合実験	52	45	20	24	55
数学物理学演習	90	136	30	36	18

### 3) ライティング支援：留学生のライティング利用の増加

- 実施形態：1対1での個別対応（窓口支援）
  - 1セッション45分（予約時）
  - 後期には基本的に対面で drop in 方式を採用した。drop in の場合は1セッション60分程度。
  - オンライン対応では、レポートの添削には Google Document のコメント機能を利用した。
- 利用傾向：前年度比で利用者減
  - 全体の傾向としては、延数及び実数が減少傾向（主に1年生の利用が減少）。
  - 留学生を中心に、授業レポート以外のライティング（研究計画書や就活関連書類など）の相談があった。
  - 英語での対応を必要とする留学生からの相談や、英語ライティングに関する相談があった。
  - セミナー開催
    - 「上手なパラグラフの書き方」（5/30：2回開催, 6/6：2回開催）、「レポートの正しい書き方総点検！」（6/13：2回開催）、「良いレポートを計画的・効率的に書く方法」（6/20：2回開催）、レポートピアレビュー会（7/20, 7/21）
  - レポート準備相談室（7/4, 7/11：13時～16時のあいだのドロップイン）
  - 授業連携型支援：出前授業を実施
    - 引き続き、TGLプログラム「グローバルゼミ」に対して、レポートの書き方についての出前授業1コマ（90分）を実施（センター教員が担当）。今年度もこれまで同様に、事前課題としてオンデマンド教材も提供し、ライティング教育の充実化に貢献できた。

＜表 3. 2018～2022 年度 利用者数変遷 ライティング＞

A. 個別対応（窓口）

B. セミナー開催

	2018	2019	2020	2021	2022	2018	2019	2020	2021	2022
前期（延べ）	31	146	42	115	62	262	202	-	-	93
後期（延べ）	21	78	47	67	59	-	14	-	-	-
合計（延べ）	52	224	89	182	121	262	216	-	-	93
予約枠数	-	-	175	346	147	-	-	-	-	-
予約枠充足率	-	-	50.9%	52.6%	82%	-	-	-	-	-
合計（実数）	37	111	34	99	60	-	-	-	-	-
窓口型:開設コマ数 /イベント型:開催回数	10	12	8	-	-	30	19	-	-	12

### 4) 英会話支援：1on1 支援を基本に、学生間（留学生&国内学生）交流イベント実施にも挑戦

- 実施形態：1対1での個別対応型支援（1on1）
  - 1セッション30分。予約・drop in どちらの利用も可。
  - 新規利用者獲得・利用促進および利用者同士の交流のため、不定期に複数人参加型のイベント「外国語の学び方、どうしてる?～先輩学生によるトークセッション」「ゲームで英会話しよう!」「英語でゲーム! Halloween Party しよう!」「SLA Christmas & New Year's Party」を対面開催。合計103名が参加。
- 利用傾向
  - 利用者延数・実数ともに減少。

- 上級生の利用が減少（対面利用を部分的に再開した影響と思われる）。
- 対面支援のみで行っていた 2019 年度以前と比較して、2020 年度以降は 1～2 年生の利用が低調。

＜表 4. 2018～2022 年度 利用者数変遷 英会話＞

	2018	2019	2020	2021	2022
前期（延べ）	242	232	164	276	190
後期（延べ）	247	217	271	227	88
合計（延べ）	489	449	435	503	278
予約枠数	-	-	524	582	253
予約枠充足率	-	-	71.6%	78.8%	-
合計（実数）	73	91	129	129	69
開設コマ数	18	18	18	-	-

※ イベントの人数は延数には加算されているが、実数及び予約枠充足率には加算されていない

**5) 留学生向け日本語会話支援：オンラインによる 1on1 支援を基本に、対面での支援も開始**

- 実施形態：1 対 1 での個別対応型支援を中心として、定期的にイベント開催
  - 1セッション 30 分・事前予約制、基本はオンライン対応。希望があれば対面对応も実施。
- 利用傾向
  - 日本語能力の中上級者（日本語だけで会話できる、N1～2 レベル）の利用が中心。
  - 利用者の出身は中国が多いが、多様な国・地域出身の留学生が利用・参加。
  - 所属学部・研究科は多様。
  - 高いリピーター率。毎回、予約がほぼ埋まる状況。
- イベント
  - 「SLA 文化カフェ kick-off (新入生向け新歓イベント)」(4/19・4/21：オンライン実施) 開催。国内学生と留学生の交流促進を目的としたイベント。
  - 「SLA かんがえる文化カフェ」(6/28：対面実施、7/6：オンライン実施) を開催。日本語上級者の留学生を対象とし、抽象概念を扱う日本語対話実践を目的とした哲学カフェ。
  - 企画部会とのコラボ企画『かんがえるソファ「周りと違うって心地いい？」』を実施。留学生を交えた哲学カフェのイベント。

＜表 5. 2019～2022 年度 利用者数変遷 日本語会話＞

A. 個別対応型支援（窓口型）

	2019	2020	2021	2022
前期（延べ）	-	109	116	123
後期（延べ）	-	180	112	114
合計（延べ）	-	289	228	237
予約枠数	-	390	319	329
予約枠充足率	-	74.1%	71.5%	72.0%
合計（実数）	-	111	75	67
窓口型:開設コマ数	-	10	-	-
イベント型:開催回数	-	-	-	-

B. 企画発信型支援（イベント型）

	2019	2020	2021	2022
前期（延べ）	99	-	70	29
後期（延べ）	144	-	51	4
合計（延べ）	243	-	121	33
予約枠数	-	-	-	-
予約枠充足率	-	-	-	-
合計（実数）	50	-	-	-
窓口型:開設コマ数	57	-	11	5
イベント型:開催回数	-	-	-	-

## 6) 学習企画・イベント：学習イベントの拡大・定期実施

### 企画担当 SLA 主催のワークショップ

- 「かんがえるソファ」：普段「当たり前」だと思っっているような何気ないことについて、学生同士で考え対話する企画。SLA のファシリテーションのもと、参加者が身近なテーマについて話し合い、深める場として設定。
  - 平日（曜日は不定）の 4 限、5 限の時間帯を中心に開催（各回約 90 分）。
  - 日本語部会と共同開催の「かんがえるソファ」や、「デザイン思考ワークショップ」・「美術館企画」など、新しいタイプのワークショップも企画・実施。
  - 日本語部会と共同開催の「かんがえるソファ」：通常の「かんがえるソファ」に留学生サポートの視点も加えた企画。
- 「デザイン思考ワークショップ」：課題の表面的な解決にとどまらず、課題を抱える側の視点に立って本質的解決を探るためのマインドセット（デザイン思考）を体験するワークショップ。
- 「美術館ツアー企画」：宮城県美術館に行き、学芸員の方と一緒に美術の楽しみ方を知り、互いに話し合う企画。

<表 6. 2018～2022 年度 企画担当 SLA 主催イベント参加者数>

	2019	2020	2021	2022
前期（延べ）	10	92	70	54
後期（延べ）	122	81	45	56
合計（延べ）	132	173	115	110
開催回数	18	23	23	19

## 7) 利用学生の声：高い満足度、対話しながら学ぶ機会の重要性

- 利用満足度平均（100 点満点／回答数 436 件／イベントは除く）

<表 7. 利用満足度平均>

	2022 前期	前期回答数	2022 後期	後期回答数
物理	93.8	29	100	4
数学	94.6	43	99.5	22
化学	91.7	6	96.4	15
自然科学総合実験	97.6	17	98.5	10
数学物理学演習	93.6	7	-	-
ライティング	98.3	15	98.1	22
英会話	96.2	59	95.3	51
日本語会話	97.6	74	99	62

<表 8. 利用学生アンケート (一部) >

**【理系】** 質問がはっきりしていなかったのですが、それを汲み取っていろいろなお話を広げてくださったのがよかったです。フレキシブルな対応ができるのがさすがだと思います。関連するリンクも教えていただいたので参考にしたいと思います。今回は実験レポートについて教えていただいたのでオンラインで十分でしたが、わからない問題等を質問したいときは対面で利用したいと思っています。非常に丁寧でわかりやすかったです。ありがとうございました。/オンラインで人とやり取りするのがあまり得意ではないのですが、とても話しやすい雰囲気でした。/初めて利用しましたが、ただ答えを教えるのではなく、答えまでのプロセスをしっかりと考えさせてくれたので、とてもためになりました！/考え方を順を追って丁寧に説明してくださり、理解が深まった。課題以外の知識も得ることができ、楽しく充実した時間だった。/SLAさんと話す中で、自分が誤解していた部分や新しい考え方に気づけました。また、今後のレポート作成にも活用できる知識を教えてくださいたいと思います。

**【英会話】** 私が英語を話せないで自己紹介についての内容で終わってしまったのですが、学部の言い方や文法面など基礎のところを優しく教えてくださったので、とても嬉しかったです。ありがとうございました。/とてもとても楽しかったです。スピーキングの練習をSLAでスタートして、本当によかったです。/今日はありがとうございました。話すのが止まってしまうときに”keep talking”とだけ言っていただけてめげずに英語を話せました。英語が出なくて困っている時は日本語も交えて教えていただき良かったです。最後に自分の英語力についてアドバイスいただけたら嬉しいです。また利用したいです！/英語が得意でない私でも楽しめるハロウィンパーティーでした。言いたいことが上手く言えないときもサポートしていただき、ゲームを楽しめました。ありがとうございました！

**【ライティング】** 文法のチェックだけではなく、専門的なアドバイスもいただいてとても良かったです。/レポート構成と、レポートの書き方を丁寧に教えていただきとてもありがたかったです。/「て」と「に」の使い分け、動詞と名詞との組み合わせについて分かりやすく説明していただきありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。/良い雰囲気です！この作文のことでなく、ほとんど日本語の作文はどうやって整理することが習いました。説明がすごく分かりやすい。/論文の構成にいろいろなアドバイスをいただきましてありがとうございました。/貴重なアドバイスをいただき、ありがとうございます！

**【日本語会話】** 自分が迷っていた文書について、優しく指導していただき、助かりました。/今回はたくさん日本語を話しました。担当者も丁寧に対応していただきました。ありがとうございました。/短い時間でしたが、いろんなことを話しました。SLAについてわかりやすく説明してくれました。日本語と専門のアドバイスをしてくれてありがとうございます。/担当者は優しいです。リラックスして会話を行って良かったです。/丁寧に感想文を添削してくれてありがとうございます。/会話過程は軽くて楽しかったです。そして私の言葉遣いの間違いもちゃんと直します。/Kさんはすごく優しいです。また、一緒に日本語を練習したいです。/日本について様々なことを教えていただきました。特に知らなさそうな言葉はチャットで書いてくれて、とても優しいでした。/女権とジェンダーについてのテーマを話しました。とても楽しいです。そして普段によく使わない表現を使いました。日本語の勉強に役に立ちました。

【企画】異なる文化的背景を持つ人々の意見を聞くことができる/今まで知らなかったことを知ることがよかったです。/同会さんがよく私たちのディスカッションをバックアップしました。/知り合い、友達、親友の定義・基準についてディスカッションしてみたいです。本日はありがとうございました。/かんがえるソファは、確かにカウンセリングの役割も果たしうると思いました。様々なことを聞いたり話したりしているうちに、無意識化にあったものがふと思い出されて考えるきっかけになったりもするので、他者との相互作用は大切だなと思いました。普段の生活の中で、意識下であっても無意識化であっても考えない人はいないと思うので、「考える」ことについて考えることは、他者の理解にもつながると思いました。無意識も含めて広い視野で他者を捉えることができれば、より寛容に物事を考えられるのではないかと思います。

## 8) 学習情報の発信

- 「アカデミック・ライティング」 classroom の運用（主に前期）
  - コロナ前まで新入生向けのイベントとして開催していた「レポート指南書入門ゼミ」の内容を改訂した「レポート作成入門ゼミ」をオンデマンド教材として発信（全5回の動画）。その他、ライティングに関する Q&A、ライティング基礎知識についての不定期投稿、イベント情報などを配信。
- Twitter (@sla\_tomosodachi) や HP を中心としたオンラインでの学習情報の発信
  - フォロワー数 2023年2月15日現在 1865名
  - 物理・化学：主に1年生に向けて、学びに役立つ情報を投稿。
  - 数学：「数学部会の挑戦状」と題して、発展的な問題を出題。複数の回答が寄せられた。
  - 英会話：日常会話の中で使える便利なフレーズやおすすめの学習方法などを、twitter で頻繁に発信 (@SLAenglish)
  - 企画：「SLA イベント企画チーム」アカウント (@sla\_event) の運用開始。SLA 主催イベント案内や大学生活に役立つ情報を発信。
- 講義棟や M 棟内でのポスターやチラシ掲示
  - SLA の周知・利用促進のため、サポートのスケジュール、学びのヒントやオンライン対応案内などをポスター掲示（一部）



## 9) SLA 研修

- 活動説明会・活動報告会等の実施
  - 前期
    - ・ 4/7 新任 SLA 研修会（対面実施）・ 前期活動説明会（オンライン開催）
    - ・ 8/9 前期活動報告会（オンライン開催）

- 後期
  - ・ 10/5 後期活動説明会（オンライン開催）
  - ・ 2/15 後期活動報告会（オンライン開催）

#### 10) 『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2023』の作成

- 全学部 1 年生に配布。学習支援センターの利用案内、大学で学ぼうえで役立つヒント等を紹介。活動説明会・活動報告会等の実施。
- 留学生向けに、『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2023 for international students』を、オンラインガイドブックとして作成。昨年度同様、英語版と日本語版の二種類を作成。



### 3. 歴代センター教員による論考

#### 私が SLA のマネジメント業務の中で重視していたこと

千葉大学大学院国際学術研究院 縣 拓充

##### 1. はじめに

私は、2018 年度から 2021 年度にかけて東北大学学習支援センターに在籍した。その約 4 年間のうち、前半の 2 年と後半の 2 年は全く異なる活動であったと言える。すなわち後半の 2 年は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、オンライン／リモートでの活動が中心となった。その間は、いかにオンラインでの学習支援の仕組みを構築するか、あるいは、感染状況が落ち着いた際にどう対面での活動と両立させていくかということに注力することになった。

これらは 2020 年度の紀要論文（縣ほか，2021）に詳しいため、本稿では前半 2 年間の中で、SLA のマネジメントにおいて特に意識したこと、重点的に取り組んだことについて考察を行う。ただし、それらはリモートでの活動時にも意識されたことだと言える。

##### 2. 相談対応のマネジメント

SLA による学習相談の対応は、学習支援センターの中心的な活動である。私が着任した当初、特に印象深かったこととして、相談対応面での運営に関わる情報の蓄積とともに、SLA の育成・支援のための精緻なシステムが構築されていたこと、そして、学習支援に対して熱意を有し、各領域で高い専門性を持ったユニークな SLA が多数存在していたことが挙げられる。ここでは、それらの土台があった中で私が特に意識したことについて、4 点述べる。

###### 1) 「教員－学生」という関係性ではなく、フラットな立場で接する

一つは、各 SLA に対し、「育成・教育」の対象として接するのではなく、できるだけフラットな関係性でコミュニケーションを行うことが挙げられる。前提として、理系科目や英会話担当の SLA は、科目内容や効果的な学習方法などについて豊富な知識を持っている。それらについて、こちらから教えられることはほとんどない。さらに採用時には面接・試験を実施し、科目に関わる理解とともに、学習支援に関わる適性や熱意があることも確認している。そのためほとんどの SLA は、利用学生に教えすぎないことや対応中の時間のマネジメントなど、最低限のことを理解してもらえさ



えすれば、基本的には採用後すぐに対応を行ってもらっても、十分に学習支援者としての役割を果たすことができるという感覚を抱いていた。

そこで私は SLA を「育成の対象」として見るのではなく、特に相談対応の面では信頼し、できるだけフラットな「仕事上のパートナー」という関係性で接することを心がけた。それにより、SLA にはより責任をもって伸び伸びと対応に当たってもらえる上、センターの活動について屈託ない意見も得られやすかったと考えられる。

なおこの点に関連して、センターが SLA に課していた育成目的のタスクが過多であるという印象があった。もちろん、活動について定期的にリフレクションを行うことも重要であるが、それらがあまりにも多い場合、SLA たちの主体性を奪ってしまう懸念がある。そこで、ベテランの SLA や他のスタッフの意見を聞きながら、センターから SLA に課していたタスクを取捨選択していくことも行った。

## 2) 個々の SLA が持つ支援の考え方やスタイルを尊重する

SLA が相談対応の中で採用する支援の方法に関しても、それぞれの考え方をできる限り尊重した。SLA たちは、個々に異なる学習の履歴を持っており、担当科目に関わる学習観や学習方略、あるいは支援のスタイルも様々である。例えば物理の学習の際、「現象のイメージをつかむこと」を重要視する SLA がいる一方で、過去にそれを苦手としていた SLA は、「まずは問題を解きながら、数式の意味を理解してもらおう。イメージはその繰り返しの途中で徐々に持てるようになっていく」と語っていた。また、下級生相手に丁寧に接する SLA がいる一方で、利用者が気軽に相談できるようにと、敢えて友人と話すようにカジュアルに（タメ口で）接する SLA もいた。英会話に関しても、SLA によって対応の中で重視するポイントは異なる。それらはいずれも間違いではなく、また SLA 自身のキャラクターや、利用学生によってどういったサポートが効果的かという相性も存在する。それゆえ、多様なタイプの SLA が在籍している状態は好ましいものと考え、基本的にはそれぞれの持つ学習観や支援の方略を尊重した。

ただし、学習支援者としてより成長してもらうために、他の SLA による多様な対応場面を知る機会を設けることで、それぞれの対応方略を相対化させるよう促した。結果として、「やはり自分はこの方法の方が合っている」と捉えてもいいし、「この方法を取り入れてみようかな」と試し、対応の引き出しに加えてもよい。このような SLA 相互の学び合いを促すために、効果的なインタラクションの生起が期待されるシフトの組み合わせにすることを心がけ、またベテランの SLA にはそのような交流を積極的に持つよう協力を要請した。

## 3) SLA 同士の交流を促す

私自身、学習支援センターに着任して最も面白かったのは、多様な学問領域の大学院生や、学部

生たちと接することができた点である。例えば、それまでに接点のなかった物理学科や数学科の学生たちが取り組んでいる研究内容や考え方について話を聞くことは、私にとっても大変に刺激的であった。SLA たちには、SLA になったことの一つの特権として、そのような学際的な交流を楽しんで欲しいと考えた。そして、そのような多様性を面白がれることや、それぞれが有する専門性にリスペクトを持てることは、SLA 全体のチームビルディングの基盤になると考えた。

私が着任した当初は、相談対応のない SLA には、部会（同じ教科を担当とするチーム）ごとに定められたタスクを求められがちだったが、上記のような狙いもあり、私は部会を越えた交流を推奨した。例えば、新しい企画や広報物を作成する際にも、他部会メンバーの眼を入れることを促し、対応後のミーティングでは、教科の支援に関わることよりも、SLA 全体で共有できることの議論に重きを置いた。その他、私が SLA 向けの研修を企画・実践する際は、ほぼ全ての会で、SLA 間の交流を目的の一つに位置づけていた。このような学際的な交流や協働の機会は、研究者や社会人としてのその後のキャリアにも生きるものだと考えられる。

#### 4) SLA が楽しんで活動を継続するためのサポート

ある意味で、SLA にとっての最大のミッションは、利用学生に学ぶ楽しさを伝えることである。そのためには、SLA 自身が気持ちよく、前向きに学習支援の活動に取り組み続けられることが何よりも重要である。

そこで、文字通りセンターの雰囲気を楽しく風通しのようなものにすることに配慮した（この点が実現できたのは、私よりも他のスタッフの貢献が大きいと感じる）。また、センタースタッフの間で分担しながら、各シフト内に個々の SLA と話をする機会をできるだけ設け、各 SLA が対応や活動の内外で抱えている小さなモヤモヤや違和感をできるだけ貯めず解消できるよう心がけた。

### 3. 相談対応以外の活動

上述したように、相談対応の面では、基本的には SLA に主導権を委ね、SLA 同士で学び合うような関係性や文化の醸成・維持に力点を置いた。それに対し、部会運営や新しいイベント企画、学習教材の発信作業等に関しては、スタッフが介入する度合いがより大きかったと言える。以下では、特にスタッフの判断が重要であった場面を取り上げる。

#### 1) 部会活動の計画やイベント企画

SLA の各部会では、 Semester ごとに、相談対応がない際などに取り組む活動を定めている。それらは、相談や教科内容に関わる知見をまとめたり、対応方法に関する検討を行ったりなど、SLA 同士での研修的意味合いを持つものの他、新しい学習イベントや情報発信など、相談対応の利用者以外の層にアプローチした対外的な支援活動が含まれる。

部会活動のアイデアを SLA から引き出すことは、自分たちがやりたいこと、重要だと感じること

を挙げるよう促すことで、比較的容易にできる。他方で、その中からいくつかの活動を選択し、優先順位をつけ、人的・時間的リソースを考慮しながら現実的な計画に落とし込むといった判断は SLA には難しいことが多く、スタッフ側の重要な役割となっていた。

同様に新しいイベント等の企画も、SLA があまり経験を持たず、苦手としていた活動だと言える。そのため、アイデアを生成する段階から、その中でテーマや内容を絞り込み、一つのストーリーのある企画に落とし込んでいくデザインの過程まで、ファシリテーターとなって主導することを行った。

ただし、「結局実施する内容は SLA ではなくセンタースタッフが決める」と認識されては、対等な関係性が壊れてしまう。そのため、こちらが感じた判断基準を十分に説明し、SLA との対話の中で合意形成していくことを心がけた。

## 2) 広報物の作成

SLA は、相談対応の活動に関しては、ほぼ「即戦力」であった一方、広報物や学習素材の作成に関しては、必ずしも習熟しているわけではない。そのため広報物に関しては、スタッフ側で手を入れたり、SLA と時間をかけて議論や修正を重ねたりする必要があった。

例えば、web 等で発信する教材や広報の文章などは、論旨が明瞭でなかったり、難易度が高すぎるものであることも多かった。特に、研究発表や論文執筆の機会が豊富な博士課程の学生に比べ、理系の学部学生はライティング経験をあまり持たない。そのため、文章を作成してもらった際は、専門分野について深い知識を持つ SLA と、初学者である 1・2 年生学習者との間を媒介するメディエーターの役割をスタッフが担い、文章の校正を行う必要があった。

また、イベントのポスターについてデザインの経験やスキルを持つ SLA もほとんどいない。それは美的なセンス以上に、伝えるべき重要な情報を整理し、見やすく注意を引くようレイアウトするという基本的な作法を知らないという側面が大きい。企画したイベントや準備した学習素材を、より多くの学生から興味・関心を持ってもらえるようにするためにも、広報物に関しては大きく手を入れた。

## 4. おわりに

ここまで、SLA のマネジメント業務の中で、私が心がけてきたことや実践してきたことを紹介してきた。主となる相談対応の活動に関しては、SLA たちに気持ちよく活躍してもらうための後方支援や、SLA 同士をつなげ、相互の交流や学び合いを促すことに注力した。他方で相談対応以外の部分では、SLA の持つアイデアを引き出しながら、それらを組み合わせ、企画や教材といった形で利用学生へとつなげていくためのファシリテーター、メディエーターの役割を担っていたと考えられる。その際の SLA との関係性は、SLA たちが持つ教科の学習に関わる知識と、認知科学を学問的なバックグラウンドとし、ワークショップや学習イベントのデザインや実践を行ってきた私の経験、

それぞれの得意なものを持ち寄った協働的な活動であったと言えよう。

なお、本稿で紹介したのは、あくまで私がスタッフとして貢献できるあり方を考慮した結果としての連携の形であり、センターの持続可能な仕組みを作ることにあまり意識していなかったと言える。センタースタッフには、異なるバックグラウンドを持った研究者が着任し、当然ながらそれぞれのキャラクターやコミュニケーションのスタイルも様々である。現に、私と同時期に勤務した頼羿延さんや中島啓貴さんも、それぞれ SLA との関わり方や専門性の生かし方は全く異なっていた。また、SLA の構成も年々変化していると考えられる。例えば私の在籍時は、長い期間活動している SLA が多数存在していたため、相談対応に関わる成長は SLA 同士の学び合いに委ねることができたが、そのようなベテランが少なくなった場合、育成や研修のあり方は大きく変化せざるを得ないだろう。さらには、東北大学全体における学習支援センターの役割も今後変化していく可能性がある。

これら様々な変動しうる要素を考慮すると、一つの持続可能な仕組みを構築するよりも、その時々でのセンターの中で最適なあり方を探り続けるしかないようにも感じられる。もっと言えば、時代によって学習支援センターのあり方は移り変わっていったよと考えているし、その方が面白い組織であり続けられるのではないかと思う。今後学習支援センターがどのように展開されていくのか、遠巻きに楽しみに眺めていたい。

## 引用・参考文献

縣拓充・中島啓貴・佐藤智子・芳賀満（2021）「学習支援センターにおけるオンライン学習支援システムの構築：新型コロナウイルス感染拡大への対策として」、『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』，第7号, pp. 109-122.

# SLA サポート運営の心がけ

愛媛大学大学院理工学研究科 中島 啓貴

## 1. はじめに

SLA は学部 3 年生以上の先輩が、主に学部 1・2 年生の後輩の学びをサポートする組織である。私は学部 3 年生から博士後期課程までの 5 年間数学担当の SLA として活動し、博士後期課程修了後は助教として約 3 年間 SLA サポートの運営に携わることができた。私は合計で約 8 年間 SLA サポートに関わったことになる。本記事では、SLA サポートに学生としても教員としても関わったという経験を基にして SLA サポートの運営について検討を行う。

## 2. 干渉しすぎない、しかし困っていたら相談に乗る

まずは、SLA サポートを運営する上で私が最も大切にしていたポリシーについて説明する。SLA たちは「東北大学の学生の自律的な学習」が進むようにそれぞれが考えて、個別対応の準備や資料の作成をしている。まずは、各 SLA の活動あるいは各担当部会での活動を尊重することが大切である。教員は立場が上なので、SLA に対して指示を出すと基本的には教員の方針が尊重されてしまう。したがって、SLA たちと教員とでともに SLA の活動を作り上げようとするならば「指示を出しすぎない」ことが大切である。ただ、学生が教員の方針からあまりにも逸れている、あるいは逸れそうという場合にはできるだけ早い段階で対話を行ったり、教員によるお手本を見せたりすることでより適切な方針に修正を行うことが望ましい。教員が提案をする場合は、あくまでひとつの提案であることを明示するなど「SLA たちが自分たちで活動内容を考える」ことを阻害しないように注意したい。

また、SLA たちが上手く活動を進められているときはよいが、そうでないときには相談に乗る必要がある。そのようなときにはまずは SLA たちの話をよく聞くことを大切にする。例えベテランの SLA でもあまり今まで行ったことがない活動を行っているときや、現状の活動に満足せず今後の方針を検討しているときなどに悩んでいることがある。そのような際に気軽に相談できるように、相談しやすい雰囲気を作っておくことが大切である。日頃から適度に SLA たちと話をできるだけ様子を把握しておきたい。

### 3. SLA の目標は成績不振学生の救済に限らない

次に SLA サポートの方針のうち、誤解されやすい点について検討する。学習支援と聞くと「成績不振の学生に教える」ことを想像しがちだが、SLA サポートの設立の動機は実は必ずしもそこにはない。「成績不振の学生に」というのも「教える」というのも SLA サポートの目標からは少し逸れている。SLA サポートの目標は、成績不振の学生に限らず「すべての学生のレベルアップ」をすることにある（足立 2018, p. 7）。すなわち、学習に困っていても困っていなくても学生の学びをより高いレベルのものへ誘導するというのが SLA サポートの根源的な目標である。これは SLA サポートについて誤解されがちであるから、SLA サポートの運営をする際には特に注意したい。

学習に困っていない学生というのは、学習支援組織を利用しようと思うモチベーションが薄いため利用があまり見込めない。このような層にどのようにアプローチするかは SLA 活動の大きなテーマである。

### 4. SLA 育成やセンター運営に関して取り組んだこと

SLA 育成に関して取り組んだ特筆すべきこととしては、SLA たちに毎週できるだけ『学習支援ハンドブック』の内容紹介をしたことである。学習支援ハンドブックには過去の SLA やスタッフたちの知見が詰まっており、とても参考になる。しかし資料というものはまず「ある」ということが分からなければ参照されない。さらに、あるということを知ってたととしても、何か業務で困るなど読みかけがないと後回しにされることが少なくない。したがって、毎日の SLA シフトの始礼の時間に学習支援ハンドブックから内容を一つピックアップして紹介した。シフトの終わりには、今日は始礼で紹介していたポイントに気をつけて対応できたとの報告が何度もあったので効果があったものと考えている。また、これは他の資料に関しても同様であるので、有益な情報や資料があれば始礼や部会ミーティングなどで積極的に紹介するとよいだろう。

また、SLA サポートの目標である「困っているわけではない人も含めた全体のレベルアップ」を念頭に、ホワイトボードによる双方向交流の掲示板を提案した。数学部会や化学部会が「ホワイトボードにお題を出して、ホワイトボードを見かけた学生がアイデアを書き込む」という形式の活動を行うことができた。お題の内容や時期などによって盛り上がり方が変わってくるが、面白い試みができたと思っている。

### 5. 「教える」のか「考えさせる」のか

最後に、SLA 4 つの行動指針について検討する。これは SLA が活動を開始する際に重要な指針として必ず説明を受けるものである。具体的には「1. 問題ではなく人を見る」「2. 答えを教えるのではなく考えさせる」「3. 個の力だけでなくチーム力を大切に使う」「4. SLA のあり方を共に考える」の 4 つであり、『学習支援ハンドブック』の p.56 にも記載されている。これについて SLA 生活 8 年間で解釈が深まったと思うので言及しておく。

「1. 問題ではなく人を見る」について、これは文字通りに真に受けると「問題をみるな」となってしまうがそうではない。利用者が質問に来ると、どうしても新人 SLA は学生が持ってきた問題を自分で解きたくなってしまふ。だが、SLA が問題を一人で解決してしまつては利用者の成長につながらない。よつて、問題をみながら利用者から状況を色々聞いてみるのが大切である。特に、利用者は結構手前の段階で困つてることが多いので、そこを把握・解消して続きを利用者自身で取り組めるようにすることが理想である。

「2. 教えるのではなく考えさせる」についても、真に受けると「教えるな」となつてしまふがこちらもそうではないと私は理解している。「教える」と「考えさせる」両方に長所と短所があるが、経験の浅い SLA たちは「教える」しか選択肢を持っていない場合が多い。したがつて、「考えさせる」という選択肢を常に意識させるための合言葉と私は考へている。「考えさせる」コツとしては、「利用者に説明してもらふ」「利用者からよく話を聞く」というところから始めると良い。「自分で説明する」「自分で考へる」という経験が長期的な成長に効果的なことは多い。ただ、教えることが有効な場面もあるので利用者の成長を第一に考へて「教える」のか「考えさせる」のかを選択してほしい。

「3. チーム力を大切にする」について、私はブリーフミーティングや部会ミーティングで各 SLA の自己紹介の機会を多く設けた。これは、SLA にはこのような面白い分野を学んでいる人がいるということを認識し、もっと知りたい・話してみたいと思つてもらふためである。交流により SLA たちが自身の知的好奇心を刺激し、学習や知識の幅を広げてほしい。

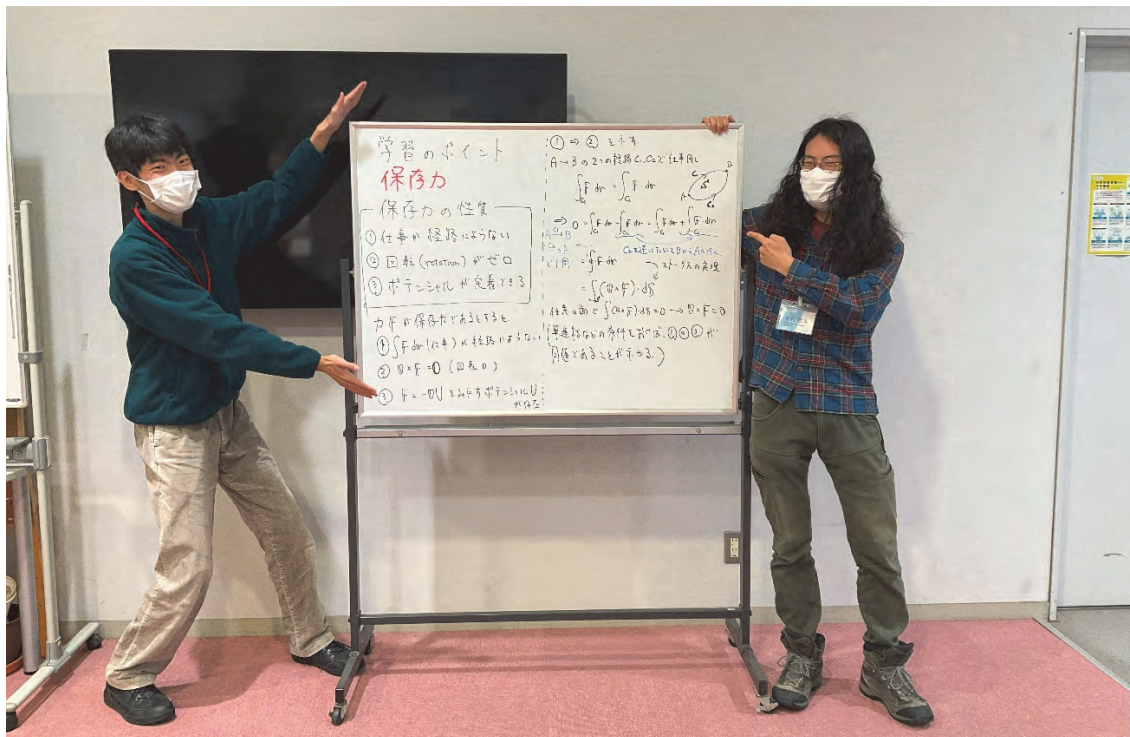
「4. SLA のあり方についてともに考へる」について、これは SLA のあり方にこれといった正解はないということを示している。これが SLA の難しいところであり、また素晴らしいところでもある。ぜひ色々試行錯誤しながら、SLA の活動を通じて学生・教員ともによりよい学びを追い求めていってほしい。SLA サポートに関わるみなさんのさらなる活躍を楽しみにしている。

#### 引用・参考文献

足立佳菜（編）（2018）『学習支援ハンドブック：理系チュータリング Tips とチューター育成』東北大学学習支援センター（[http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/wpsys/wp-content/uploads/2019/04/gakushusien\\_handbook.pdf](http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/wpsys/wp-content/uploads/2019/04/gakushusien_handbook.pdf)）



写真：SLA ラウンジでの対面活動の様子



写真：理系部会の活動の様子



## 4. 研修実績報告

### || Summary ||

#### ■活動説明会

活動説明会は、前期は2022年4月7日、後期は2022年10月5日にオンライン実施した。それぞれの活動説明会では、今年度の重点目標として「1. 自律的な学習態度形成の支援に向けたリフレクションの充実」と「2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進」することの2点を共有した。ここ数年はオンライン対応が中心であったが、2022年度には対面対応へと形式を少しずつ戻しつつ、状況やサポートの特徴に応じてオンライン対応を積極的に選択していくという両立が強く求められる時期であった。そのような事態のなかで、学習支援の質探求を主軸に置いた目標を打ち立て、SLA自身の力量形成や学習コミュニティ（ネットワーク）の構築の重要性をSLAと共有し、ディスカッションを通して理解を深めた。

#### ■活動報告会

前期活動報告会は2022年8月9日、後期活動報告会は2023年2月15日に実施した。活動報告会の目的は、主に以下の3点である。第1に、活動説明会で全SLAに共有した重点目標に基づき、各セメスターの活動をふりかえり、そのふりかえりの内容をSLAが相互共有することである。第2に、ふりかえりに基づき、次期活動に向けた成果と課題を整理する。第3に、通常勤務では交流機会の少ないSLA同士の交流の場とすることである。半期のSLAの活動概要と利用者の傾向分析を共有し、各部会から活動報告を行った上で、活動の全体的なふりかえりとSLA相互の交流を行った。

## 1 活動説明会

1. 前期活動説明会：2022年4月7日（木）16:00-18:00

<b>本日の予定</b>	※ 録画します
挨拶・趣旨説明	10分 16:00-16:10
自己紹介	40分 16:10-16:50
▶ 各部会紹介	
▶ 新メンバー自己紹介	
センターより	20分 16:50-17:10
▶ 今期の活動形態など	
ディスカッション	40分 17:10-17:50
まとめ・感想入力・写真撮影	10分 17:50-18:00

## 活動説明会の目的

- **今年度のSLAの仲間を知る**
  - これから半年間、一緒にSLAとして活動する仲間を知りましょう！
- **今年度の学習支援センターの取組方針を共有する**
  - センターの一員として、SLA全体の共通目標を理解し、具体的な活動の在り方を一緒に考えましょう！

## センタースタッフ

### センター長

芳賀 満 高度教養教育・学生支援機構 教授  
 専門:ユーラシア大陸考古学

### 副センター長

佐藤 智子 高度教養教育・学生支援機構 准教授  
 専門:教育行政学, 生涯学習・社会教育論

### センター員

中島 啓貴 高度教養教育・学生支援機構 助教  
 専門:数学, 幾何学

新井 庭子 高度教養教育・学生支援機構 助教  
 専門:人文社会情報学, 計量言語学

堀越 徳子 教育・学生支援部教務課 事務職員

6

## 継続メンバー自己紹介 & 部会紹介

- 部会ごとに全員マイクをオン
- 一人30秒ずつ, 順に自己紹介
  - 名前
  - 所属・学年
  - 一言(ひそかなこだわり, つい夢中になってしまうことetc)
- 誰かが代表して, 部会について紹介
  - 部会の雰囲気, 前期の活動内容などの紹介

8

2022年度

## 学習支援センター 重点目標

1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

11

### 1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実

- リフレクションをしっかりと行う
  - SLAの強みは利用学生の生の声が聞けること
  - 対応の振り返りから得た知見を発信
  - 対応に正解はない → より良い対応の模索
- リフレクションを充実させ、**1・2年生に学びの転換を促し、自律的な学習者になってもらう方法の検討に力を入れる**

12

## 2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

- 学内(外)にいる様々な人が出会い, つながり, 学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？
  - 先輩・後輩   ▪利用者同士   ▪異領域の学生同士
  - 留学生と日本人学生   ▪他にも...
- 特にコロナで希薄になりがちなSLA同士のつながりも促進

13

## ◆勤務場所

### 勤務・対応場所

#### 【理系】

- BCP1以下の場合
  - 川内北キャンパス・M棟での対面による対応
- BCP2以上の場合
  - オンライン中心

#### 【英会話】【日本語会話】

- リモートでのオンライン対応

#### 【ライティング】

- 対面とオンライン併用(対面はBCP1以下)

15

## ◆対応形態

### 【理系】

- ・ BCP2以上: オンライン
- ・ BCP1以下: 対面

### 【英】【日】

- ・ オンライン

### 【ライ】

- ・ BCP2以上: オンライン
- ・ BCP1以下: 対面・オンライン併用

## ◆オンライン対応

- ・ 予約方法
  - ・ オンラインでの事前予約制
  - ・ 対応3時間前まで予約可
- ・ 対応時間
  - ・ 理系・ライティング45分
  - ・ 英・日30分
- ・ サポートの方法
  - ・ 基本はmeet。URLはサポ室から送付

## ◆対面对応【理系】【ライ】

- サポートの予約
  - 予約不要。利用したい時に来てもらう(drop-in)
  - オンラインでの対応は、問い合わせがあれば対応
- 対応時間
  - 基本は45分 最長で60分
  - 延長する場合はスタッフに相談

18

## ◆出勤確認フォームについて

- 出勤・退勤時にGoogle Formにて回答
- 始礼・ブリーフミーティング時にリマインドします
- 詳細は初回時に！

## ◆勤務時間の見直し

- 研修の勤務時間の扱い
  - 半額支給 → 全額支給
- 通常シフト10分休憩なし
  - 明示的に休憩をとることが難しいため
- 通常シフト
  - 3.5時間 → 3時間or4時間
- 部会ミーティング
  - 1.5時間 → 1時間or2時間

## ◆シフト内の活動(4,5月)

- 基本は昨年度と同様に、4・5限の時間に活動
  - **始礼 プリーフミーティング**: 全体meetにて実施
- 4,5月は3時間、それ以降は4時間の勤務

	理系科目(対面)	その他(リモート)
3限 (13:00~14:30)	始礼 14:30~14:35	始礼 14:30~14:35
4限 (14:40~16:10)	対面での対応 14:45~17:00	オンラインでの対応 14:45~16:45
5限 (16:20~17:50)	※最終受付は16:50 BM 17:15~17:30	※各科目 予約は3枠 BM 17:15~17:30

21



## ※始礼・ブリーフミーティングとは

### **BMTG** :対応の中での気づきの共有や相談の場

- ①その日に行った活動を簡単に報告
- ②その日の活動の中で得られた**気づきや相談したいことを中心に。**
  - ・ 対応に関わる新しい気づき, 難しかったこと, もやもやしたこと, こういうケースはどうしたらいい?という疑問や悩み など
- ③シフトや部会を超えて**共有すべきこと**
  - ・ 増えそうな質問, また来そうな利用者, テスト情報 など

### **始礼** :その週の活動を行う上での確認の場

- ①前週の気づきや共有事項の確認(前週のBMTGを受けて)
- ②その週の予定, 意識して欲しいこと
- ③その他連絡事項

22

## ◆スタッフのサポート体制

### **【ライティング】【英会話】【日本語会話】**

- ・ スタッフでは基本, 佐藤・堀越が対応
  - ・ 対応のない時間は, 昨年度と同様に全体meet or 部会meetに
- ・ 利用者がmeetに入っていない場合
  - ・ 10分程度は待機 & **予約一覧表に「キャンセル」と記入**
  - ・ 無断キャンセルが続いた場合は, サポ室からメールします
- ・ meetは利用者の許可があれば録画
  - ・ 定期的にビデオリフレクションを!

23

## 【理系】

- スタッフでは基本、新井・中島(＋堀越)が対応  
※ 新井は月曜、中島は木曜不在
- コロナ対策のため、できるだけ自分のPCやヘッドセットの持参を
  - 空いた時間の部会作業、始礼・BMIに使用
  - 利用者からの問い合わせに応じてオンラインでの対応をお願いすることも
- 勤務マナー
  - 遅刻厳禁
  - 食事は済ませてきてね
  - 清潔第一、服装や寝ぐせにも気をつけようね！

24

## ◆企画部会について

- 昨年度に引き続きシフト制
- 他のSLAとの連携
  - ブリーフミーティングに参加
  - 対面での活動も

25

## ◆感染防止対策

### • 空間の3密対策

- ラウンジは、SLA利用者以外は立ち入り禁止
- SLAはラウンジを広く使い、分散して対応



### • 飛散防止

- アクリルの仕切りを使用
- SLAも利用者もマスクの着用必須

### • その他

- SLAは出勤したらまず消毒&検温
- 消毒液, おしぼり(机拭き用)を用意

26

## ◆環境面の準備・サポート

### • 希望者にはサポ室のヘッドセットを貸与

### • リモート組で、M棟勤務したい人は連絡を

- 前後の授業の都合・自宅の通信環境が悪い場合など

### • 自動車通勤の人がいたら連絡を！

- 川内北キャンパスの入構許可申請が必要になります。

27

## ◆今後の予定

- 4/13(水) シフト案通知
- 4/15(金) シフト最終決定
- 4/18(月) 対応開始!!

現在BCP2 → 当面はオンライン対応

4月中は新入生向けイベント検討中のためイレギュラーな動きになるかも

## ディスカッションテーマ

### なぜSLAが必要なのか なぜ東北大生に必要なのか

- 自律的な学習をするのになぜ支援が必要か
- どういう状態の人に、なぜ必要か
  - 単位を落としそうな学生？
  - 進んだ勉強をしている学生は？
- なぜ1年生に必要か？留学生は？
- 必要なことを自覚していない場合は？

## ◆写真撮影、フォーム記入

- 本日の活動説明会やディスカッションを振り返るためにリフレクションフォームの記入をお願いします。
- ディスカッションの振り返り部分については(氏名は伏せますが)後日ピックアップしてSLA全体で共有する予定です。

## 本日の予定

挨拶・趣旨説明 15:00-15:10

自己紹介 15:10-15:50

- ▶ 各部会紹介
- ▶ 新メンバー自己紹介

センターより 15:50-16:10

- ▶ 今期の活動形態など

ディスカッション 16:10-16:45

まとめ・感想入力・写真撮影 16:45-17:00

3

## 活動説明会の趣旨

- 今年度のSLAの仲間を知る
  - これから半年間、一緒にSLAとして活動する仲間を知りましょう！
- 今年度の学習支援センターの取組方針を共有する
  - センターの一員として、SLA全体の共通目標を理解し、具体的な活動の在り方を一緒に考えましょう！

5

2022年度

## 学習支援センター 重点目標

1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

12

### 1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実

- リフレクションをしっかり行う
  - SLAの強みは利用学生の生の声が聞けること
  - 対応の振り返りから得た知見を発信
  - 対応に正解はない → より良い対応の模索
- リフレクションを充実させ、**1・2年生に学びの転換を促し、自律的な学習者になってもらう方法の検討に力を入れる**

13

## 2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

- 学内(外)にいる様々な人が出会い、つながり、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？
  - 先輩・後輩
  - 利用者同士
  - 他学部・分野の学生同士
  - 留学生と日本人学生
  - 他にも...
- 特にコロナで希薄になりがちなSLA同士のつながりも促進

14

## ◆勤務場所・勤務時間

- **勤務場所: 全部会 基本的にM棟への出勤**

※ BCPLレベルによって変更の可能性あり

### 【理系】

- 対面による対応

### 【ライティング】【英会話】

- オンラインと対面併用

### 【日本語会話】

- オンライン対応 (SLAはM棟にて対応)

- **基本の勤務時間(企画を含む)**

**15:00-18:00**(3時間分の給与支給)

※ テスト期間は4時間延長予定

15



## ◆オンライン対応形態

【ライ】【英】【日】

- 予約方法
  - オンラインでの事前予約制
  - 対応3時間前まで予約可
- サポートの方法
  - 基本はmeet。URLはサポ室から送付

## ◆対面对応形態

【理系】【ライ】【英】

- サポートの予約
  - 予約不要。利用したい時に来てもらう(drop-in)

17

## ◆シフト内のタイムスケジュール

**15:00** 始礼(M棟出勤・オンライン開催)

15:15 対応開始

16:30 対面最終受付(ラストオーダー)

17:15 対応終了、各部会振り返り

17:40 ブリーフミーティング(オンライン)

**18:00** 退勤

## ※始礼・ブリーフミーティングとは

### **始礼** :その週の活動を行う上での確認の場

- ①前週の気づきや共有事項の確認(前週のBMTGを受けて)
- ②その週の予定, 意識して欲しいこと
- ③その他連絡事項

### **BMTG** :対応の中での気づきの共有や相談の場

- ①その日に行った活動を簡単に報告
- ②その日の活動の中で得られた**気づきや相談したいことを中心に。**
  - ・ 対応に関わる新しい気づき, 難しかったこと, もやもやしたこと, こういうケースはどうしたらいい?という疑問や悩み など
- ③シフトや部会を超えて**共有すべきこと**
  - ・ 増えそうな質問, また来そうな利用者, テスト情報 など

19

## ◆企画部会について

### • 基本シフト制、他の部会と同じ時間帯

メインの活動曜日・時間

**火曜・木曜 15:00-18:00**

### • 他のSLAとの連携

- 始礼やブリーフミーティングに参加

20

## ◆感染防止対策

- 空間の3密対策
  - SLAはラウンジを広く使い、分散して対応
- 飛散防止
  - **アクリルの仕切り**を使用
  - SLAも利用者も**マスクの着用必須**
- その他
  - SLAは出勤したらまず**消毒 & 検温**
  - **消毒液, おしぼり(机拭き用)**を用意

21

## ◆環境面の準備・サポート

- 希望者にはサポ室の**ヘッドセットを貸与**
- **リモート勤務したい人は連絡を**
  - 健康上の不安がある場合など
- **自動車通勤を希望する場合はご連絡ください**
  - 川内北キャンパスの駐車場のパスを発行します  
発行には所定の申請書類の作成が必要です
  - 川内南キャンパスに所属部署がある方は発行ができませんのでご了承ください

22

## ディスカッション

**「自律的な学習態度の形成」とは？**

**利用学生がどんな状態になることを目指すべきなのか？**

- 「〇〇ができるようになったら自律的に学習ができる！」
- 「△△が目指すべきことの第一歩」 など

## 2 活動報告会

1. 前期活動報告会：2022年8月9日（火）14:00-17:00

※ 録画をします

2022年度  
前期活動報告会  
2022.08.09

### 本日の予定

- 学生の利用傾向速報
- SLA活動報告(各部会より)
- ディスカッション
- 活動証明書授与, 卒業プレゼン
- 写真撮影

3

## 2022年度前期 SLA利用者数

< 個別対応型学習支援 >

	2021	2022
延べ数	723	498
実数	300	229

< 企画発信型学習支援 >

	2021	2022
延べ数	152	253

6

< 個別対応型学習支援 >

## 理系 利用の状況(2022)

• 利用者数

(前期)

	2019	2020	2021	2022
延べ数	625	259	248	201
実数	196	95	128	121

• 科目別利用件数(利用者延数)

	2019	2020	2021	2022
物理	174	99	59	60
数学	244	103	124	97
化学	79	33	27	7
総合実験	33	4	15	29
数物	86	19	17	14

8

## 理系 授業別利用者延数(2022)

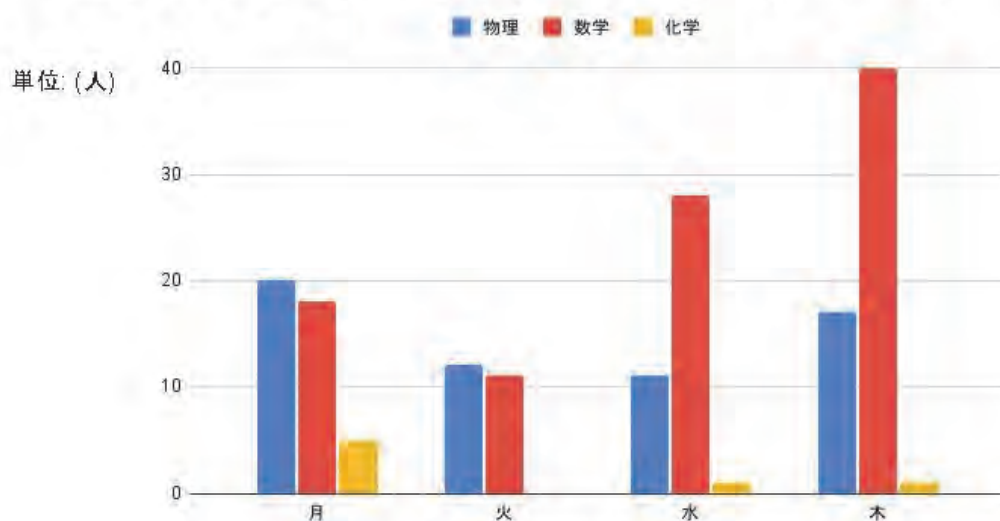
授業名	2019前	2020前	2021前	2022前
1. 物理学A	74	66	45	30
2. 自然科学総合実験	31	4	15	29
3. 解析学A	85	20	28	25
4. 数理統計学	23	13	19	19
5. 数学物理学演習 I	86	19	17	16
6. 解析学入門	-	-	-	11
7. 物理学C	-	9	2	8
7. 解析学C	19	10	4	8
9. 化学A	64	20	17	6
10. 線形代数学A	42	23	41	4
12. 物理学D	61	2	7	3

9

4

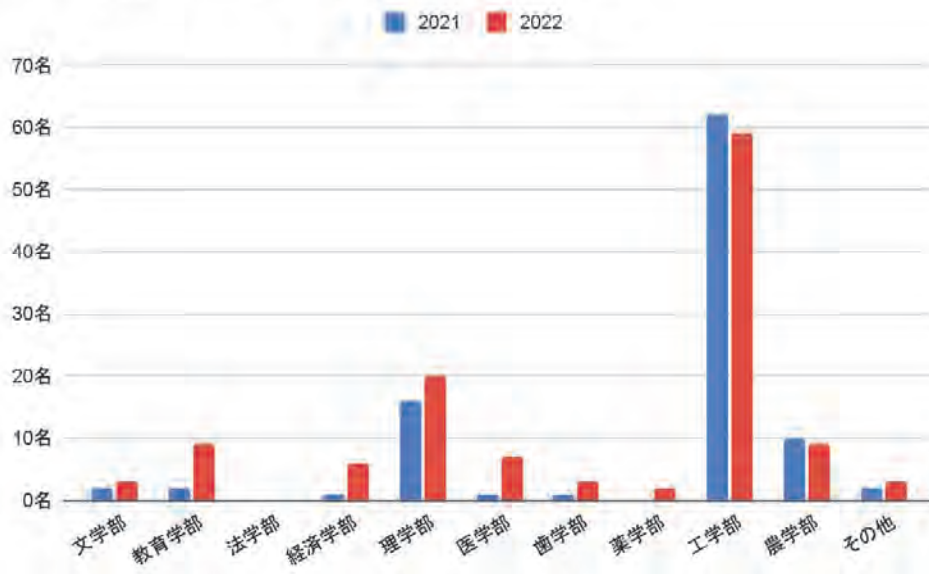
研修実績報告

## 理系 曜日別利用延べ人数(2022)



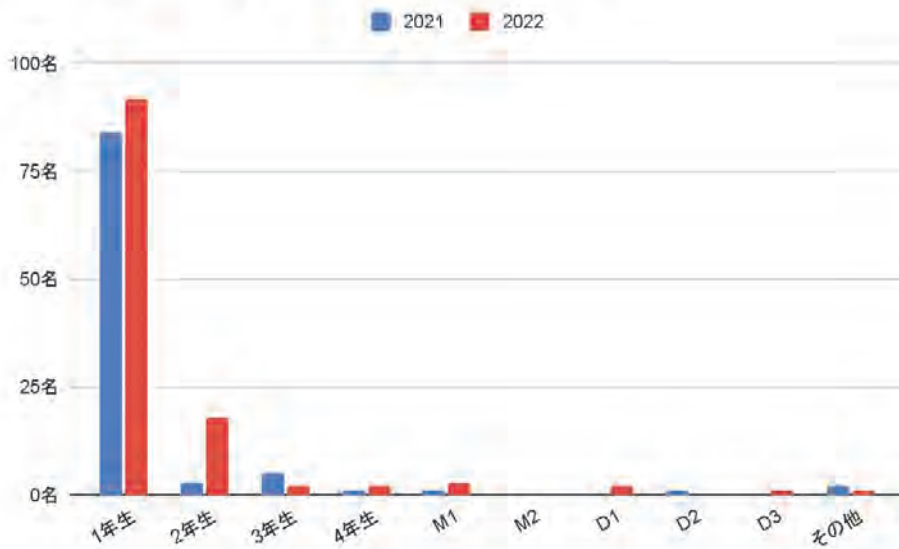
10

## •理系 利用者所属学部(実数ベース)(2022)



11

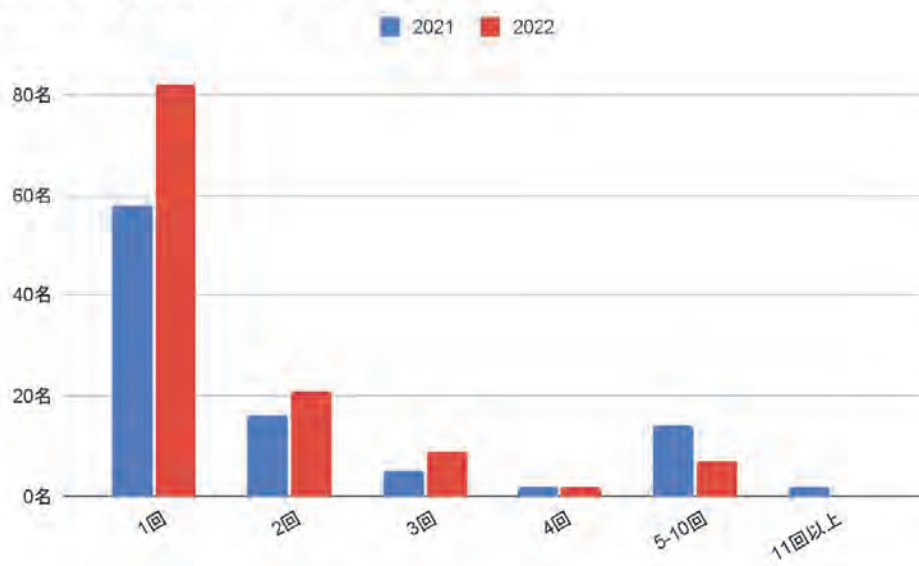
## •理系 利用者学年(実数ベース)(2022)



12



## ・理系 利用回数(2022)



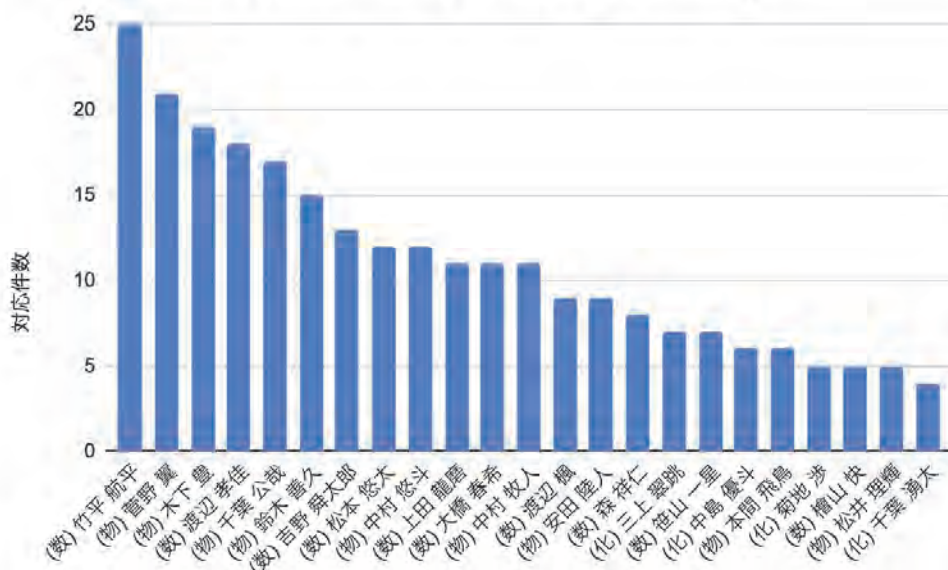
13

## 理系 まとめ

- ・ 物理部会のレポート強化月間の効果大
- ・ 木曜の数学が大盛況
- ・ 教育学部などの統計学が増
- ・ 1~3回利用は増, 5回以上利用は減
- ・ 線形代数Aと化学Aの利用減少

14

## 理系 SLA別 対応件数(2022)



16

< 個別対応型学習支援 >

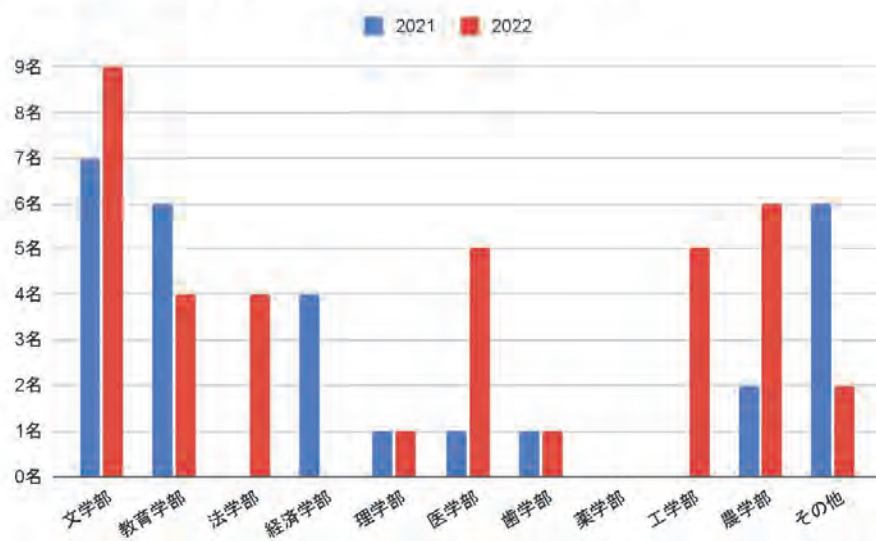
## ライ 利用の状況

• 利用者数 ... 62名 (うち留学生: 31 (実数 37名))

	2019	2020	2021	2022
延べ数 (うち留学生)	146 (31)	42 (22)	115 (25)	62 (31)
実数	82	20	78	37

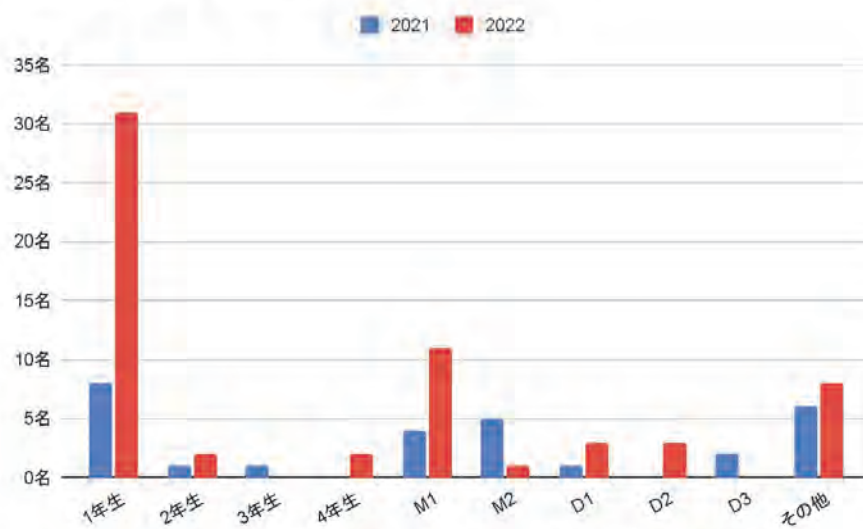
18

## ライ利用者所属学部(実数ベース)(2022)



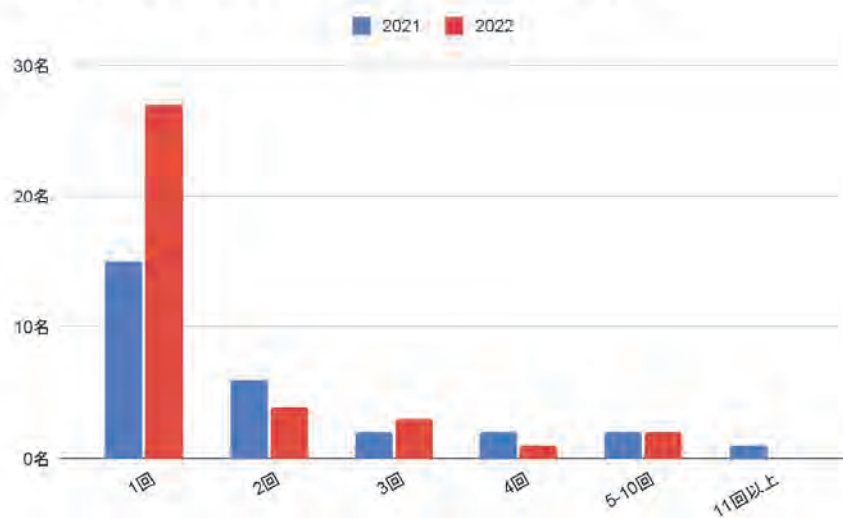
19

## ライ利用者学年(実数ベース)(2022)



20

## ライ 利用回数(実数ベース)(2022)



21

## ライ まとめ

- ・ 実数の大部分は一年生
- ・ 医・工・農・法 は去年利用がなかったが今期は各5名程度利用あり
  - 学問論の効果か
- ・ 延数の約半数が留学生の利用
  - 留学生はリピーター・日本語チェックが多い

22

< 企画発信型学習支援 >

## ライティングイベント(2022)

イベント名	実施日	実施時間	参加人数
上手なパラグラフの書き方	5/30 月	13:20-14:20 / 14:45-15:45	13名
上手なパラグラフの書き方	6/6 月	13:15-14:25 / 14:50-16:00	14名
レポートの正しい書き方 総点検!	6/13 月	13:15-14:25 / 14:50-16:00	18名
良いレポートを計画的・効率的に書く方法	6/20 月	13:15-14:25 / 14:50-16:00	9名
レポート準備室	7/4 月	13:00-16:00	15名
レポート準備室	7/11 月	13:00-16:00	19名
レポートピアレビュー会	7/20 水	13:15-14:15	2名
レポートピアレビュー会	7/21 木	13:15-	3名
			93名

23

4

研修実績報告

< 個別対応型学習支援 >

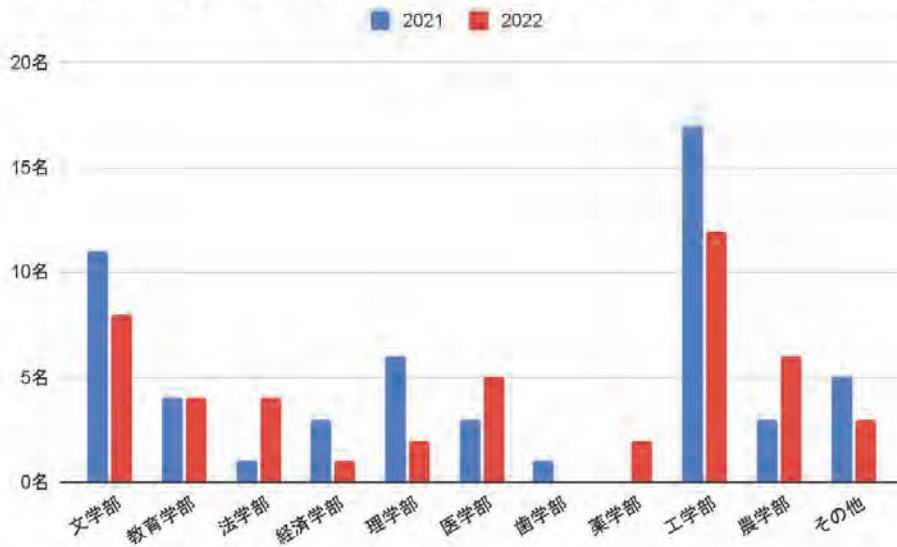
## 英語 利用の状況

• 利用者延べ数... 113名 うち留学生: 19 (実数 47名)

	2019	2020	2021	2022
延べ数	232 カフェ: 188 1on1: 44	164 カフェ: 45 1on1: 119	243 1on1: 243	113 1on1: 113 (うち留学生: 19)
実数	55	69	85	47

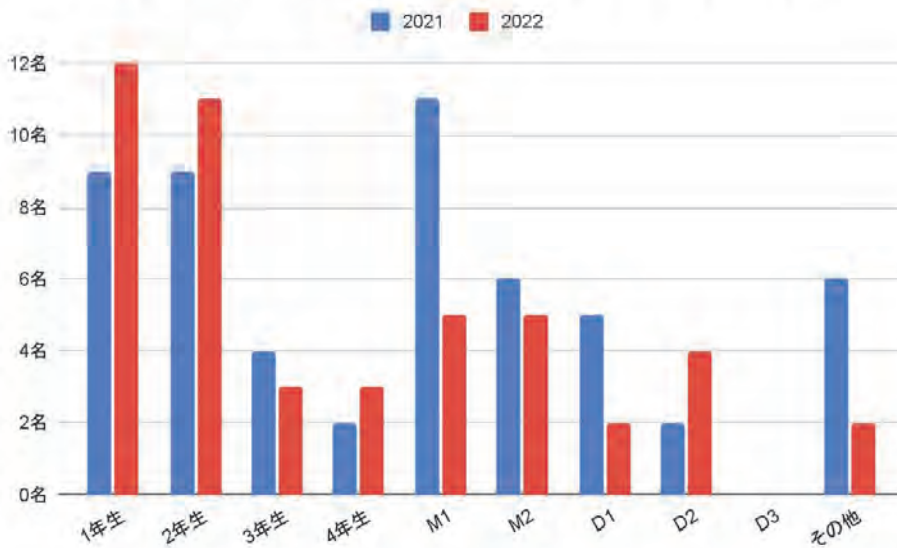
26

## 英語1on1 利用者所属学部(実数ベース)(2022)



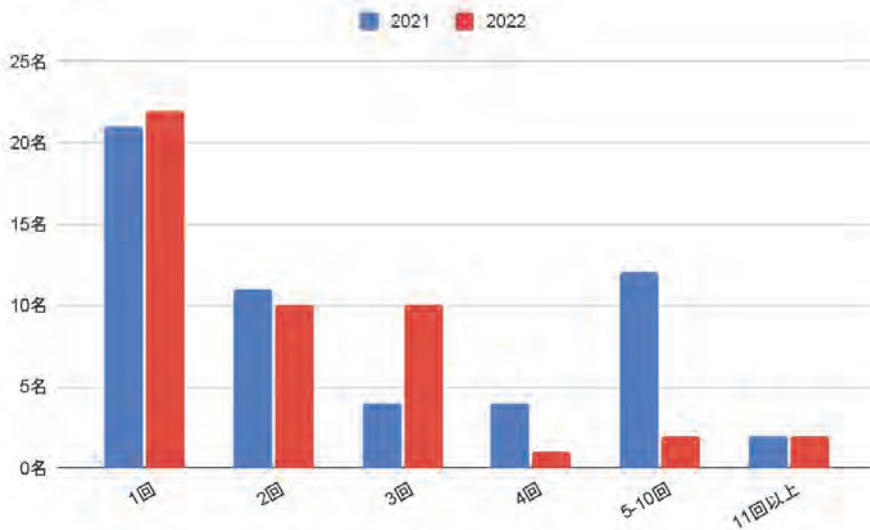
27

## 英語1on1 利用者学年(実数ベース)(2022)



28

## 英語1on1 利用回数(2022)



29

### < 企画発信型学習支援 >

## SLA英会話イベント(2022)

イベント名	実施日	実施時間	参加人数
外国語の学び方、どうしてる? ~先輩学生によるトークセッション	4/18 月	16:20-17:20	31名
外国語の学び方、どうしてる? ~先輩学生によるトークセッション	4/18 月	14:40-16:00	30名
ゲームで英会話しよう!	6/28 火	15:10-16:10	7名
ゲームで英会話しよう!	7/5 火	14:50-15:50	4名
ゲームで英会話しよう!	7/13 水	14:40-15:50	3名
ゲームで英会話しよう!	7/19 火	14:40-15:40	2名
			77名

30

## 英会話 まとめ

- ・ 4月のトークセッション大盛況！
- ・ 対面での活動「ゲームで英会話」ができた
- ・ 学部・学年については去年と傾向変わらず
- ・ 4回以上のリピータ減
  - ・ ゲームで英会話はイベントでの計算
  - ・ 窓口開いている曜日が少なかった

31

< 個別対応型学習支援 >

## 日本語 利用の状況

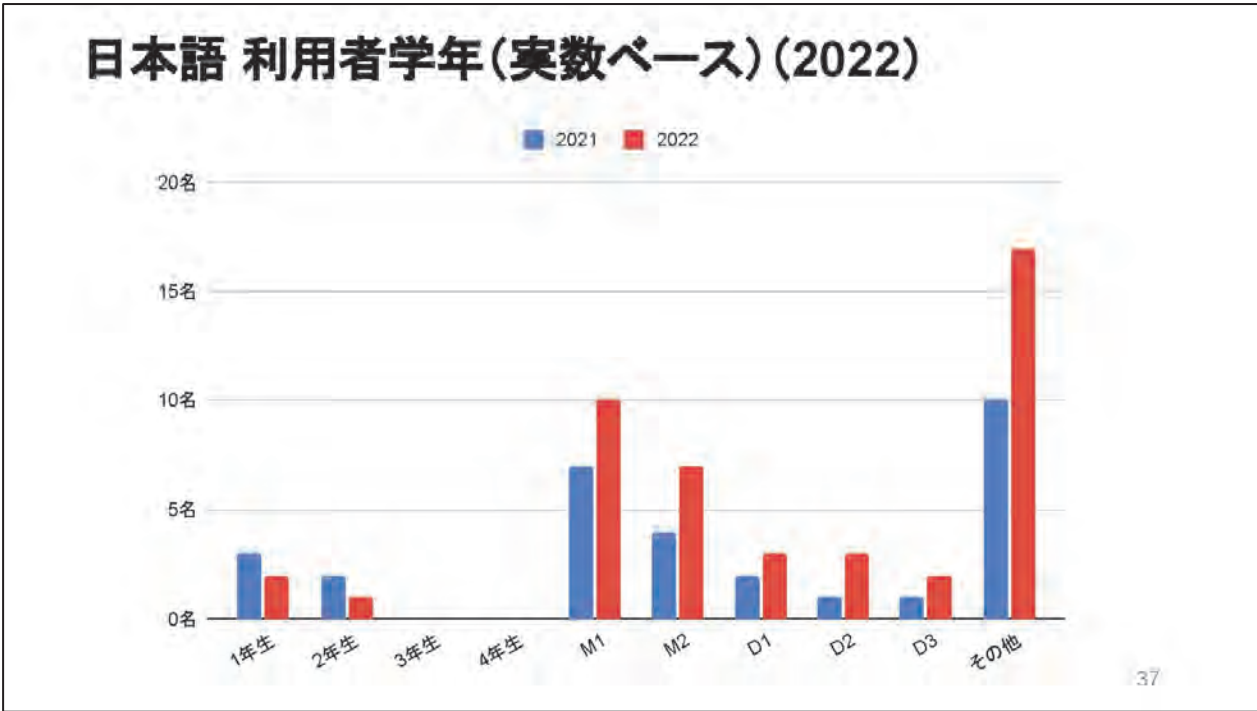
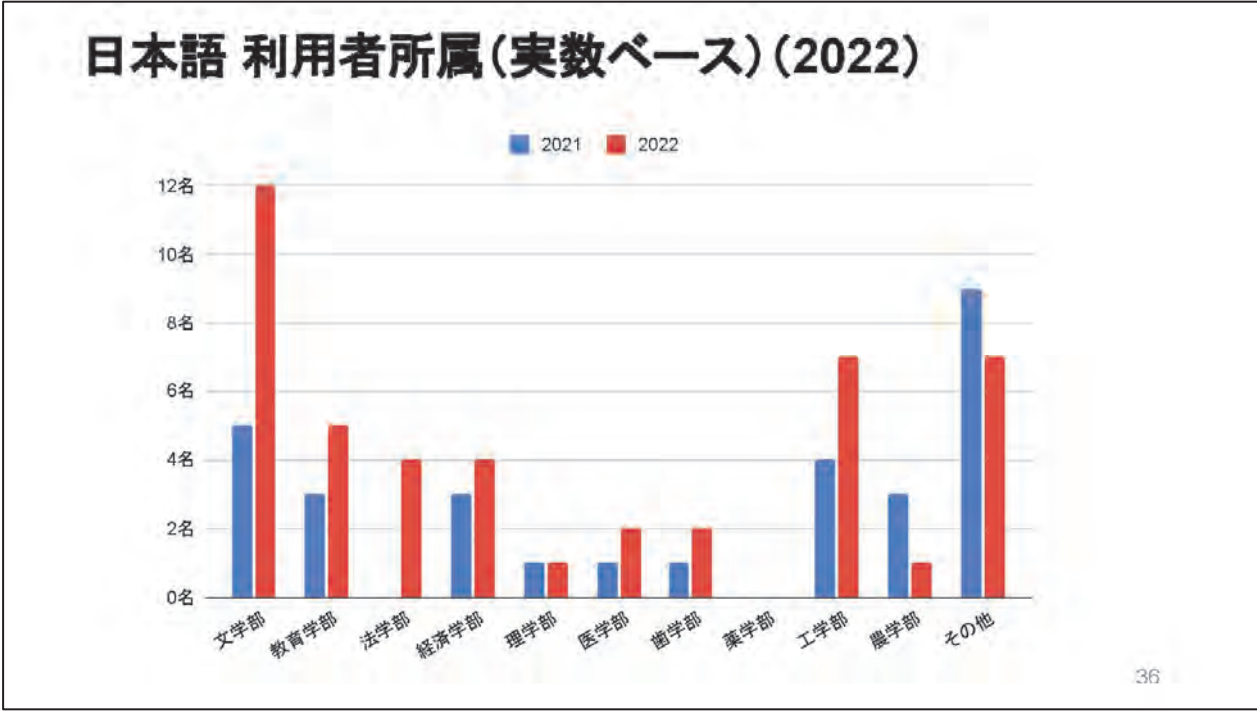
- ・ 利用者数... 123名(実数 45名)

	2020前	2021前	2022前
延べ数	109	116	123
実数	46	38	45

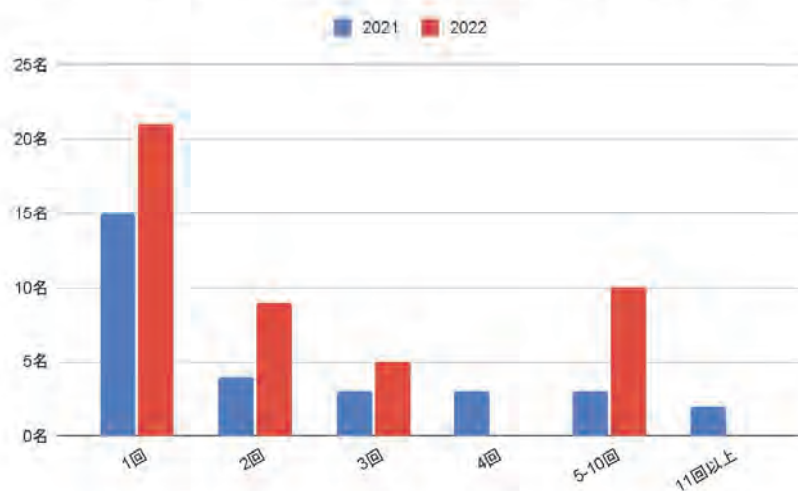
※2019年度までは複数人参加のワークショップ形式  
2020年度からは、1対1での支援

35





## 日本語 利用回数(実数ベース)(2022)



38

## 日本語 まとめ

- ・ 延数・実数ともに増加！
- ・ 特に、5回以上のリピーター増加
- ・ 学部・学年バランスよく増加.

39

## &lt; 企画発信型学習支援 &gt;

## 文化カフェ(2022)

イベント名	実施日	実施時間	参加人数
SLA文化カフェ(文化カフェ kick off (4/19))	4/19 火	16:20-17:30	8名
SLA文化カフェ(文化カフェ kick off (4/21))	4/21 木	16:20-17:35	10名
SLAかんがえる文化カフェ	6/28 火	15:15-16:25	6名
SLAかんがえる文化カフェ	7/6 水	15:15-16:25	5名
			29名

41

## &lt; 企画発信型学習支援 &gt;

## かんがえるソファ

	2020前	2021前	2022前
参加者数	89名 (8.9名/回)	70名 (5.4名/回)	20名 (2名/回)
開催回数	10回	13回	10回

## 学芸員さんと巡る美術館ツアー

	2022前
参加者数	34名 (17名/回)
開催回数	2回

44

< 企画発信型学習支援 >

## 企画(2022)

イベント名	実施日	実施時間	参加人数
かんがえるソファ「大人ってどういう人？」	4/19 火	16:20-17:50	5名
かんがえるソファ「大人ってどういう人？」	4/26 火	14:40-15:50	1名
かんがえるソファ「やりたいことがないときは？」	5/13 金	14:55-16:10	2名
かんがえるソファ「理想について考える」	5/18 水	16:20-17:35	2名
かんがえるソファ「やる気ってどこから来るの？」	5/24 火	16:20-17:35	3名
かんがえるソファ「対面授業ってどう？」	6/15 水	16:00-17:00	2名
かんがえるソファ「どうして人に親切にするの？」	6/21 火	14:45-16:10	1名
かんがえるソファ「"空気を読む"のは良いことか？」	6/29 水	14:55-16:10	2名
かんがえるソファ「"考える"とは？」	7/1 金	16:20-17:50	1名
かんがえるソファ「なぜ"見た目"は大切？」	7/12 火	16:20-17:35	1名
学芸員さんと巡る 美術館ツアー	7/27 水	14:00-15:30	16名
学芸員さんと巡る 美術館ツアー	8/3 水	14:00-15:30	18名
			54名

45

## 利用後アンケート 結果概要

	回答数	80点未満率	平均点	2021前平均点
物理	29	3% (1名)	93.8	93.9
数学	46	9% (4名)	94.3	95.8
化学	6	17% (1名)	91.7	97.8
総合実験	18	0% (0名)	97.8	95.4
数物演習	6	17% (1名)	92.5	95.0
ライティング	15	0% (0名)	98.3	96.7
英語	59	2% (1名)	96.2	97.0
日本語	75	0% (0名)	97.6	99.1
かんがえるソファ	7	0% (0名)	97.4	91.1

46

## 利用後アンケートから

アンケートには対応へのヒントが隠れています。対応の後は確認しましょう！

物理	自分の下手な説明をよく理解していただき、すぐに的確に自分の誤りに見当をつけて下さって、自分に誤っている部分の説明を求めることで自分で気が付くように促していただきました。
数学	とても丁寧に対応していただき、かつ自分で調べたり考えたりすることを尊重して下さったので、充実した時間を過ごすことができました。
化学	まだやってない分野のこともなるべくかみ砕いて説明して下さったのはとてもありがたかったです。
総合実験	質問がはっきりしていなかったのですが、それを汲み取っていろいろなお話を広げて下さったのが良かったです。
数物演習	親切な対応誠にありがとうございました！！
ライティング	丁寧に話を聞いていただけたので、レポートで自分が伝えたいこと、伝えなければいけないことがしっかりと把握できてよかったです。
英語	grammarを意識して話してみるとアドバイス頂き良かったです。listeningはできると言ってもらったのも励みになります。
日本語	笑顔で答えてくれて気軽にできました。日本について様々なことを教えていただけました。特に知らなさそうな言葉はチャットで書いてくれて、とても良かったです。
企画	面白そうなテーマだと思って参加しました。専門分野とも関連付けていろいろと考えるきっかけになったことが良かったです。

## 各部会の報告

## 発表方法

- ・ 各部会, 持ち時間は7分
  - ・ スライドは発表者が画面共有
- ・ 発表順
  - ・ 前半: 物理・数学・化学・ライティング
  - ・ 後半: 英語・日本語・企画
- ・ 前半と後半それぞれで質疑応答の時間を設けます
  - ・ 疑問をメモしながら聞くとGood!

49

## 聞き方

- ・ SLA全体として, 今期どのような活動を行ってきたかを知ろう
- ・ 他部会の活動について気づいたこと, 考えたことをフィードバックしよう
- ・ 自分たちの部会の活動のヒントを得よう. 盗めるものは躊躇せず盗もう

50

# ディスカッション

2022年度

## 学習支援センター 重点目標

1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

52

## 1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実

- リフレクションをしっかり行う
  - SLAの強みは利用学生の生の声が聞けること
  - 対応の振り返りから得た知見を発信
  - 対応に正解はない → より良い対応の模索
- リフレクションを充実させ、1・2年生に学びの転換を促し、自律的な学習者になってもらう方法の検討に力を入れる

53

## 1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実

リフレクション充実のために、SLAができること、すべきことはなんだろう？ 前期を振り返り、課題とそれを克服するアイデアを出しあおう。

- 例：他部会のやり方・部会MTGの進め方などの共有
- 例：部会MTGをより有効に生かすには？ それぞれの部会MTGではどのくらいの頻度？ 何を扱っている？ どんな雰囲気？

54



## 方法

- ・ ブレイクアウトルームを使用
- ・ 時間は40分間
- ・ 時間があれば簡単に発表してもらいます

55

## SLA 2022後期

# センターからの総括

2023.02.15

2022年度

## 学習支援センター 重点目標

1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

## 1. 自律的な学習態度の形成の支援に向けたリフレクションの充実

- リフレクションをしっかり行う
  - SLAの強みは利用学生の生の声が聞けること
  - 対応の振り返りから得た知見を発信
  - 対応に正解はない
- より良い対応を模索し、共有する  
ただ、共有する場の不足が課題
- リフレクションを充実させ、1・2年生に学びの転換を促し、自律的な学習者になってもらう方法の検討に力を入れる

2022後期 センターからの総括

3

## 2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

- 学内(外)にいる様々な人が出会い、つながり、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？
  - 先輩・後輩 ▪利用者同士 ▪異領域の学生同士
  - 留学生と日本人学生 ▪他にも...
  - 言語系は季節イベント、理系はホワイトボード企画などで発信・交流を促進した
- 特にコロナで希薄になりがちだったSLA同士のつながりも、今年度は徐々に醸成・促進できた

2022後期 センターからの総括

4

## a) 窓口対応

### ◎ 専門的な質問にもじっくり対応できた

- ・ 利用者の二極化のため初歩的or専門的な質問が中心

### ◎ 利用者のニーズをつくれた

- ・ 物理部会レポート強化週間では「SLAではこのような対応もできる」というアピールができた
- ・ これといった質問がない学生にも窓口利用してもらえるような工夫が他にもできれば

### ◎ 対応内容について部会内で検討できた

- ・ 数学部会「説明選手権」

☞ 窓口対応について新しい方法を模索できた

## b) 発信活動

### ◎ 利用者との相互交流・フィードバック有の発信

- ・ ホワイトボード交流企画
- ・ 4択問題の出題

### ◎ 絵を用いた視覚的な発信、科学史などの面白い内容

- ・ 物理部会偉人シリーズなど、偉人の似顔絵がありインパクト大

△ 交流企画がマニアックな内容に走り利用者が置いてきぼりになることも...

- ・ マニアックになりすぎないように、「他の部会のメンバーにチェック」or「さくらとして書いてもらう」など工夫が必要か

☞ 発信活動を通して利用者との相互交流ができた

## ライティング

### ◎留学生対応の知見・スキルの向上

- ・ 日本語のチェックにとどまらない、より柔軟な対応
- ・ 研究計画書や就活関連などの日本語チェックも

### ◎対面対応再開により対面での利用者・リピーターも増加

### ◎部会内の連携・部会作業が充実

- ・ 新しくライティングやプレゼンに関するTwitter発信
- ・ 留学生の対応方法のまとめ作成
- ・ 過去対応の文字起こし→分析→成果まとめ(論文執筆)

△まだまだ日本人の利用者は多くなく、1年生の間に浸透しておらず

- ☞ 対面対応に慣れ、対面の良さをどう活かすか？
- ☞ 蓄積してきたTipsや研修素材を活用し、研修プログラムの開発へ

2022後期 センターからの総括

8

## 英会話

### ◎対面による1on1の対応の再開

- ・ 各SLAの経験や趣味、個性を活かした対応内容

### ◎twitterによる発信の充実

- ・ ほぼ毎日、様々な情報を発信

### ◎「利用者同士の交流」のための企画も積極的に検討・実施

- ・ 「英語でゲーム！ Halloween Partyしよう！」 「SLA Christmas & New Year's Party」

△ 対面対応での過去の蓄積がうまく活用できず

△ SLA同士の連絡調整や連携にやや課題が残った

- ☞ 過去の資料も参考にして、対応の質向上と、利用者の目的やニーズに沿ったサポートメニューの拡充を図ろう

2022後期 センターからの総括

9

## 日本語会話

### ◎各SLAが熟達し、1on1の対応の質向上

- ・シフトごとの振り返り・共有のサイクルも効果的に機能
- ・リピーターには、個人に合わせて計画的なステップアップを促すなど工夫

### ◎イベント実施の意義を吟味し、部会間連携に繋がられた

- ・イベント実施の目的を吟味し、企画・実施に工夫ができた
- ・1on1対応とイベント実施のエフォート調整を検討
- ・他部会との連携によるイベント実施を実現

### △初級者(N3以下のレベル)向けの活動をより充実したい

- ☞ 来期も1on1の対応の質(利用者の高い満足度)を維持しつつ、他部会やセンター外の団体と連携・協働したイベントにも挑戦しよう!

2022後期 センターからの総括

1  
0

## 企画

### ◎「かんがえるソファ」を今年度も継続して展開

- ・ファシリテーションのスキルの向上
- ・日本語部会と連携した企画の実現

### ◎多様なイベントを実施

- ・美術館企画の再開とさらなる充実に向けた工夫ができた
- ・新しい企画(ディベート、デザイン思考)を発案し、準備を進めることができた

### △「かんがえるソファ」の(意義や効果を含めた)周知と利用者獲得が課題

- ☞ 各企画のテーマ・目的の「わかりやすさ」と「学習効果の高さ」の両立を図りつつ、イベントのさらなるブラッシュアップに挑戦しよう

2022後期 センターからの総括

11

## 1. 成果

### ◎ オンライン・対面の双方で、質の高いサポートを提供

- 利用者のニーズや学習状況に寄り添い、学生同士という特徴を活かした支援を提供
- SLA自身の経験や個性を生かしたサポート
- 対面対応の本格的な再開

### ◎ 発信のフィードバックや相互交流

- ホワイトボード交流など双方向的なやり取りができた

### ◎ 新しいイベントの企画・実施

- 対面イベントの積極的な開催

2022後期 センターからの総括

13

## 2. 課題

### △ 1年生へのより積極的な周知、利用促進の必要性

- 学務情報システムの積極的な活用(主にサポ室の課題)
- より多様なチャンネルでの発信、授業との連携

### △ Tipsの活用、Tipsを使った部会内研修プログラムの作成

- 各部会でTips利用の工夫をしよう
- (化学部会のように)部会内研修プログラムを各部会で準備したい

### △ 異なる部会のSLA同士のさらなる交流・連携を図る

- 少しずつ交流や連携ができるようになってきたが、もう少し増やしたい

2022後期 センターからの総括

14

## ディスカッションテーマ

- ・ 1on1セッション・対応終了後／ワークショップ終了後に、利用／参加学生自身に、学習と成長の実感を持ってもらうための工夫とは？
- ・ ヒント：他の部会でどのようなことを工夫しているのか、どのような工夫がありうるのか共有してみよう



## 5. 部会活動報告

### 1 物理部会

# 2022年度前期 活動報告 物理部会

2022年8月9日

## 概要

1. 利用者傾向
2. 利用傾向の分析とその対策
3. 発信
4. レポート強化週間
5. 総括

## 利用者傾向

### 前セメスター

### 今セメスター

#### I 質問内容

- 物理学B・数物演習がメイン
- 材料力学などの工学部専門科目
- 物理以外の質問(プログラミングなど)



- 物理学Aの対応がほとんど
- 数物演習の対応は減少
- 自科総の計算・考察に関する質問

#### I 利用者

- じっくり解説を要する利用者が増えた
- 工学部生以外の利用が減少
- テスト前の駆け込みの学生が増加



- 新規利用者が多かった
- 工・農・理学部がメインの利用者層
- 物理未履修者や、物理以前に数学でつまづく学生が目立った

## 利用傾向の分析と対策

### 分析

- 物理学Aが多く、数物演習は少ない
  - 物理学A: 授業スピードが速すぎて、ついていけない
  - 数物演習: 授業内での手厚いサポート?
- 自科総に関する質問
  - 光の干渉やDNAなど、学生・SLA共に不慣れな課題
- 物理未履修者 / 数学でつまづく人
  - 高校物理の前提知識が無い
  - 他の授業で習った数学を使いこなせていない

### 対策

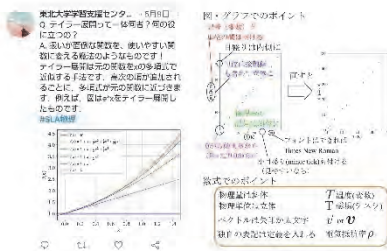
- 実験内容を説明してもらおう  
→ 利用者が実験を理解することを優先
- 実験結果を見ながら、利用者の視点で考察を一緒に考える
- その場しのぎにならないよう、まずは前提知識を固めてもらう
- 答えを教えるよりも、自立した学習への誘導を意識

# 発信

4,5月(オンライン)

## 過去のを再発信

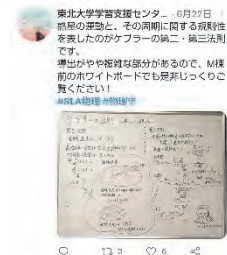
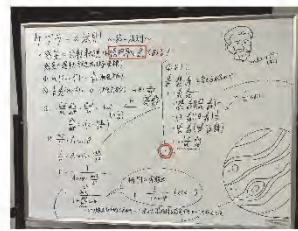
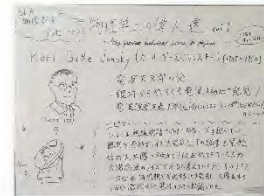
- ・GW明けから発信をスタート
- ・テイラー展開
- ・実験レポートのグラフ



6,7月(対面)

## ホワイトボードでの発信

- ・ほぼ毎週更新
- ・保存力、ケプラーの法則 → 新入生が習いたて
- ・偉人シリーズ、始めました



# 発信

## 振り返り

- 週1ペースでのTwitter発信を継続できた
- 偉人の顔のイラストが入っているものは好評 → 物理に関連する偉人紹介

## 後期に向けて

- 前提知識の補強
  - 利用者の前提知識の欠如により、疑問の本題に入れにくいこともしばしば
  - 特に高校での物理未履修者をサポートする発信が必要
- 発信を見てもらえる層を増やす
  - 進んだ勉強をしている人にも見てもらえる発信(数式多めの読み応えあるもの)
  - 利用者層以外へ向けた発信は利用者数増加にも繋がる(学習の輪の広がり)

## オンラインから対面への移行

- 6/6よりオンラインでの対応から対面对応へ移行
- 移行前後で、全体的には利用者の増減なし
- 対面对応のメリット
  - 利用者側: 予約をせずに気軽に来られる、再利用しやすい
  - SLA側: 利用者の反応を逐次見ながら対応できる
- 曜日によっては、対面になってから対応が減ったという声も
  - 対面が始まった頃に授業に慣れだして、来なくなった説
  - 時間割の制約でM棟に来られる時間が減った？

## 理系レポート強化週間

### 実施要綱

- 実施期間: 4/26-5/12(計6日)
- 利用者のレポートに関する質問に答える(昨年度の資料を使用)
- 全体の構成 / イントロの書き方 / 結果と考察の書き分けを強調

### 成果・来期に向けて

- オンライン開催にも関わらず、**合計11件**の対応
  - 実験開始前・後のどちらにも需要
- 開催時期(GW前後)が良かった
- SLAが知らない実験課題も、、、
- SLA内で対応方法の共有をする必要

## 2022年度前期の総括

### ■ 利用者傾向

自科総(レポート強化週間)や物理学Aに関する質問

### ■ 発信作業

ホワイトボードをTwitterで週1ペースで発信

### ■ レポート強化週間

昨年度の反省から開催時期を工夫し、おおむね成功

来期も物理部会をどうぞよろしくお願いいたします。

# 2022年度活動報告 物理部会

## 目次

1. 利用者傾向
2. 利用傾向の分析とその対策
3. 発信作業
4. レポート強化週間
5. 来期の活動に向けて
6. 2022年度の総括

## 利用者傾向

### 前期の傾向

#### ■ 質問内容

- 物理学Aの対応が**ほとんど**
- 数物演習の対応は**減少**
- 自科総の**計算・考察**に関する質問



### 後期の傾向

- 自科総の対応が**多かった**
- 次に**物理学B**の対応が**多かった**
- あとは分野を問わず広く

#### ■ 利用者

- 新規利用者が**多かった**
- **工・農・理学部**がメインの利用者層
- 物理未履修者や、物理以前に**数学**で**まずく**学生が目立った



- 利用者数は前期の**半分**(約40人)
- **リピーター**の方が**継続的**に来ていた
- **工学部・農学部**の対応が多め

## 利用傾向の分析と対策

### 傾向の分析

- 農学部・工学部の方の対応が**多い** ⇒ 農学部は他の部会でも**多め**。口コミで広まった？
- 自科総の対応**多め** ⇒ レポート強化週間の周知効果◎
- 物理系の科目が例年に比べて**少ない** ⇒ 数物演習についての質問が**減っている**から？

### 来年度に向けての対策

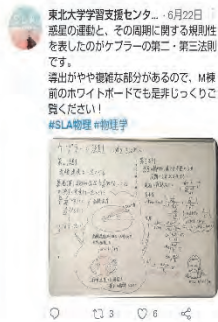
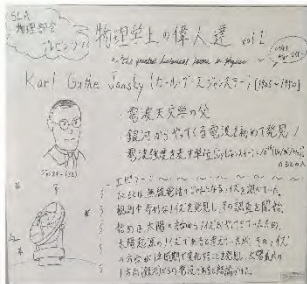
- 対応人数の回復 ⇒ 学務情報システムに例年多い質問のキーワードをいれて投稿  
⇒ レポート強化週間は**継続**。時期はやや早めに設定
- 専門外の対応 ⇒ 内容を整理した上で、必要に応じて他の曜日を勧める

# 発信作業

## 前期

Twitter、ホワイトボード発信

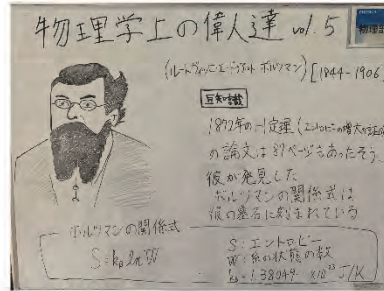
- twitter記事は過去のを再利用
- ホワイトボードは週1で更新
- 偉人シリーズ始動



## 後期

Twitter、ホワイトボード発信

- ホワイトボードの週1更新を継続
- 好評だった偉人シリーズを継続
- 物理の基本事項のまとめ



# 発信作業

## 振り返り

- 目標としていた週1のTwitter発信を継続できた
- 前期の反省を活かして、前提知識の補強や発展内容を整理した資料を作成中

## 来年度に向けて

- 個人での作成が多い傾向あり
  - ➔ 完成に向けて、来期にきちんと引き継げるようにする必要性がある
  - ➔ 記事などを書く際、はじめに企画書をつくと情報共有もできて良い
- 今後は企画書→作業→発信のサイクルを念頭に！



## 理系レポート強化週間

### 理系レポート企画

- 実施期間: 4/26-5/12(計6日)+ 10/24 -11/2 (計4日)
- 利用者のレポートに関する質問に答える(昨年度の資料を参考に)
- 全体の構成 / イントロの書き方 / 結果と考察の書き分けを強調

### 振り返り

- 前期の反省を踏まえて対応の方法を共有できた  
⇒ 今後もMTGなどで**対応方針の共有を継続**
- 強化週間の翌週あたりから自科総の質問が来た ← レポートの添削などの活動が周知された結果?  
情報発信を含め、**時期を早めに設定**しておく

## 2022年度の総括

### ■ 利用者傾向

例年に比べ、農学部の利用者増加+物理系の科目の対応が少なかった。

### ■ 発信作業

週1でのTwitterの発信を行った。今後は記事も作成していく予定。

### ■ レポート強化週間

反省を活かして対応方針の共有ができた。来期は時期を早めに設定。

**来期も物理部会をどうぞよろしくお願ひします。**



2022年度 前期活動報告会

# 数学部会 活動報告

2022年 8月9日

## 2022年度前期の活動

1. 利用傾向

・オンラインの時は控え目、対面で大暴騰

詳細は後述

1. 部会活動

・Fermatの余白

→来期に掲載予定

・ヤコビアン説明選手権



↳ 今期のメインイベント

## 利用傾向

### 1. 利用科目の傾向

数理統計の利用が増加: Google Colabを用いたもの (Pythonの予備知識を要する)や、厳密すぎる講義も。

解析系: 38, 線形: 6, 数物: 10, 数理統計: 14, その他: 6 (7/21時点)

### 1. 利用者の傾向

例年利用が多い工学部に加え、**経済学部**、**教育学部**の利用が相対的に増加  
→高校数学の予備知識の不足がある為、特別の配慮が必要!

### 1. 利用者数の傾向

対面対応開始以降、大きく利用者数が上昇。特に、授業終了時間に。他部会にヘルプしてもらうことも(ありがとうございました)。

## 部会活動

ヤコビアンの説明選手権をメインに行った。

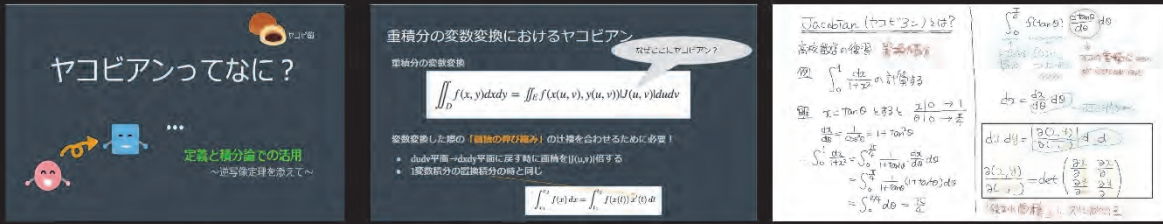
- 概要: ヤコビアンに関する質問が来たと想定して、それについての対応を説明資料を用いて実演する。
- 目的: 互いの説明の仕方を見て勉強したり、自身の対応の改善につなげる。

テーマの選考基準

2. 質問されることが多いもの
3. 他の人の対応方法を知りたいもの



## 部会活動



実際に使用した資料

- 説明選手権の感想・コメント

- 水曜日の内容が実用的で自分も使いたいと思った。ちゃんとした内容を短期間で説明するのは難しいと感じた。
- 利用者の要求に応じて様々なレベルの説明ができるように引き出しを多く持つと良い。(N先生) などなど

## 来期の予定

### ・Fermatの余白

以前までの数学部会からの挑戦状。

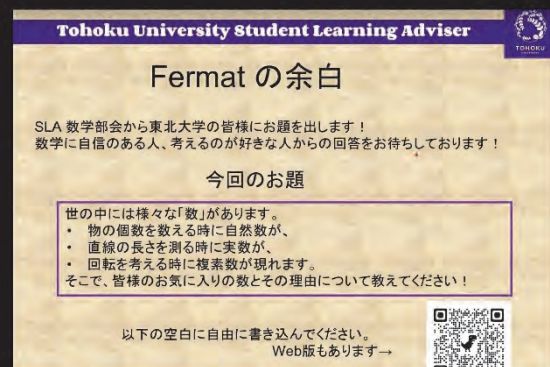
ただ、内容は挑戦状が問題を出す形式  
だったのに対して自由に記述する形式に変化

(学生の主体的な行動を期待)。来期から本格的に稼働する予定。

### ・説明選手権

説明選手権をテーマを変えて実施する予定。

内容のアウトプットも...?



2022年度 後期活動報告会

# 数学部会 活動報告

2022年度後期 活動概要

1. 利用状況
  - 1-1 利用減少
  - 1-2 二極化(専門と課題やテスト対応)
  
2. 部会活動
  - 2-1 広報活動
    - Twitter
    - Fermat の余白
  - 2-2 説明選手権

## 1-1 利用減少

利用数(268回→156回)

利用者(133人→84人)

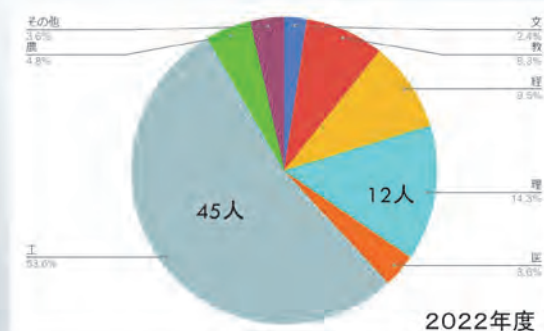
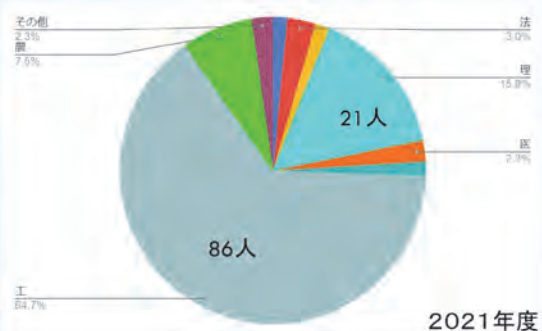


原因

1. 広報活動 ⇒ 見直し必要  
学務情報、ツイッター、掲示板
2. 新入生のネットワーク形成の差
  - ・ オンライン⇒対面への変化
  - ⇒ 工学部の利用減少か
  - ・ 口コミの必要性(傾向分析で詳述)

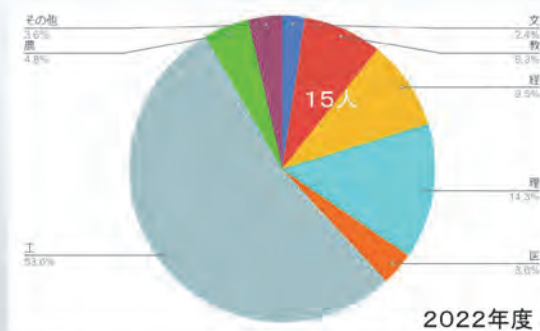
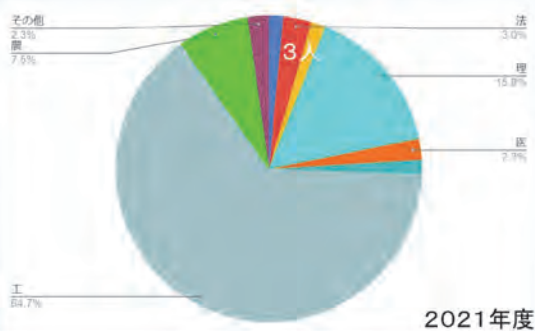
## 1-1 利用減少

- ・ 傾向分析1
  - ・ 工学部の利用減少: **数物演習の対面化**で、授業内で相談が可能に
  - ・ 理学部も新規・リピーター共に利用減少。専門的質問が多い印象。
- ⇒ **新入生層を獲得できていない: 広報活動**

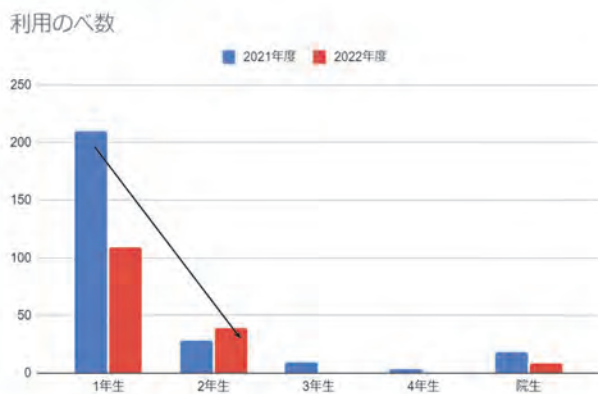


## 1-1 利用減少

- 傾向分析2
- 増加した経済学部・教育学部(前期に集中、統計の授業)
  - ➔ **ロコミ**で広まったと思われる。対面の強み。
- 利用者の満足度を高め、他の方に宣伝するようお願いする。



## 1-2 二極化(特に後期) 専門と課題・テスト対応



- 新入生の利用減少
  - ➔ 緊急の課題・テスト対策の割合増加
  - ➔ 普段から来てもらえてはいない(広報不足)
  - ➔ 対応 + 勉強習慣のサポート
- 二年生の利用増加
  - ➔ 去年(オンライン世代)からのリピーターか
  - ➔ 専門科目の質問が多い
- 中間層は対面化で友人と(良い傾向)
  - ➔ 初心者層を取り込み、中間層へ

## 2-1 広報活動

### ◆ Twitter投稿 ~インプレッション数~

1000~2000

1000

600

問題 ≒ あるある > 勉強方法 ≫ Fermatの余白

- Twitterは**集客には繋がらない** → 参加しやすい問題, キャッチーなあるある
- 逆に超専門的な数学界隈へのアプローチ
- ◆ Fermatの余白
  - 『好きな数は?』のみ盛り上がった。他部会のサクラが有効。
  - **来期は『数学のお悩み掲示板』に変更。**
- ◆ 口コミを広げるため、対応の満足度を維持し、**対応前後にお願い**
- ◆ 貼り紙は効果低。生協との協力は失敗。
- ◆ **学務情報システムは有効(文言考案)**

## 2-2 説明選手権

- 説明選手権:**部会ミーティング**で開催。SLAが1年生向けに解説。
  - 『ヤコビアン』
  - 『全単射』
- 2回とも盛り上がり、**対応の参考になった**。同時に様々な方法も提案され、『全単射』については、まとめ資料も作成中。
  - **資料・動画コンテンツ等で外部向け発信へ昇華したい。**
  - より見て貰えるのは動画の学内限定公開(youtube)か
- 来期はテーマ自由・幅広い角度で



# まとめ

## 利用傾向

- **利用者の減少傾向**
  - 環境変化が要因？
  - 広報を強化
- **内容の二極化**
  - 初級層と専門科目
  - 初級 → 中間の援助
  - 初級層に向けた広報
    - ・ 学務情報システム
    - ・ 口コミ

## 部会活動

- **発信作業**
  - Twitter, Fermatの余白
  - 見てもらえるコンテンツに
  - 来期には新しい取り組みに変更
- **説明選手権**
  - 主題: ヤコビアン・全単射
  - 来期はテーマ自由化！
  - 発信への昇華: 動画化

2022年8月9日(火)

# 2022年度前期SLA活動報告 化学部会

製作・発表: 千葉  
製作協力・確認: SLA化学部会一同

0

## 本日の流れ

1

- 部会メンバー紹介
- 今期の部会作業
- 対面対応の利用者傾向
- 後期に向けて

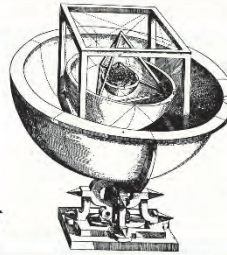
# 部会メンバー紹介

2



三上翠跳

- ・一日16時間以上パソコンをいじる男
- ・頼れる部会長
- ・大の受験数学好き

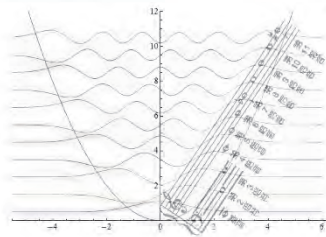


中島優斗

- ・自然を司るものを漠然と追い求める者。
- ・図書館とWeb上百科辞典を彷徨うカフェイン中毒
- ・世界史とジョークの勉強用に見始めた"Poland Ball"に大ハマリ

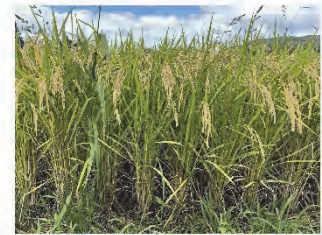
千葉湧太

- ・無類の音楽好き
- ・実験も理論も中途半端にやる人
- ・右の図を作って大満足



菊地渉

- ・甘いものとコーヒーが好き
- ・農学部でお米を研究
- ・レッサーパンダにはまっています

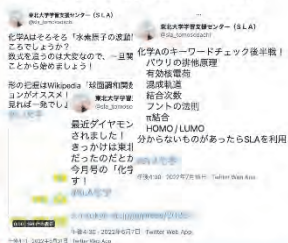


# 今期の部会作業

3

## Twitter発信活動

- 計9回にわたり発信
- ・授業の復習
  - ・テスト対策
  - ・最新の話題 etc...



## 化学の4択問題

ポスター掲示 & twitter発信  
量子化学に関する全8問

結合が一番強いのはどれ？

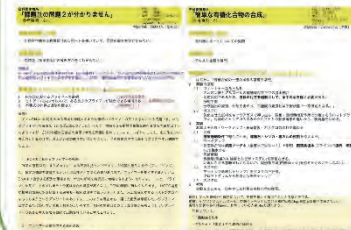
波動関数 $\psi(x)$ で表される電子が、 $0 \leq x \leq L$ の範囲に存在する確率 $P$ はどれ？

結合はどれ？

- $\int_0^L \psi(x) dx$
- $\int_0^L \psi'(x) \psi(x) dx$
- $\int_0^L \psi(x) \psi'(x) dx$
- $\int_0^L |\psi(x)|^2 dx$

## 自科総TIPS作成

自然科学総合実験の相談用  
生物分野にも対応



発信・内部資料が充実し、化学や自科総の学習サポートができた

# 対面対応の利用者傾向

4

## 化学Aに関する質問

- 分かっている層の利用が多く、丸投げな学生は少なかった
- 細かい単元について聞くのではなく、ある程度広い範囲を勉強してきた中での疑問点をいくつか持つてくるが多かった
- 利用はテスト前よりも4-5月に集中

## 自科総レポートに関する質問

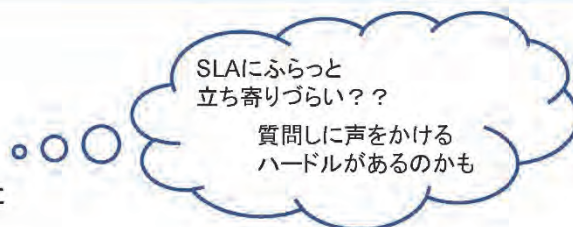
- 分からない部分が明確な質問がほとんど
- 自力でほぼ完成しており、仕上げや確認に利用している
- 習っていないために分からない箇所をフォロー
- 答えが明確に定まらない問いに対して、考察を促す
- 利用は学期全体に分散

# 後期に向けて

5

## 対応が少ない、、、(n回目)

- 自然科学総合実験の質問が多く、**化学に関する対応が少ない**
- **学期末の駆け込み利用**が少なかった



ハードルを下げるには

- 目安箱や質問箱を用意
- 質問内容をグーグルフォームや紙で投げてもらおう
- twitterやポスターでの利用促進
- 4択問題から利用につなげる

## Twitter発信

- 発展的な内容はブログへ
- 手軽に短く発信
- タイムリーな情報を随時投げる

## 化学B(熱力学)

- 4択問題作成
- 自由エネルギーに関する資料作成

## 化学C(有機化学)

- 4択問題作成

## その他の発信資料の作成

# 化学部会活動報告会 2022年度後期

表紙元ネタ:  
手で解く量子化学I  
(中井 丸善2022)

SLA化学部会

手で解く  
量子化学  
I  
基礎量子化学・Slater行列の解  
中井 丸善

## メンバー紹介

1

### 三上翠跳(M1)

- ・量子コンピュータを研究
- ・大の数学好き



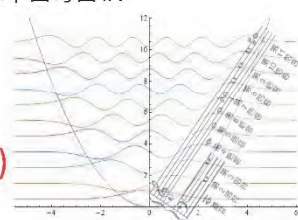
### 菊池渉(B4)

- ・農学部でお米を研究
- ・甘いものとレッサーパンダ好き



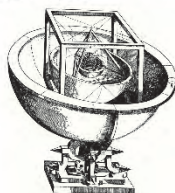
### 千葉雄太(M1)

- ・大の音楽好き
- ・今期は平日毎日TA



### 中島優斗(M2)

- ・気づけばもう修士(Science Master)  
...でもまだまだこれから
- ・相変わらず  
Poland Ballを  
勉強中



### 宇那木優斗(B3) (新メンバー)

- ・ダイビングが好き
- ・材料力学が得意



## 対応状況

2

化学c(有機化学)と自然科学総合実験が主

➡ 例年通りの傾向

試験前の駆け込み利用増加・漠然と分からないという層等、利用層は広がった

➡ 本来の形に戻りつつある

### 化学c(有機化学)

- 自習してわからない点の相談が主(意欲自体は高めな傾向)
- 農学部 of 学生多い
- 共鳴構造・構造式の相談多い
- 巻矢印・電子数など、相談したい部分よりも基本的なサポートが必要

### 自然科学総合実験

- 積極的な層の利用多い
- 有機合成・電気伝導・生物系(PCR)・光(新しい課題)
- レポートの書き方の相談多数

## 課題点と対応策

3

### □ 基礎の基礎からサポートが必要な学生の相談多い

(学部の偏りも基礎の内容の説明が不親切な学部の人がたくさん来るため?)



- まず基礎でのつまづきを見直す
- 基礎のサポートが手厚い教科書の紹介(有機化学; クライン有機化学)



### □ 利用層が広がっているが、まだ積極的な層の利用が中心

(「どこが分からないか分からない」等、本当に支援が必要な層に届いているか?)



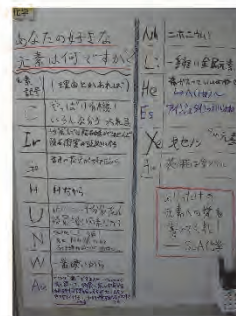
- 基礎を問うような発信による呼びかけ
- 利用者が次の利用者を連れてくるような宣伝

# 発信活動

4

## ホワイトボード企画

- 「好きな元素は？」等 質問形式で学生に書いてもらう
- 二重スリット実験のような簡単な実験
- 立体構造のように、ホワイトボードから新たな企画につながった



## 4択問題

- 基礎的な部分をさらっと確認 (基礎的な部分のサポートを呼び込む)
- 紙媒体でその場で確認 + Twitter 形式面も含め順調にできた

## 化学Tips

- 自然科学総合実験関係を充実



Tohoku University Student Learning Advisor

SLAサポート中心学習部(学生生活上の支援)による学習支援です。

東北大学 学習支援センター - SLAサポート室 (14名) 〒980-8579 仙台市青葉区中央1-1-1

http://sla.sts.tohoku.ac.jp mail: sla-support@ops.tohoku.ac.jp

SLA化学部会プレゼンツ

問題は全部で8問！  
きみはコンプリートできるかな？

熱化学(化学B)  
4択問題

✓テスト前の確認に！  
✓化学は月・火・木(15:15-17:15)です(最終受付:16:30)



SLA化学部会グループ

# 来期に向けて

5

## 「基礎の基礎」へのサポートを手厚く

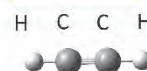
- 利用学生をつまづきがどこにあるかを重視
- 4択問題・twitter発信を通じた基礎でのつまづきの発見
- 教科書のレビュー → 基礎が手厚い教科書を紹介

## 対面対応の良さを活かす

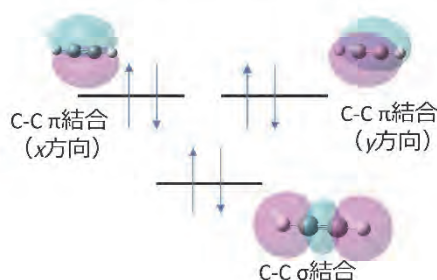
- 漠然とした「分からない」が聞ける場所として宣伝
- 他部会との連携 (自科総レポート書き方講座 等)

## 化学A(量子化学・前期) → 化学C(有機化学・後期)

- 軌道と有機化学の構造を結びつける
- 図示した軌道を見せてみてもよさそう



アセチレン  
C≡C三重結合、直線分子





最後に...

千葉さん ありがとうございます  
SLA活動初期から大変お世話になりました

# ライティング部会

SLA2022年度前期活動報告会  
2022年8月9日(火)14:00～17:00

## 目次

### ◆ 今期の概要

- 今期の対応形態
- 今期の傾向

### ◆ 活動ふりかえり

- 対面対応の気づき
- オンライン対応の気づき
- 全体的な対応の気づき
- 対応の成果
- 実施した部会活動

### ◆ 今後の課題

# 今期の対応形態

◆ 昨年まではオンラインのみ



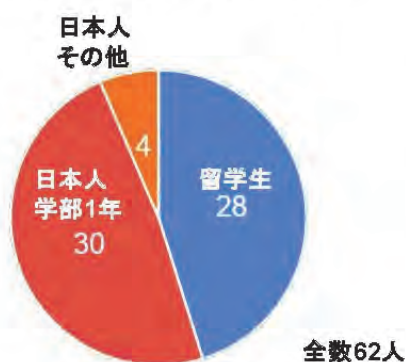
◆ 今期:対面とオンラインの併用

- 月曜日 → 対面・オンライン対応
  - 中野、増田、保泉、野々瀬
- 火曜日 → オンライン対応
  - 小田切、服部

3

# 今期の傾向 <sup>[1]</sup>

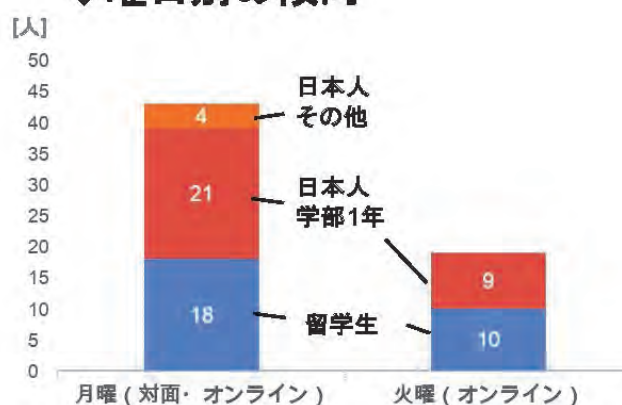
◆ 利用者の傾向(属性)



留学生と日本人学部1年が9割以上

[1]「SLAライティング対応記録カルテ【2022前期】(回答)」

◆ 曜日別の傾向



留学生割合は月曜 < 火曜

4

## 今期の傾向

### ◆主な対応内容

- 学部生

- 大半がレポート課題
- 奨学金の申請書などもあり

→相談内容は多岐に渡る

- 留学生

- レポート課題
- 研究計画書
- 奨学金の申請書
- 修士論文 etc...

→相談内容の大半は日本語チェック

5

## 対面对応の気づき

### ◆メリット

- コミュニケーションがスムーズ
  - 互いの反応の確認が容易
- 利用者の励ましに有効
- 対面ならではの細やかな対話の重要性を再認識

利用者の声)

「大変わかりやすく、質問もしやすい雰囲気良かった。やはりオンラインより対面の方が話しやすくいいと思う。』[2]

[2]「SLAライティング 利用者アンケート(2022)(回答)」

### ◆デメリット

- 混雑時の行列の発生
    - 対面は先着順のため
  - 対面特有の手間
    - 体温チェック
    - 資料共有
- 対応開始までの流れの周知が必要

6

# オンライン対応の気づき

## ◆メリット

- 大学に来られない学生も利用可能
  - 海外学生
  - 自宅療養の学生→依然としてオンライン対応は重要
- 対応時の録画データを蓄積可能  
→データの活用方法を模索中

## ◆デメリット

- 相手の心理状態や納得度合いなどの把握のしづらさ  
→利用者への理解度確認が重要  
→本音を言える雰囲気づくりが重要

7

# 全体的な対応での気づき

## ◆対応に関する気づき

- SLAのスタンスを伝えることの重要性
- 対応時間中にレポートを直してもらうメリット  
→利用者の理解度が把握しやすい

## ◆その他の気づき

- 利用者情報の管理方法の改善が必要
  - カルテ、録画、事前情報のファイルがすべて異なる

8

## 対応の成果

### ◆利用者のモチベーション向上

SLAがレポートの内容について質問

→内容を掘り下げること、新入生に自信を与えられた

### ◆リピーター利用者の成長

最初の利用では初歩的な質問 →回を追うごとに質問内容が高度に

### ◆SLA自身のライティング能力の向上

利用者への解説を通して、SLA自身のライティング能力向上に繋がった

9

## 実施した部会活動

### ◆新規SLAの研修

・OJT課題、対応動画の視聴、模擬対応

### ◆対応の質向上のための研修会

### ◆ライティングワークショップへの参加

### ◆ツイッターの発信

### ◆対応録画の文字起こし

### ◆紀要論文の作成準備

10

## 今後の課題

- ◆ 後期に向けた情報発信・宣伝の強化
- ◆ 利用者からのフィードバックの収集
- ◆ 現状維持すべき部分の把握と維持
- ◆ 利用者情報の管理方法の改善

11

A decorative border featuring several colored pencils (yellow, blue, and dark blue) arranged around the text.

# ライティング部会

SLA2022年度後期活動報告会  
2023年2月15日（水） 13:00～17:00

## 目次

6

- ◆ 今期のライティング部会
  - 今期のメンバー紹介 & 今期について一言
  
- ◆ 今期の成果
  - 対応
  - 部会作業
  - 研修・ノウハウ共有
  
- ◆ 来期の活動に向けて



## 対応 | 授業レポート以外の課題への対応

9

### ◆ 背景

- 授業レポート以外の課題（研究計画書や就活関連の書類など）についての相談を希望する利用者が前期よりも多かった。

### ◆ 対応内容

- おおむね普段通りの対応を行なった。

### ◆ 今後の課題

- SLA自身も経験が少ないので実質的なアドバイスは難しい
- 親身になって相談に乗るなど、普段通りの対応を心がける

## 対応 | 英語による留学生対応について

10

### ◆ 背景

- 英語での対応を要望する留学生の受け入れ

### ◆ 対応内容

- 日本語で書かれたESのネイティブチェック

### ◆ 今後の課題

- 場合分け（レポートの言語（英語/日本語）、対応に使う言語（英語/日本語））をして、対策を練る
- 他部会のSLAとの情報共有（手の空いているSLAとの協力、曜日の変更の提案）

## 部会作業 | 広報活動

11

### ◆利用者増加を目的としポスターを作成

- 例年、後期は利用者の減少傾向があった。
- 学部生の利用減少が顕著
- 川内キャンパスに設置し周知を図った。

### ◆今後の展開

- 対応以外でのライティングサポートの可能性
- SNS上での定期的な発信も充実させていきたい



## 部会作業 | 紀要論文の作成

12

### ◆ SLAがどう対応するとレポートが良いものになるのかを分析



#### ◆ 分析素材

- オンライン対応で撮りためた「対応録画」
- 「対応前後のレポート」を比較

#### ◆ 結果：改善に繋がる3つのポイント

1. レポートの問題点の的確な分析
2. 問題点を「気づいてもらう」工夫
3. 一緒に考える姿勢

⇒ 詳細は掲載されたものをご覧ください！

## ノウハウの蓄積と共有

13

◆ 目的：それぞれのメンバーが得た知見を共有し、次のSLAIに継承することで部会全体の財産にする。

- マニュアル

新規メンバー向けに「ライティング対応説明」「留学生対応Tips」の2つを用意している。

- 「半年の気づき」

前期から参加したメンバーに半年経過時の気づきなどの聞き取りを行い、それをまとめた。

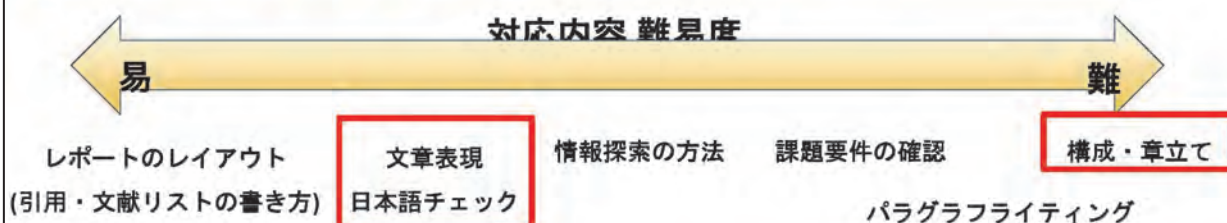
→技術面の共有は出来ていたが、蓄積してきた資料の形式などの改善点が見つかった。

- 日々の共有

「対応のふりかえり」「部会作業引き継ぎ」ファイルを活用して、違うシフトメンバーが何をしているのかを共有しながら活動できるようにした。

## ライティング部会におけるOJT

14



### ライティングOJTスケジュール

10月-11月: OJT課題 (対応見学/模擬対応)

12月: 日本語チェック対応 (易)

1月: 構成対応 (難)

難易度ステップアップ形式  
ライティングOJTスケジュールを  
提案

## ◆ 今期の成果と課題

- 課題の多様化への対応
  - 英語での対応や就活関連など
  - メンバーによっては対応困難ケースもあり
- 紀要論文を執筆
  - 「良い対応」の特徴を分析
- 対応中のノウハウの共有
  - 定期的なドキュメント化
  - まとまったふりかえり資料の作成

## ◆ 来期に向けて

- 他メンバー・他部会との連携が重要
- マニュアルの充実
  - ノウハウや分析の一層の反映
- マニュアルを活用する枠組み作り
  - 「作る」だけでなく「使う」



利用に大きな変化なし



いろいろやってみた

# Contents

1. 今期の振り返り
  - 1.1. 利用者傾向
  - 1.2. イベント
  - 1.3. 活動成果と課題
2. 今後の計画

## 利用傾向に大きな変化はなかった

- ・ 4, 5月は利用者少
- ・ 学部1年生の利用は少なかった  
→オンラインがハードル?
- ・ 学部生・院生の利用の割合は同程度
- ・ 全体の利用者人数は変わらない



今期の振り返り

利用者傾向

イベント

活動成果と課題

今後の計画

5

## 今期は2つのイベントを実施



<https://blog.slido.com/panel-discussion-moderating-guide/>

### 英語学習のトークセッション



<https://acriindia.com/blog/group-discussion/>

### 英語でゲーム

今期の振り返り

利場者傾向

イベント

活動結果と課題

今期の計画

7

## 今期は2つのイベントを実施



<https://blog.slido.com/panel-discussion-moderating-guide/>

### 英語学習のトークセッション



<https://acriindia.com/blog/group-discussion/>

### 英語でゲーム

今期の振り返り

利場者傾向

イベント

活動結果と課題

今期の計画

8

## トークセッションに延べ61人参加

- ・ 各々の留学や言語学習に関する体験の共有 & SLAの紹介
- ・ 4/18に2回実施
- ・ 3限（30人）、4限（31人）



<https://blog.slido.com/panel-discussion-moderating-guide/>

今期の振り返り

刊行者情報

イベント

お知らせと募集

学生の計画

9

## トークセッションはいいイベントでした

### <良かった点>

- ・ 各々の個人的な経験を共有できた
- ・ イベント後のQ&Aを設けた

Q & A

### <成果>

- ・ SLAの周知になった  
→ イベント後のセッション参加者が増えた

今期の振り返り

刊行者情報

イベント

お知らせと募集

学生の計画

10



## はじめてのトークセッションで学んだこと

- ・フラットな雰囲気のほうが反応がよさそう  
ex) 椅子の用意
- ・しっかり事前打ち合わせをする
- ・アンケートの活用を意識



今期の振り返り

利用者傾向

イベント

活動成果と課題

今後の計画

11

## 今期は2つのイベントを実施



<https://www.aeriindia.com/blog/group-discussion/>

英語学習のトークセッション



<https://aeriindia.com/blog/group-discussion/>

英語でゲーム

今期の振り返り

利用者傾向

イベント

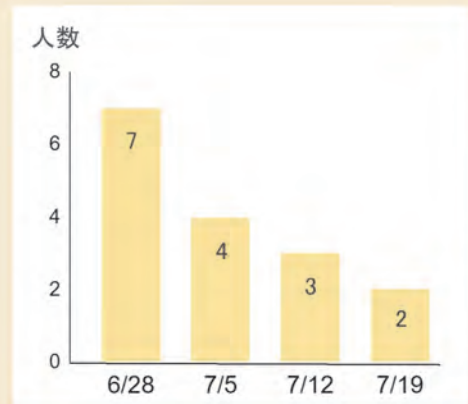
活動成果と課題

今後の計画

12

## 6月末より対面のゲームイベントを実施

- ・ 対面で実施
- ・ 複数の参加者と英語でゲーム
- ・ 4回実施し延べ16人参加



今期の振り返り

刊稿者情報

イベント

お知らせと課題

今後の計画

13

## ゲームによって楽しい英会話に

<良かった点>

- ・ 自然と話す状況が生まれる

<成果>

- ・ 楽しむ場を提供することができた



<https://www.glamour.com/story/this-just-in-smiling-happy-guy>

今期の振り返り

刊稿者情報

イベント

お知らせと課題

今後の計画

14

## ゲームの種類によって盛り上がり欠ける



- ・盛り上がり度合いはゲームによる
- ・ディスカッション系だと難しい
- ・特定の一人をサポートできない
- ・扱うゲームの吟味



<https://peepstrategy.com/group-discussion-steps-to-make-it-better/>

今期の振り返り

刊稿の種類

イベント

お知らせと課題

今後の計画

15

## もっと楽しいことができそう！

### <成果>

- ・トークセッションではSLAに興味を持ってもらえた
- ・英語ゲームで楽しむ場を提供できた

### <課題>

- ・1年生の利用者増加
- ・英会話に合うゲームの模索



今期の振り返り

刊稿の種類

イベント

活動成果と課題

今後の計画

17

## 来期への計画

### トークセッションの継続

- ・ 英語学習系イベント
- ・ 考えるソファ英語版

### ゲームイベントの継続

- ・ ターン制のゲーム
- ・ 説明リレー



今朝の振り返り

利用者観向

イベント

活動成果と課題

今後の計画

19

# SLA英語部会 2022年度後期活動報告

2023年2月15日（水）

発表者：森岡 駿

## SLA英語部会 報告の流れ

### 1. 今期の活動報告

- 1on1の傾向
- イベントについて

### 2. 今期の活動から見えてきた課題

- 1on1の課題
- イベントの課題
- 全体的な課題

### 3. 来期に向けて

- 1on1
- イベント
- 総括

Q&A

## 1on1の傾向

- リピーターが多め。カルテを活用。
- 学年は曜日によってばらつきがあった。
  - 月曜は1年生が多く、木曜は高学年が多い傾向。
- 日本人学生 > 留学生：特に前期と比べて中国人留学生が少なめ
- 1対1だけではなく、グループで英会話の対応もあった。
- 対面ならではの対応
  - 利用者の出迎え
  - 待ってもらうときの案内
- タイマーで時間管理

## イベントについて

- 10月のハロウィンと12月のクリスマスの2回開催
- 内容：ミニゲームやクイズなど
- 目的：学習のきっかけ提供や利用者同士のつながり作り
- 成果：役割を分担し、協力しながら運営できた。
- 利用者の声：
  - ゲーム楽しかったです。SLAの方の発音が綺麗でモチベーションが上がりました。
  - 英語が得意ではない私でも楽しめるハロウィンパーティーでした。言いたいことがうまく言えない時もサポートいただき、ゲームを楽しめました。



## 1on1の課題

- 対面対応に慣れるのに時間がかかった
  - オンラインにはない対応、セッション前のアイスブレイクなど
- 会話の広げ方の工夫が必要
  - 特に新規の利用者のトピックの引き出し
  - SLA側に知識がない話題になった時の話の広げ方
- 複数人対応への工夫
  - オンラインから対面に移行して、SLA1人で2人以上の利用者を対応する機会が増加
  - 発言量が偏らないようにしたり、話が広げやすいテーマを選択したりする必要
- 試験対策などのイレギュラー対応への不慣れ
  - オンラインと比べて試験対策などのリクエストが少なく、対応の練習不足
- 利用者の「長期的な上達」に対する意識の欠如
  - 特にリピーターへ向けて、中長期的な目標を確認するという姿勢

## イベントの課題

### 準備段階

- 早め早めの準備ができなかった。
  - 広報の遅れ
  - 事前打ち合わせがギリギリ
- 意見や課題を共有できる時間、余裕がなかった。
- シフト間でのコミュニケーション・連携の難しさ
- イベントの目的は何かという意識
  - 目的によってアクティビティの意図も変化するため
  - イベントの計画段階・準備の過程でメンバー同士で目的の確認ができていなかった。

### 当日の運営

- ファシリテーションのトレーニングが必要
- 参加者側の視点の欠如
  - 途中参加の人をどうアクティビティに加えるのか
  - 英語・日本語の説明で参加者全員が理解できているのかどうか
- 臨機応変な対応・メンバー間での助け合い

## 全体的な課題

- メンバー間の情報共有・コミュニケーション
- 英語レベルの異なる利用者をどのように対応するか
- 1on1を通して利用者がどうなって欲しいのかというイメージ
  - 新規・リピーターへの対応の差別化
- イベントを通して何を実現したいのかという目的の明確化
  - 新規利用者の増加？利用者間の交流促進？

## 来期に向けて（1on1）

### <全体的な目標>

- リピーターを増やしたい。

### <利用環境に関する目標>

- 日常会話練習だけではなくオリジナリティを加えてさらに深みのある対応をしたい。
- スムーズな対応ができるよう工夫する。（話しやすいトピックを事前に複数用意しておくなど）  
→リピーターだとマンネリ化してしまうので工夫が必要。近況を聞くことは一つのアイデア。
- 上達できる環境作り  
→利用者が特にやりたいことを毎度確認，リピーターに英語の勉強計画等を作成，上達のための助言、対応時に新しい単語や表現などについてノートの作成・利用者への共有。

### <貢献的目標>（利用者にこうなってほしいという目標）

- 英語に触れる習慣付け（本を読み始める、映画を見るなど）を促す。  
→対応中にも内容を持ち込む/広めることができる。
- モチベーションをあげる。（SLAからの方法提供・近況の確認、イベントの情報提供などによって）



## 来期に向けて（イベント）

### <イベントの準備>

- イベントフローを作る。
- より良いイベントができるように、もっとアイデアを考え、全体的に積極的に準備に貢献すること。
- 英会話のサイトや授業を参考にして、SLAでも、レベルに適したかつ学びに繋がるようなイベントを練ってみたい。
- 目的を明確化して、それにフォーカスしたイベント内容を考える。

### <SLAメンバーについて>

#### • チームワーク

→担当アクティビティだけでなく、イベント全体にわたって貢献できることを見つけ、自ら動けるようになりたい。(説明を聞き取れなかった参加者をサポートしたり、装飾やBGMを通じて現地文化を感じてもらおうなど)

#### • メンバー間でのより効率の良い連絡手段

→ツールの問題もあるが個人の意識の問題もあるかもしれない。

## 総括

### • lon1

より良い（快適・上達できる）環境を作り、利用者への貢献性を高めることでリピーターを増やす。

### • イベント

イベントの体系化によってチームワークや連携を向上させ、より目的が明確なイベント作りをすることで、利用者の学びにつなげる。



Thank you for listening!

ご質問・ご意見よろしくお願ひします。

# 2022年度 日本語SLA前期活動報告

日本語部会  
秋山千皓 江村玲 小川晴生  
片山直哉 鈴木こはと 松谷凌雅

1

## 目次

1. 利用状況
2. 今期の目標
3. 成果
4. 課題
5. 来年度に向けて

2

## 今期の目標

### 【広報】日本語SLAの情報発信

- ・リピーターに各種イベントを積極的に広報する
- ・留学生に効率的に情報を届けられるルートを開拓し、利用する

### 【対応】対応の質の向上

- ・アンケートの質問内容を改善し、対応に活かせる情報を収集する
- ・メンバーのビデオリフレクションを実施する
- ・チームリフレクションを勤務開始前に確認する

### 【イベント】イベント運営の改善

- ・1on1利用者をイベントに取り込む
- ・国内学生への広報を強化する
- ・イベント運営をマニュアル化する

3

## 利用状況 ~1on1~

### 【利用者の傾向】

- ・上級者が多い(水曜は例年と比較して初心者も見られた)。
- ・来日している留学生が増加。
- ・学務情報システムを通じてSLAを知った人が多い。
- ・7月からは利用者の枠を増やしたが、予約はそこまで埋まらなかった。

### 【実施内容】

- ・日常会話、発音練習、疑問解消(文化の違い/日本語特有の表現)が中心。
- ・新規利用者には丁寧なニーズの深堀を意識。
- ・上級者に会話の条件をつけたりスピードを速くするなど工夫を行った。
- ・実際の生活に使える日本語会話を求める傾向。

### 【その他】

- ・チャット機能を利用して間違いを指摘。
- ・空き時間は部会MTG準備、イベント準備・振り返り、新規メンバーリフレクション等に利用

4

## 利用状況～イベント～

### 【文化カフェ Kick off】

- ・ 2回 (4/19、4/21) 実施。
- ・ 参加者はそれぞれ8人、10人 (予約数は9人、11人)
- ・ 目的 : (留学生側)SLAの存在を知ってもらう (国内学生側)国際交流機会を提供する
- ・ 実施内容 : 国内学生と留学生が2名ずつ、SLAが1名のブレイクアウトルームで交流
- ・ 参加者の傾向 : (留学生)SLAを初めて利用する人が多数、中国人学生が中心  
(国内学生)ターゲットとしていた1・2年生がほとんど

### 【SLAかんがえる文化カフェ】

- ・ 2回 (6/28、7/6) 実施。
- ・ 参加者はそれぞれ6人、5人 (予約数は8人、6人)
- ・ 目的 : より抽象的な会話を複数人とする機会を留学生に提供する
- ・ 実施テーマ : 「文化って何？」(6/28)「文化の盗用って何？」(7/6)
- ・ 参加者の傾向 : 1on1では見ない留学生が参加  
(オンライン)多様な国出身の留学生が参加

5

## 広報

### 【成果】

- ・ 時間がない中で動画を作成し学務で情報を流せた。
- ・ アンケート結果からLINEを利用している留学生が多いという傾向が示唆されており、広報活動に向けた糸口が見つかった。

### 【課題】

- ・ SNS・メールは全く使えなかった。
- ・ イベントと1on1の間の利用者のズレも生じていた。  
→1on1の人へイベントの情報を流さなかった。

6

## 対応 ~対応中~

### 【成果】

- ・新規の利用者へのニーズの深掘りを強化できた。
- ・リピーターには、個人に合わせて計画的なステップアップを促せた。  
(カルテで情報を共有していたため、担当が異なっても利用者のニーズや前回の流れを把握できた。)
- ・アンケートの数値は総じて高い。

### 【課題】

- ・セッションの具体的な目標を立てなかったり、振り返りの時間を取れなかったりした。
- 利用者にとって、具体的にセッションで何ができるようになったのかが実感しにくい。

7

## 対応 ~バックヤード~

### 【成果】

- ・アンケートを改善した結果、よく使うSNSや日本語学習での悩みが判明した。
- ・新規メンバーへのリフレクションを行った。
- ・曜日間の情報共有がより円滑になるようにカルテの記入方法を改善することができた。

### 【課題】

- ・前半時期に新規メンバーのサポートが薄くなっていた。
  - ・異なる曜日メンバー間で、1on1でやって良かったこと/失敗したこと等を共有する機会がなかった。
- SLAの成長が個人や曜日内に留まる。

8

## イベント

### 【成果】

- ・ セメスター開始直後に低学年の国内学生に国際交流の機会を提供できた。(文)
- ・ 対面開催の反省をオンラインメンバーに引き継いだことで、テーマとファシリに関する課題を改善することができた。(考文)

### 【課題】

- ・ 文化カフェの振り返り時間を十分に確保できず、セメスター終盤まで放置してしまった。
- ・ SLAのファシリテーション技術を向上させる必要がある。(考文)
- ・ イベント中に利用するツール(ホワイトボードなど)の使い方が定まっていない。(考文)
- ・ 日本語ワークショップを開催できなかった。  
→1セメスターで3種類のイベントを回すのは厳しい。

9

## 来期に向けて

### 【広報】

- ・ LINEを用いた情報発信を検討

### 【対応中】

- 楽しく会話するだけで終わらせず、今後の日本語学習につなげる
- ・ セッション終盤のリフレクションについて、部会内で共通の方針を作成

### 【バックヤード】

- 対応のリフレクション及びフィードバックの強化
- ・ 利用者アンケートの確認を怠らないようルーティン化
- ・ 新規メンバーの研修を手厚く
- ・ 曜日間の情報共有をする時間を確保

### 【イベント】

- ・ 1on1とは異なる利用者層を想定。1on1でできないことをイベントで実現
- ・ 通常文化カフェとかがえる文化カフェを統合
- ・ ファシリテーション技術向上のため、他部会と協力したい
- ・ 昨年度までやっていた日本語ワークショップを1on1に組み込むことを検討中

10

# 2022年度 日本語SLA後期活動報告

日本語部会  
秋山千皓 鏡耀子 江村玲  
鈴木こはと 小森谷仁子 松尾美祐

1

## 目次

1. 利用状況
2. イベント
3. 対応に関する工夫・バックヤード
4. 広報
5. 来期に向けて

2



## 利用状況

### 利用者について

- 昨年からのリピーターや今学期新規の利用者がリピーターとなることが多く、毎週利用する学生もいた。
- 予約枠はほぼ毎回埋まっていた。

### トピックについて

- 日常会話
- 利用者が持参したトピック(就活、院試の面接、人間関係の問題、正月の行事等)
- SLAが提示したトピック(食文化、生活で困っていること等)

### 活動内容

- 雑談(学習目標を意識しつつ)
- 持参したトピックについての会話
- 利用者が用意した日本語の質問への回答
- 学習や生活で困っていることの相談
- 就活のES添削
- 院試対策

3

## イベント

### 概要

- 企画×日本語部会「かながえるソファ」
- 通常のかながえるソファに、日本語部会の留学生へのサポートを加えたもの。
- 第1回(10/27 木)
  - テーマ「周りと違うことは心地よい？」
  - 参加者:5人(留学生4名、日本人学生1名)
- 第2回(12/1 木)
  - テーマ「すごい人ってどんな人？」
  - 参加者:7名(留学生3名、日本人学生4名)

### 成果

- 上級者は一対一では話せるが、複数人で日本語を話すことに苦手意識を持っている人も多い。留学生に複数人で話すきっかけを作った。
- 1on1では日常会話が多いが、企画部会と協力することで深い話をする機会を作った。
- 日本語部会と企画部会の良いところを補いあえたイベントになった。

4

## 対応に関する工夫・バックヤード

### 継続事項

- 対応後のカルテには、利用者の特徴と、次回担当者への申し送り(対応のポイント、次回復習してほしいことなど)を記入した。
- マニュアルを作成した。
  - 新規対応
  - ネット帳
  - 敬語、発音に関する資料
  - セッションで使えるスライド

### 課題

- 作成後・記入後の効率的な活用方法を検討する。
- 曜日間での学びの共有方法を検討する。

5

## 広報【公式LINEの運用に向けた準備】

### 経緯

- SLAのセッションやイベントの情報、便利な日本語表現、留学生向けの窓口やコミュニティの情報などを広く発信したい。
- Twitterは留学生の利用が意外に少ない。

### 成果

- 電話番号が不要で、引継ぎの容易な Outlookでアドレスを取得。これを利用して公式 LINEアカウントを作成した。
- LINEプロフィールからSLA利用予約ページやM棟の位置情報に容易にアクセスできるようにした。
- 日本語Tipsや、普段の活動で利用者がよくする間違いを盛り込んだメッセージを作成した。
- 友達追加用のQRコードを取得した。



6

## 来期に向けて

### 利用状況

- 対面対応をどうするか。ドロップインor 予約制 or カフェ形式？

### イベント

- 企画部会や英語部会と共同でイベントを行う。  
例) かんがえるソファ、美術館企画、Language Exchange

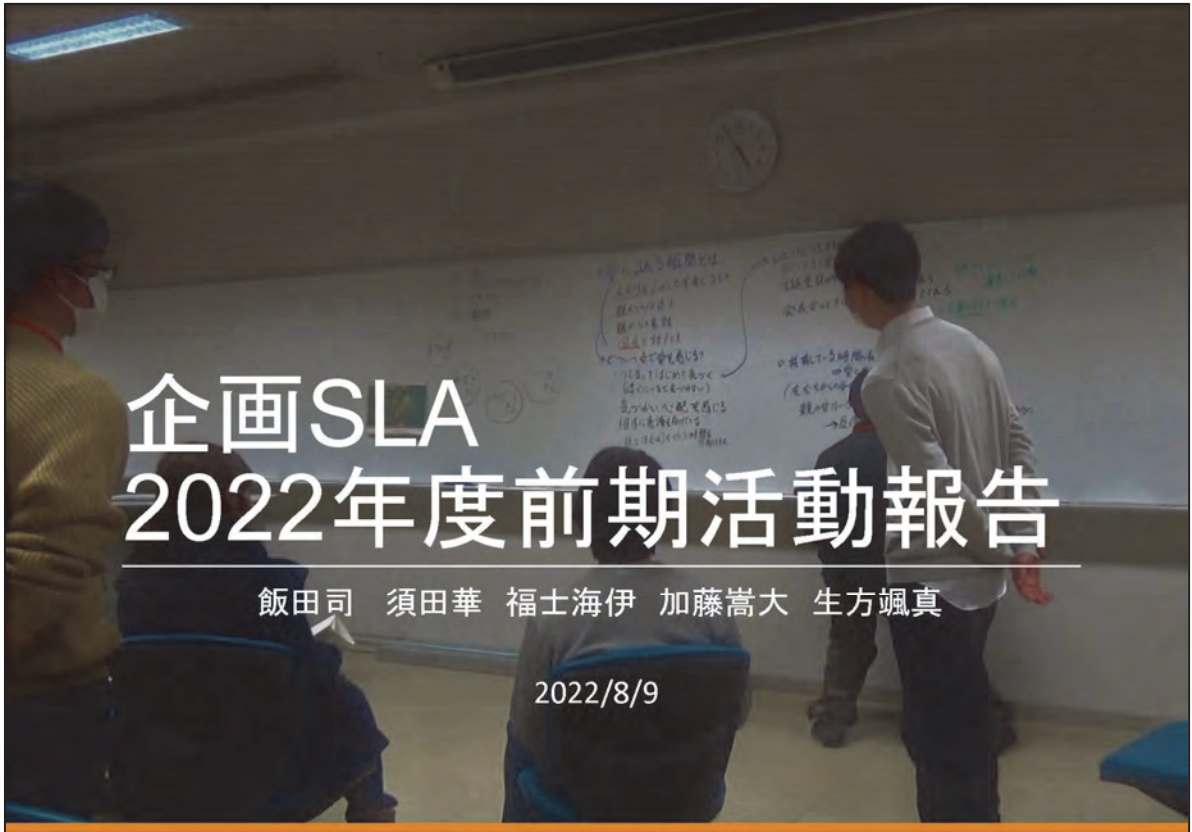
### 対応に関する工夫・バックヤード

- 勉強会・キャッチアップ会の時間をとる。

### 広報

- 公式LINEの運用を開始する。

7



# 企画SLA 2022年度前期活動報告

飯田司 須田華 福士海伊 加藤嵩大 生方颯真

2022/8/9

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

1

## 目次

1. かんがえるソファ
  - i. 概要
  - ii. 今期のテーマ(加藤)
  - iii. 成果と課題(福士)
2. 美術館企画(須田)
3. Twitter(生方)
4. 来期に向けて

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

2

# 1. かんがえるソファ(概要)

(加藤)

SLAのファシリテーションのもと、  
参加者が身近なテーマについて話し合い、  
深めていく場



かんがえるソファ = 議論ではなく、「対話」



身近な「あたりまえ」に対する疑問

自分なりに考え、表現する力／自信



異なる視座に対する気づき

自身の価値観・世界観の変容



2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

3

# 1. かんがえるソファ(テーマ)

(加藤)

開催日	テーマ	参加者数	司会係	記録係
4月19日(火)	大人ってどういう人?	5	須田	福士
4月26日(火)	大人ってどういう人?	1	加藤	飯田
5月13日(金)	やりたいことってなに?	2	加藤	須田
5月18日(水)	理想についてかんがえる	2	福士	生方
5月24日(火)	やる気ってどこから来るの?	3	須田	飯田
6月15日(水)	対面授業ってどう?	2	加藤	福士
6月21日(火)	どうして人に親切にするの?	1	飯田	加藤
6月29日(水)	“空気を読む”ことは良いことか?	2	福士	須田
7月1日(金)	“考える”とは?	1	生方	福士
7月12日(火)	なぜ“見た目”は大切?	1	飯田	生方

○参加人数 18名(うち留学生8名)

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

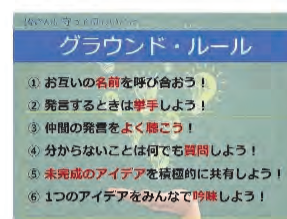
4

# 1. かんがえるソファ(成果と課題) (福士)

## 成果

### 対話の進行面

- ・グラウンドルールの加筆  
→参加者が発言しやすい雰囲気の醸成



### 運営面

- ・対面とオンラインの併用  
→異なる参加者層の取り込み
- ・屋外での実施  
→雰囲気の周知
- ・部会Twitterの運用再開

### こんな時は挙手してね

1. 出てきた用語の意味がわからないとき
2. 発言の意図が伝わっていないとき
3. 質問して良いのか迷ったとき
4. 何か引っかかるところがあるとき
5. 誰かの発言が聞き取れなかったとき



# 1. かんがえるソファ(成果と課題) (福士)

## 課題

### 集客力

- ・参加のハードルが高い可能性
- ・イベントのマンネリ化(?)  
→別企画を開催予定
- ・学務情報システム用広報文の工夫  
→事務作業の効率化により時間を捻出

### 振り返りの不十分

- ・かんがえるソファ振り返り評価項目の精査・改善  
→5段階の総合評価項目を細分化

## 2. 美術館企画

(須田)

学芸員さんと巡る  
美術館ツアー

開催日時：2022年8月3日(水) 14:00-15:30  
 集合場所：宮城県美術館エントランスホール  
 (正面入口を入ってすぐ)  
 持ち物：学生証/鉛筆/メモ  
 定員：20名

川内から徒歩5分にある宮城県美術館。実は行ったことないという方も多いのでは？  
 このイベントは最初に学芸員の方から美術の楽しみ方について簡単なレクチャーを頂いたあと、自由に展示を見て回って、感じたことを冒でシェアするイベントです！  
 美術館ってなんか敷居の高いなあ...と感じている方！ぜひお越し下さい。

### 1. 企画概要

宮城県美術館に行って学芸員の方と一緒に美術の楽しみ方を知る企画。

Point

美術鑑賞ってなんだか難しそう...  
という人に向けて取っ掛かりを作る

アンケート回答者の約半数が  
今回のイベントで初めて美術館を訪れた  
と回答(11名/20名)

### 2. 実施記録

①7/27 14:00~15:30

参加者17名(キャンセル4名)

②8/3 14:00~15:30

参加者18名(キャンセル2名)

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

7

## 2. 美術館企画

(須田)

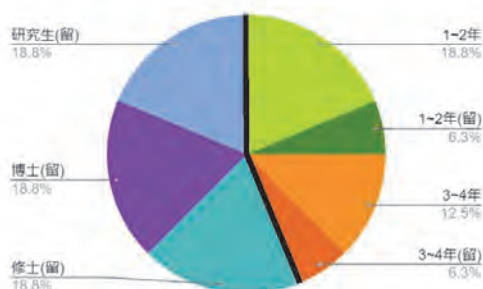
広報媒体：学務情報システム

申込状況：7/27開催→広報開始30分程度で定員20名に達する

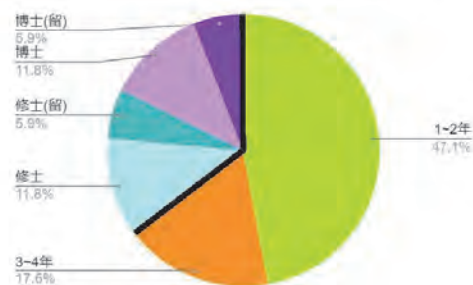
8/3開催→1,2年向け広報で11名申込,3年以上向け広報開始20分で定員20名に達する

学務情報システムによる広報効果は企画内容によってはかなり高い

- ・参加者が参加したくなるイベント  
ex)楽しそう,通常ではできない体験ができる,内容や得られるものが明確...etc.
- ・目新しいイベント



▲通常通り募集した場合(7/27)



▲学年の制限を設けて募集した場合(8/3)

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

8

## 2. 美術館企画

(須田)

### 3. イベント内容



①学芸員さんによるスライドトーク (20分間)



②3~4人の小グループで自由鑑賞 (40分間)



③各グループで気になる作品を1つ発表 (20分間)

美術作品を鑑賞するって  
どういうことだろう？

美術館ってどんなところ？

美術作品をどうやって  
みたらいいの？

これ何が描いてあるかな

何を伝えたいんだろう？

どうやって描いた  
と思う？

こんな風に観たよ

ここが気になるよ

面白い考えだね！

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

9

## 2. 美術館企画

(須田)

### 4. アンケート

#### ①良かったところ

##### 【学芸員さん】

- 学芸員の方の説明が、考えさせられるもので面白かった。美術鑑賞がはじめての人にも分かりやすい。
- 学芸員の解説を聞くのが **すごく貴重な機会** だと思います

##### 【対話しながらの鑑賞】

- 自分の見方だけでなく、**他の人の見方を知ることで絵に対する印象が変わったのが面白かった**。4人グループも、人数的に丁度良かったと思う。
- 美術品について語り合いながら回れたことで、**互いの価値観や、美術品をどう捉えているのかを知ることができ、より一層、美術館の楽しむことができた**

##### 【交流】

- 普段会えない人と話せた

#### ②気になること

- 一人で回る時間も欲しいです
- 他のお客さんもいる中での活動がやりやすかった気がした(特に最後の発表のところ)。

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

10



## 2. 美術館企画

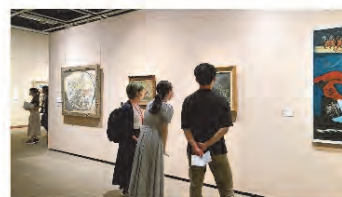
(須田)

### 4. アンケート

#### ③アイデア

##### 【創作体験】

○学芸員の方についてもらったの、**絵画や工作の体験**



##### 【より詳しい説明がほしい】

○**どのような方法で描かれたのか**についての説明

○**作者がどんな人だったか**ということについてより詳細な説明があると、さらに作品を味わうことができる気がします。

##### 【別の鑑賞スタイルの提案】

○**1枚の絵を選び、大人数でプレスト**する(ダイレクトに他の人との捉え方の違いを感じられると思う)

○グループをシャッフルする



+ アンケートでは**最も印象に残った絵**を教えてくださいました！

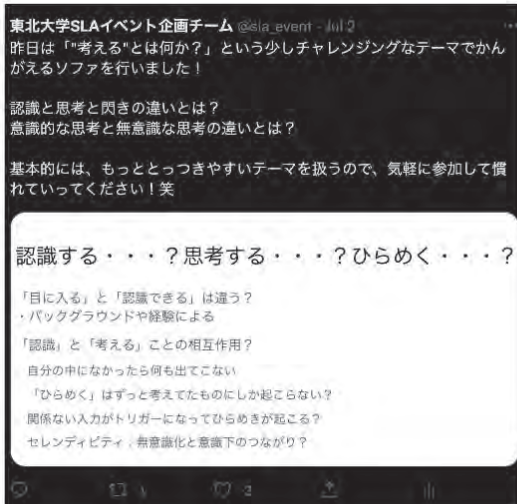
・アンケート項目の追加提案  
・イベントに関するアイデア  
などあればどんどん教えてください！



2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

11

## 3. Twitter運用



### ・目的

イベントの告知を効果的に行う  
企画SLAが何を行っているの  
どんな雰囲気なのか

### ・施策

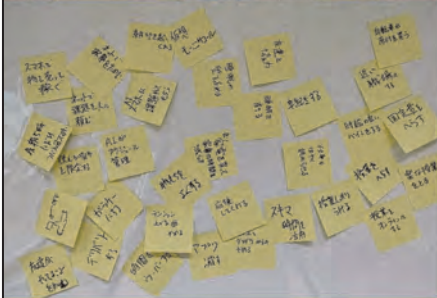
参加の呼び込み  
かんがえるソファの成果物のツイート

### ・結果

SNS使用層にアプローチ  
フォロワーを増やす努力が必要  
352人フォロー, 37人フォロワー

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

12



# 企画SLA2022年度

## 後期活動報告

2023/2/15

飯田司 須田華 福士海伊 加藤嵩大  
生方颯真 日下部翔大 田村彩奈

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

1

## 目次

1. かんがえるソファ
2. 美術館企画
3. デザイン思考ワークショップ
4. 来期に向けて
  - i. ディベート企画
  - ii. 新入生向けTwitter発信

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

2

# 1. かんがえるソファ(概要)

(加藤)

SLAのファシリテーションのもと、  
参加者が身近なテーマについて  
話し合い、深める場



かんがえるソファ = 「対話」「議論」ではない



身近な「あたりまえ」に対する疑問

自分なりに考え、表現する力／自信



異なる視座に対する気づき

自身の価値観・世界観の変容



2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

3

# 1. かんがえるソファ(実施内容)

(加藤)

開催日	テーマ	参加者数	司会係	記録係
10月27日(木)	周りと違って心地いい?	4(3)	福士	須田
12月1日(木)	「すごい人」ってどんな人?	7(3)	加藤	福士

参加人数 のべ11名(うち留学生6名)

\*カッコ内は留学生の人数

## 参加者の感想(抜粋)

- ・今まで知らなかったことを知ることができた
- ・異なる文化的背景を持つ人々の意見を聞くことができた
- ・自分の考えの根底となる部分について考察できた

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

4

# 1. かんがえるソファ(合同開催)

(加藤)

## 日本語部会との合同開催

### 企画部会

イベント実施を重ねるごとに、  
集客の限界を感じる

### 日本語部会

多忙のため日本語上級者向け  
イベントができない

広報面・運営面での協力



留学生(とくに日本語上級者)への集客の拡大  
「日本語を練習したい」というニーズへの対応

さらにほかの部会とも協力していきたい！

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

5

# 1. かんがえるソファ(開催のようす)

(加藤)



2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

6

# 1. かんがえるソファ (前期からの改善) (福士)

## 前期までのイベントリフレクション

**主観的**

ファシリテーションや記録をしたSLAが反省点を提示  
⇒ 客観性を担保できない

**曖昧**

各回の成果を総合点化 ⇒ 点数評価の根拠が残らない  
根拠の具体性がない

## 今期の取り組み

- ① SLAが参加者側でイベントに参加し、終了後にフィードバック
- ② ふりかえりアンケート項目の具体化・細分化

## 期待する効果

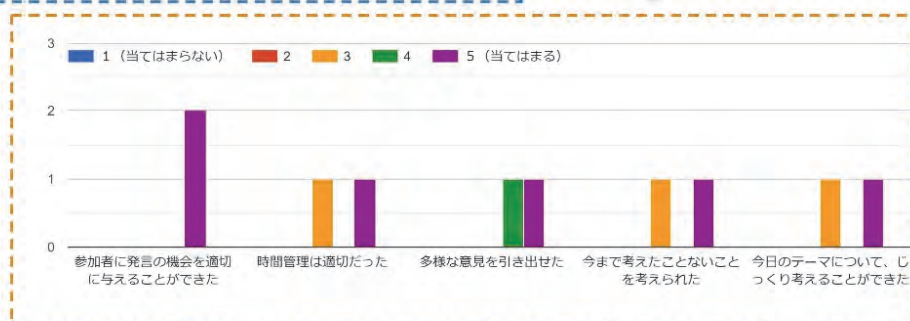
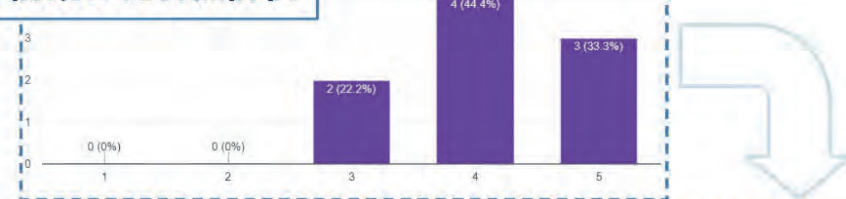
- ・具体的なポイントを意識しながらファシリテーションができる
- ・参加者目線で改善点を意識できる
- ・ファシリをしない新人SLAの研修にも

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

7

# 1. かんがえるソファ (前期からの改善) (福士)

## 前期の総合点評価



後期は評価項目を具体化・細分化

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

8

# 1. かんがえるソファ (マニュアル作成)

(飯田)

## かんがえるソファ 活動6年目(2017年度前期～)

- ・実施フロー全体を俯瞰して新人に継承する文書の整備
- ・今後のドライブ更新を見越したノウハウの整理・風化防止
- ・企画自体の目的やニーズの再考

### 目的、効果、実施フロー、Tips、活動記録等を含む 包括的なマニュアル「かんがえるソファ知の集成」の作成

1. はじめに
2. かんがえるソファとは
3. 企画部会はなぜ「かんがえる」
4. かんがえるソファ実施マニュアル
5. ファシリテーションとグラフィック
6. 広報
7. かんがえるソファの歩み
8. オンライン開催が与えた変化
9. かんがえるソファ類似イベントの開催
10. これからのかんがえるソファ

### かんがえるソファ知の集成の今後

- ・ドライブに加え、ブログ未公開ページに保存
- ・随時加筆して新人研修やイベント発信に活用
- ・かんがえるソファのノウハウを他の企画に生かす

かんがえるソファをこれからも

# 2. 美術館企画

(須田)

学芸員さんと巡る  
美術館ツアー

SLA主催

カンディンスキーとクレーを鑑賞しよう!  
Kandinsky & Klee

14:30 受付開始  
【服装があればこの時点で  
着入準備するのをおすすめ!】

14:55 宮城県美術館  
エントランスホール集合  
※正堂入口を入ります

15:00 学芸員さんによるスライドトーク

15:30 グループ鑑賞  
感想・アイデアをシェア  
【鑑賞後必ず15分は必ずグループ鑑賞  
を必ず行ってください。感想・アイデアを  
シェアしましょう!】

16:10 イベント終了

開催日時: 2022年12月13日(火)  
12月15日(木)  
14:55-16:10

持ち物: 学生証/鉛筆/メモ  
※学生証がないと美術館内に入ることができません。  
必ず持参してください。

定員: 各回20名

※注意事項  
川内から徒歩5分にある宮城県美術館。実は行ったこと  
ないという方も多いのでは?  
今回は、クレーとカンディンスキーという2人の画家に  
焦点を当て、学芸員さん・参加者と共に鑑賞・感想を  
シェアします! 美術鑑賞って難しそう...と感じ  
ている方、ぜひご参加ください!

## 概要

宮城県美術館を学芸員さんとめぐり、  
美術の楽しみ方を知る企画。

### Point

美術鑑賞ってなんだか難しそう...  
という人のきっかけづくり

12月にはカンディンスキーとクレーという2人の  
画家にフォーカスした企画を実施  
⇒より専門的内容に踏み込む

## 実施記録

①12/13 14:55~16:10 参加者15名(申込21名)

②12/15 14:55~16:10 参加者12名(申込20名)

③2/9 14:00~15:25 参加者18名(申込20名)

## 2. 美術館企画

(須田)

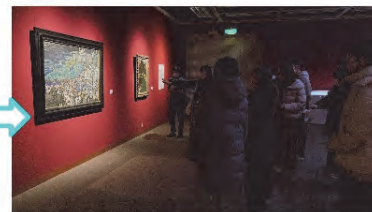
### イベントの流れ



①学芸員さんによるスライドトーク (20分間)



②3~4人の小グループで自由鑑賞 (40分間)



③各グループで気になる作品を1つ発表 (20分間)

美術作品を鑑賞するって  
どういうことだろう？

美術館ってどんなところ？

美術作品をどうやって  
みたらいいの？

これ何が描いてあるかな

何を伝えたいんだろう？

どうやって描いた  
と思う？

こんな風に観たよ

ここが気になるよ

面白い考えだね！

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

11

## 2. 美術館企画

(須田)

### 前期を踏まえて改善した点

○タイムスケジュールや準備物等が整理されていない  
準備や進行に手間取り、終了時刻を過ぎることも...

➡ ①タイムスケジュールの作成

○グループ鑑賞でどのような意見が出たのか把握できていない

➡ ②メモ用紙の配布

○人気の美術館企画から、人が集まるイベントの要因を探りたい！

➡ ③アンケート項目の修正

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

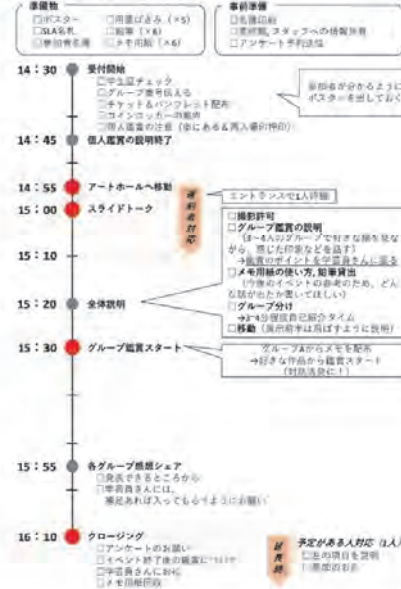
12

# 2. 美術館企画

(須田)

## 変更点とTips ①タイムスケジュールの作成

美術館企画タイムスケジュール(2022/12/15)



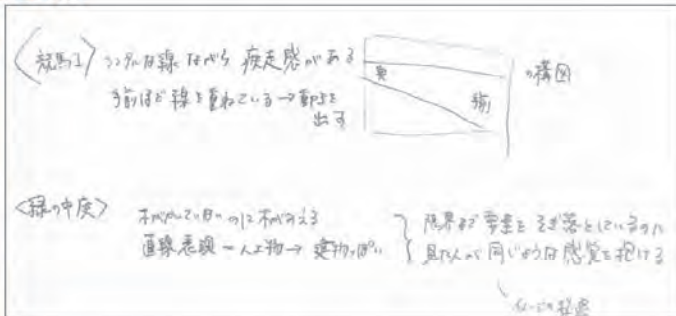
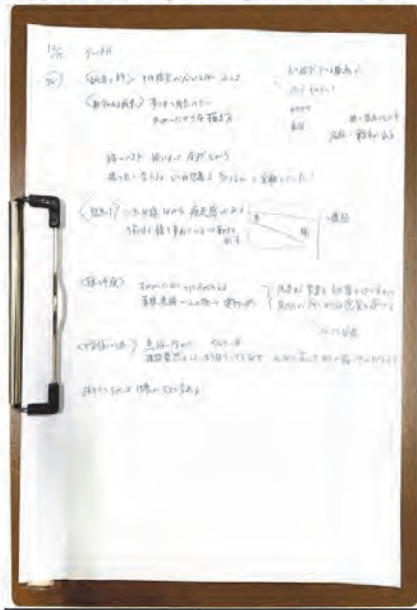
- 準備物
  - 事前にしておくこと
  - 当日の流れ 注意点
- を一枚に集約

進行手順の確認  
 学芸員さん・SLA間の情報共有  
 ⇒ イベントの進行を円滑に！

# 2. 美術館企画

(須田)

## 変更点とTips ②メモ用紙の配布



各グループで出た意見をメモ  
 ⇒参加者がどのように鑑賞したかを  
 美術館側にフィードバック  
 ⇒ 今後のプログラム作成に生かす



## 2. 美術館企画

(須田)

### 変更点とTips ③アンケート改善

【次の項目が魅力的だったかを5段階で評価してください】\*

	1 (魅力度低)	2	3	4	5 (魅力度高)
グループ鑑賞	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
各グループで 出た意見のシ ェア	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学芸員さんによる 最初のス ライドトーク	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学芸員さんによる 解説	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
他学部・他学 年の人との交 流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
美術の楽しみ 方について知 ることができ た	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

課題:美術館企画は定員がすぐ埋まる  
⇒かんがえるソファの  
集客力が弱い...



人気企画から、  
イベント集客の要因を  
探せないだろうか...?

参加学生がどのような点を魅力に  
感じているのか？  
細かい項目でアンケート調査

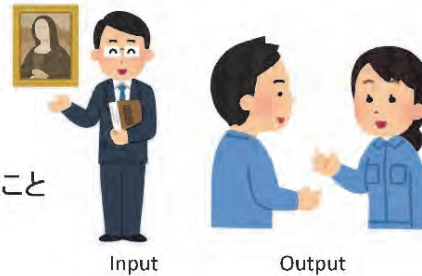
⇒他の企画にも活かす！

## 2. 美術館企画

(須田)

### アンケートから 良かった点

- 鑑賞前に学芸員さんによる  
作品背景の解説があったこと
- グループ鑑賞で他の参加者の意見を聞いたこと



Input

Output

### つまり、イベントの魅力は

#### 学芸員による解説(Input)

一見難しい「絵画」の  
解像度が上がる

新たな気づき

#### 意見・感想の共有(Output)

「絵画」に対する  
多様な意見に触れる

自身の価値観の再認・変容

## 2. 美術館企画

(須田)

### 来期の予定

6月から  
数年間の長期休館に入ります...!



美術館休館まで  
4~6月

- **美術館を活用したイベントの充実**
  - 常設展/クレー・カンディンスキー鑑賞
  - ◇ **彫刻鑑賞**
  - ◇ **美術館(建築)ツアー**
  - 美術館ピクニック  
(美術館中庭を活用して、新入生や留学生の交流を)

休館期間  
7月~

- **学芸員さんを招いてのイベント**
  - ◇ **創作ワークショップ**
  - ◇ **アートをテーマにした対話イベント**  
(あいちトリエンナーレなど  
実際に起きた問題を取り上げて議論)  
⇒色んな分野の教授陣を招いてみるのもいいかも?

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

17

## 3. デザイン思考ワークショップ

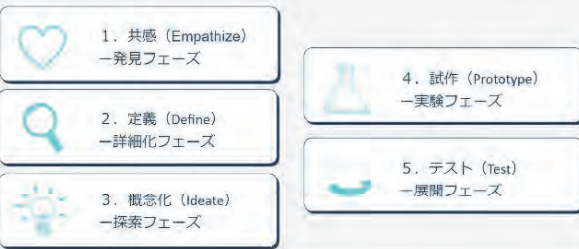
(飯田)

### デザイン思考ってなに?

課題の表面的な解決にとどまらず、  
課題を抱える側の視点に立って  
本質的解決を探るためのマインドセット  
図のようなプロセスを特徴とする

授業で名前だけは聞いたことある  
ビジネスシーンで普及しているが、  
学習や大学生活にも活用できるかも

### デザイン思考5つのプロセス



学生団体「TIDE」(\*)が  
デザイン思考ワークショップを主催しているらしい

※スタンフォード大学UIFプログラム修了生のコミュニティ。  
コミュニティスペース「I-River」@青葉山を拠点とする。  
各メンバーがイベント企画のプロフェッショナル。

体験  
してみよう!

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

18

## 3. デザイン思考ワークショップ (飯田)

### イベント実施

ワークショップ「はじめてのデザイン思考」

» 進行・解説 TIDE代表 青山さん

1月10日「共感」...7名参加

ワクワクする瞬間を引き出すJourney Map

1月17日「発散と収束」...8名参加

アイデアが溢れるブレインストーミング

1月24日「何度でも挑戦」...4名参加

ワクワクを共有するプロトタイピング

(マシュマロチャレンジ)



### 参加者感想(抜粋)

- 意見を発散させていく楽しさを感じた
- 様々なおもしろいアイデアを聞いた
- 研究やグループワーク、将来もデザイン思考を活用したい

### 今後は

- ◆TIDEと引き続き情報交換
  - ◆TIDEとは異なる企画部会の独自性を検討
  - ◆部会メンバーにもデザイン思考を共有
- ⇒新たなワークショップ企画へ

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

19

## 4. 来期に向けて デイバート企画 (生方)

### 企画の背景

- かんがえるソファの利用者が減少傾向にある
  - 「何をやっているのかよく分からない」
  - 「参加することで得られるものがよく分からない」
- ゆえに、**わかりやすい企画**が必要、という仮説を立てた
  - デイバート企画はどうだろうか？
    - ルールの下での話し合い
    - 生方のバックグラウンドが生かせる



### 今期の進捗

- デイバートのやり方に関するスライドの作成
- 佐藤先生の授業と連携しリハーサル&フィードバック
- 準備はおおむね完了したが、開催時期が試験期間と重なってしまい、今期は見送り

### 来期の目標

- 新年度の早期開催をめざす
- かんがえるソファとトピックをリンクさせ、**相互作用を期待**
  - 例: デイバート「帰省はすべき」、かんがえるソファ「帰るとは？」
- **オーディエンス参加**も募集して、イベント全体の発信力を強化

2022年度SLA活動報告会(企画SLA)

20

## 4. 来期に向けて 新入生向けTwitter発信 (日下部)



### 現状

419following , 64followers (2023/2/2)

### 目的

SLA企画部会の認知拡大

広報媒体としてのTwitterの充実

### 具体的な取り組み

かんがえるソファ実施記録のツイート

新入生の不安を解消するツイート

例) 大学生活準備で

はやめに用意すべきものは？

仙台のどこに住むのが便利？

↑SLAの皆さんも是非フォロー拡散お願いします！

## 6. SLA卒業プレゼンテーション

### || Summary ||

卒業プレゼンテーションとは、当該セメスターかぎり退職するSLAが、これまでの活動をふり振り返り、大事にしてきたことを、来期も活動を続けるSLAに引き継ぐイベントである。2022年度は活動報告会の中で実施した。内容は主に、日々の対応のコツ・技やSLAとしてのやりがいや楽しさを報告するものであり、残るSLAにとって大きな刺激となっている。プレゼンテーションへの協力は任意であり、以下では2022年度に発表をした6名の資料をまとめる。

### 2022年度後期セメスター活動報告会 卒業プレゼン

2023年2月

中島 啓貴



愛媛県 松山空港 みかんジュースタワー

## ①「信頼すること」

- はじめは学問的に正しいこと、問題が解けることに注意が行きがち。
- 学生に手とり足取り伝えようとしがち。  
→ 学生が受け身の姿勢になってしまう
- **学生を信頼して、学生の方針を尊重する**
- 自分で考えてみようと思える  
→ もがき方を覚えるとずっと役立つ  
能動的な学びは学習効果高

2

2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

## ② 雑談をしよう！

- SLAには様々な背景の人が存在
- 何気ない雑談から思いがけない面白い考え方に触れることができる
- 学問が好きなメンバーばかりなので学問・教育に関する話題で盛り上がりよう 知的好奇心が大事



理学部自然指標本館の三葉虫 すごい躍動感！



愛媛県 宇和島風の鯛めし

3

2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

# 2022年度後期セメスター活動報告会 卒業プレゼン

2023年2月  
数学部会

松本悠太

2023.02 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

## ①「わからない」を認める

- SLAに来る学生←超偉い
- そして学生は不安を抱えている

自分が「わからない」を認めることで・・・

- 学生に「一人じゃない」ことを伝えられる
- 自分へのお守りになる

2023.02 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

2

## ②SLAと話そう

- ダイバーシティなコミュニティ

英語は準備ゲー  
多様体を理解すると  
人生変わります

指一本折って  
論文書けるなら  
安いもん  
天文学を研究してたら  
星の瞬きが  
空気の揺らぎとしか  
思えなくなる

元素表に載っていない  
"裏"原子がある  
数学って  
戦車なんですよ

チンを  
打つと  
興奮する

#発言まとめメーカー

3



# 2022年度後期セメスター活動報告会 卒業プレゼン

2023年2月15日

## 千葉湧太

0

2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku university

### 自分の立ち位置を俯瞰する



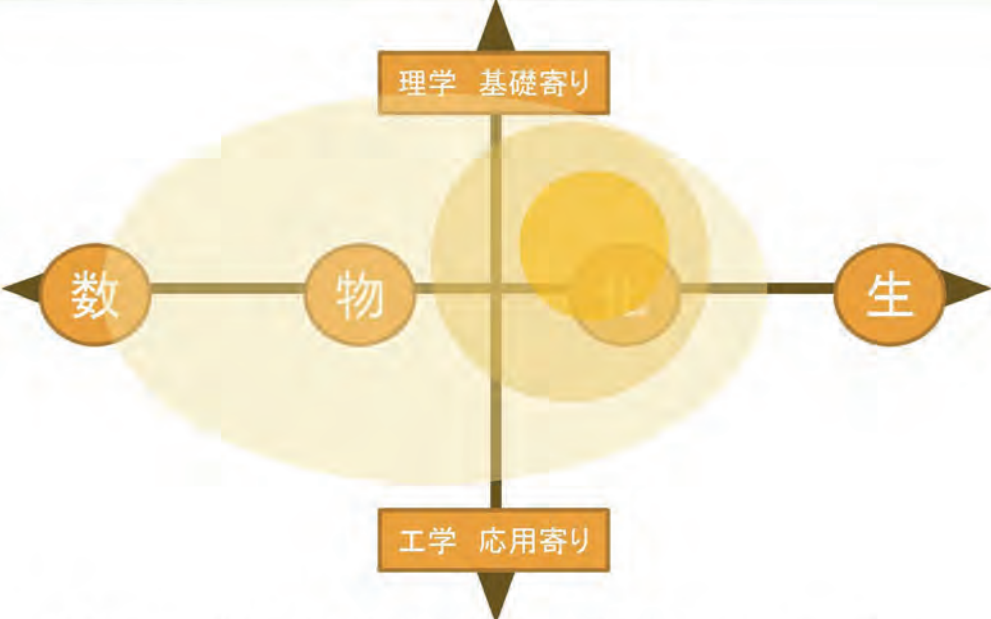
互いのバックグラウンドが  
重なるほど、理解が進む



1

2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku university

# 自分の立ち位置を俯瞰する



視野の共通点・相違点を可視化してみよう

2022年度後期セメスター活動報告会  
卒業プレゼン

(ぼくのかんがえる)

## SLAにとって大事なこと

2023年2月

中野 惟文



2023.02. SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

## そもそも何を求められているのか

### ①「良き先輩」として利用学生に接する

- ・大体の人が意識している
- ・先生という立場ではない
- ・「良き先輩」とは性格ではなく「役割」

### ②「良き先輩」を身につける

- ・「良き先輩」とは何かを考え、実践する
- ・意外と意識している人が少ない…かも



2023.02. SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

# 「良き先輩」とは何か

Hanc marginis exiguitas non caperet.

この余白はそれを書くには狭すぎる。



個人的に重要だと思うキーワード

- ・利用学生に近い立場
- ・自律的な学習を支援する
- ・課題に取り組む姿勢を見せる
- ・「研究者としての常識」を持つ
- ・一般的な「大人としての常識」を持つ
- ・知らないことは素直に認め、それを学ぶ

etc.

2023.02. SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku university

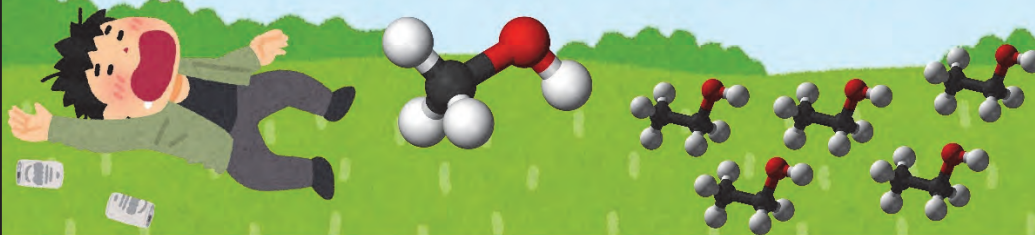
# 「良き先輩」を身につける

・「良き先輩」を身につける＝ハビトウス

- ・ハビトウス: 経験から形成される性質の体系。  
行為や認識を方向づけるもの。(Cf. ブルデュー)
- ・簡単に言えば習慣とか文化とか。

・「役割」から「性質」へ＝SLAとしての成長

- ・「良き先輩」を実践し、その要素を内在化する。
- ・先輩-後輩関係に留まらず、あらゆる場面で役立つ。



2023.02. SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku university

2022年度前期セメスター活動報告会

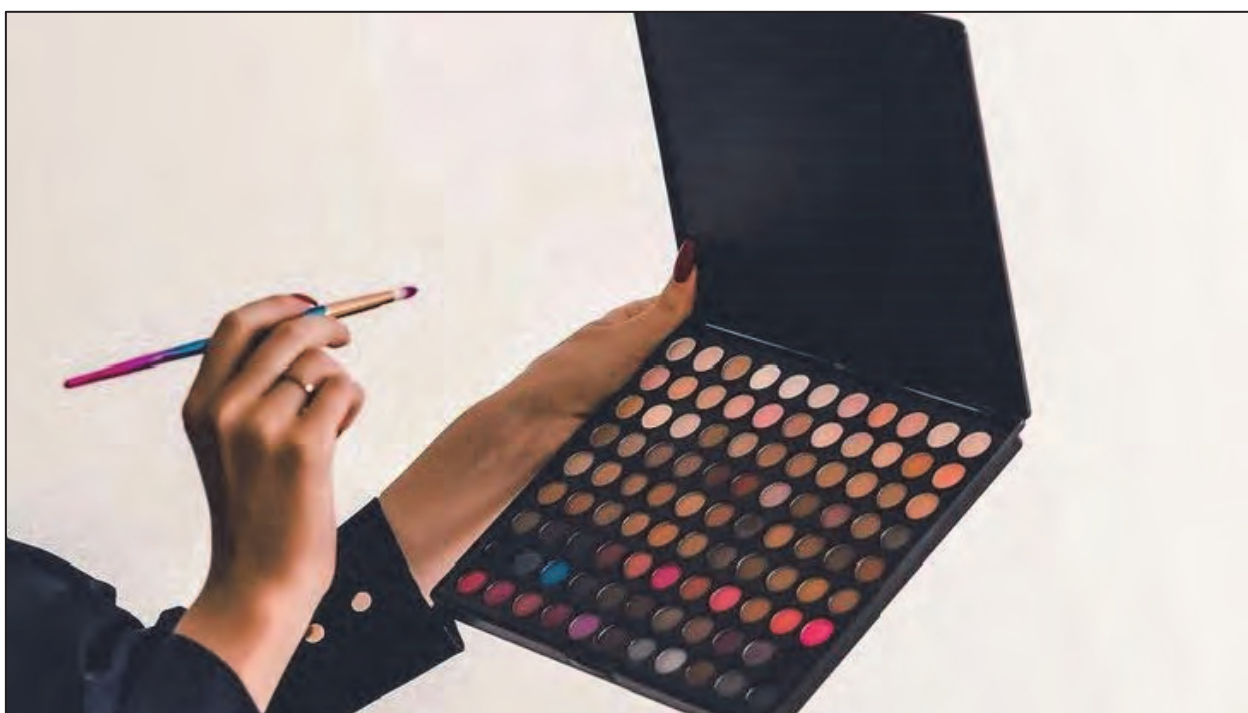
# 見せ方・魅せ方を大切に

2022年8月

英語部会 森坂太一



2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support). Tohoku university



6

SLA卒業プレゼンテーション

## 相手が何を求めているか、自分は何を伝えたいかが大切だが、お化粧も重要

- あなたはもしかしてスライドのデコレーションをおろそかにしていませんか？
- どんなに内容がよくても、相手に伝わらなければ意味は半減してしまってもったいないです
- 見せ方・魅せ方が重要



2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

## お化粧は大切



たかがお化粧  
されどお化粧

内容がよくても伝わらなければ意味は半減  
見せ方・魅せ方が重要

2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university





# 卒業プレゼン

日本語部会 小川



2019年のラグビーワールドカップ日本代表メンバーに占める外国出身選手の割合はどれくらい？

ほとんど半分！

約45%  
(31人中14人)



## SLAはラグビー日本代表

異なるバックグラウンドを持ちながら、同じ目標のために切磋琢磨できる場所



### ①丁寧なコミュニケーション

- 利用者
- 同じ部会のメンバー
- 他部会のメンバー

「言わなくても大丈夫かな」と  
思うことが実はとても役に立つ！





## ②人に興味を持つ

- 対応が盛り上がる
- 意外な事実を発見できる
- 人と繋がれる

好奇心旺盛っぽくなるためのTips

Step1: とりあえず5W1H

Step2: 仮定や別条件を考える

相槌も大事!

ドイツと一緒に  
ビールを飲みましょう!



## 1. かんがえるソファ実践の包括的レビュー

### かんがえるソファ知の集成

理学研究科地学専攻 飯田 司

2023年2月編

#### 1. はじめに

かんがえるソファに関する研修を行うにあたり、「習うより慣れろ」をよりどころとする因習は、私が研修をする側・される側のいずれにあっても不変であった。目的や目標の言語化・定量化が為しがたい活動であればこそ、実施における意識共有や経験知獲得の途上で実践を要することは確かである。しかし、その因習が言語化の軽視の結果であってはならない。ましてや、言語化されない知の風化を招いてはならない。2016年度後期の企画部会発足以後、再々の世代交代がなされ、意識と知識の継承を確実なものとするべく研修の再構築は急を要する。

課題はあるものの、解決への糸口は案外身近にあるものだ。すでに言語化された資料が今まさに企画部会ドライブの肥やしとなりつつある。拙筆は、不足したソファの言語化を補うべく、ドライブ内に散逸した「巨人の肩」を拾い集める試みである。先輩諸氏の残された声をもとにかんがえるソファを探ることを基本とするが、私個人の言語化の練習を随所に含むため、理系学生の駄文を容赦されたい。

世代を超えた企画部会初任者研修のお手伝いできればうれしい。

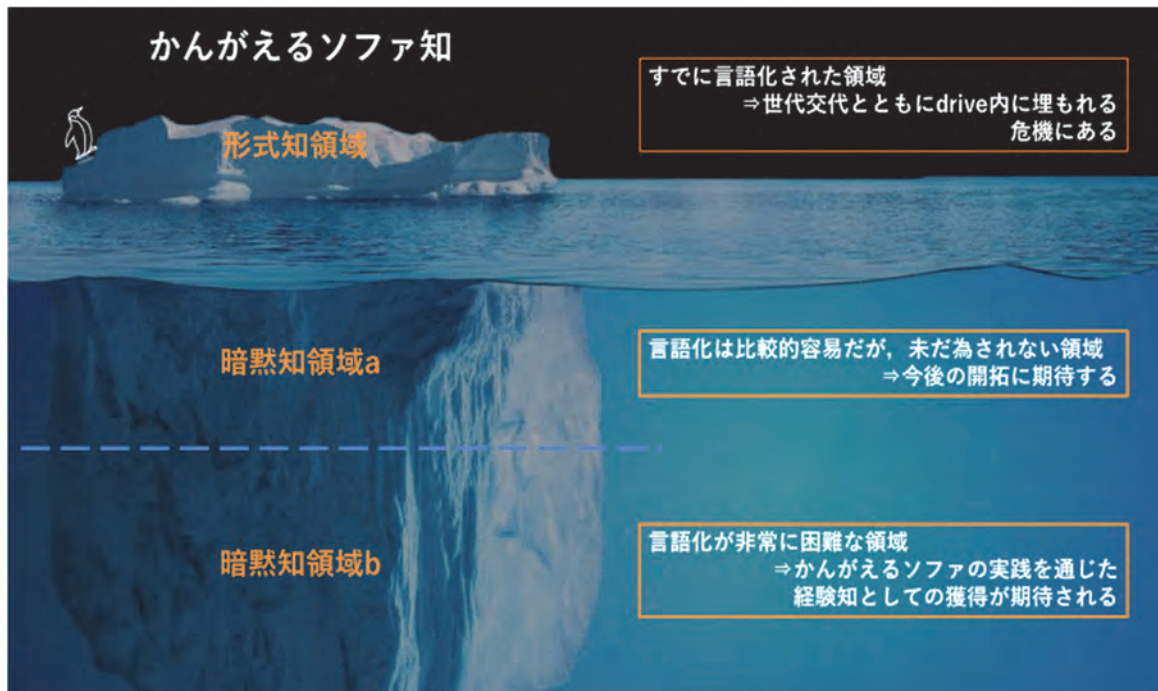


図1 かんがえるソファ知の体系は冰山である

## 2. かんがえるソファとは

### 2.1. かんがえるソファとは

かんがえるソファは企画部会発足から半年後の2017年5月に始動し、2022年度後期現在まで定期開催されており、いまや企画部会のメインイベントである。てつがくカフェ(※)の基本思想と様式を踏襲しながらも、哲学カフェの随意性をもとに後述(2.2.)のような特徴を備え、ガラパゴス化が進んでいる感がある。

かんがえるソファは、対外的に「普段気にしない常識となっている問題やテーマについて、自由に話し合い、思考を深める場」(2021年度かんがえるソファ紹介スライド)と説明される。ここに挙げられた点がソファの特徴であり、魅力となりうる部分である。

※「てつがくカフェ」は福井大学 西村高宏 先生やその流れをくむ哲学カフェの取り組みの呼称だ。「かんがえるソファ」も2017年6月に東北大で西村先生をお招きして行われたてつがくカフェをたたき台とするため、一応はその系譜にある。一般に、こうした取り組みは哲学カフェあるいは哲学対話と呼称される。

### 2.2. 哲学カフェとは

哲学カフェの概要について西村(2018)を引用して紹介する。

“哲学カフェは、いわゆるおしゃべりやディスカッションとは決定的に異なる。その理由は、以下のような哲学カフェ独自の約束事による。

- ①対話が促進されるようフラットな対人関係にする。参加学生すべてが平等な立場で考えて語ることが可能な場、そして、安全な場にする。
- ②自分の考えを丁寧にまとめる。単なる感想ではなく、熟慮した意見を反省的に捉え返す。
- ③他の参加学生の意見を正確に理解し、好意的な関心のもとに聴く。
- ④ 自分の考えとの類似点と相違点を確認する。
- ⑤質問をする際には、他の参加学生の意見に論理矛盾がないか、不整合がないかを問う。
- ⑥自分の考えと他者の意見とをすり合わせ、修正する。場合によっては合意点を見出す。
- ⑦進行役(ファシリテータ)は、「意見の複数性」を明確にし、それを他の参加学生にわかりやすく伝える。
- ⑧思考の流れ、プロセスそのものを楽しむ。自分の考えが変わること自体を楽しむ。

[...] 良い議論を育むための唯一可能なことは、実践を繰り返す、その中で良い実践を共に見つけていくことしかない。[...] たとえ一人が緻密な論理を構成したり、知識を駆使して概念を導入したとしても、それが他の人に理解できず、議論に貢献できなければ、意味がない。つまり、知識の有無が議論を決定するのではなく、参加学生の関心を動かし、議論が活性化されることが重要となる。

[...] こうした中で目指すべきは、目標(答えや合意)に効率よく達することではなく、「議論や思考過程そのものを楽しむこと」である。”

### 2.3. かんがえるソファは他の哲学カフェとはどう違う？

○哲学の専門家でもファシリテーションの専門家でもないが故の対話の自由さ

全国ではさまざまな主体による哲学カフェが行われている。ソクラテス・サンバ・カフェは筑波大学人文社会科学部哲学・思想専攻によって、オンライン哲学カフェ「てつがく部」は浄土真宗本願寺派備後教区仏教青年連盟によって、ヨコハマタイワは哲学未修の40代男性(HP参照)によって開催されている。なかには、実施主体の趣向が現れたテーマの設定もみられる。学習院大学哲学科関係者による Philo LABO は「家族」「恋愛」「お金」というように思考における自由度の高いテーマ設定を行っており、「性」を共有する哲学サロン「ふらてるにて」は主にジェンダー界隈の話題を扱っている。

かんがえるソファには何ができるだろうか。われわれのソファでは「人間らしさって何だろう(2018年1月24日開催)」から「どこからため口?(2021年1月25日開催)」まで、テーマだけを見ると哲学的要素を強く感じるもの、あまり感じないものまで様々である。

西村(2018)は、哲学の議論と他の議論とを区分する特徴の一つとして「人間や世界にかかわる普遍的な問いを立て、それにこたえようとする事」をあげている。したがって、学問としての哲学において一般に扱われる諸問題にこれらのテーマが近いか遠いかは、哲学本来としてあまり重要でないものと思われる。一般の哲学カフェでもテーマに哲学性が問われることはない。

この哲学カフェの自由さを最大限活用できる環境が、かんがえるソファにはある。つまり、実施主体の SLA ひとりひとりに学問的哲学の文脈やファシリテーションの経歴がほぼないことによ

て、しがらみのない対話の試行錯誤の中にガラパゴス的な経験知が蓄積されうる。あるいは、参加学生が東北大生に限られるため比較的均質であり、なおかつ実施主体である SLA も学生として同じ目線に立てる環境の結果、おそれず自由なテーマ設定と対話の実験ができる。こうした長所を余すところなく活用した先に、唯一無二のソファの価値が生み出されるのではないだろうか。

ここでは SLA が哲学やファシリテーション術の専門家でないことによる長所を挙げたが、無論、SLA 各人が折に触れてそれらの研鑽に努めることを否定するものではない。即効性はなくとも研鑽はいずれ対話の助けとなるはずだ。研鑽と実践の相乗効果すら期待できる。他方で、SLA がどんなに研鑽に励もうと、対話の主体である参加学生は東北大生に変わらないわけであるから、かんがえるソファの独自性は簡単には揺るがないのである。

#### ○まとまらないアイデアでもいい寛容さ

哲学カフェ（西村，2018）では丁寧な意見の発話が求められた。しかし一方のかんがえるソファでは、まとまらない意見の共有も初期から推奨されてきた。例えば、「よりよいてつがく対話のためのルール」（綿引，2017）には「⑥まとまらなくても、結論が出なくてもいい」「⑦途中で自分の話していることが分からなくなってもいい」ことが示されている。SLA のいちイベントであるかんがえるソファは、思考力の向上や発言に対する自信の獲得（2021 年度かんがえるソファ紹介スライド）といった学びに重点を置く。参加学生の成長を目指す姿勢とそれがゆえの強い寛容さはかんがえるソファの大きな特徴である。

#### ○かんがえるソファは参加学生個人の思考の深まりを目指す

坂本（2020a）は、かんがえるソファの目指す対話の「深まり」として「議論全体の深まり」と「個人レベルの深まり」とを示したうえで、現状のソファにおいては「個人レベルの深まり」がより重視され、「議論全体の深まり」はその手段と化している現状を示唆した。他方で西村（2018）に示された哲学カフェは、あくまで参加学生相互の共同作業の結果としての「議論全体の深まり」を主眼とし、それを楽しむものであるように見て取れる。そこに「個人レベルの深まり」が存在しないわけではないが、一般の哲学カフェにおける各個人の意見は、他の意見との共通点と相違点を明らかにし、対話を充実させる道具にすぎないという印象さえ受ける。

かんがえるソファの参加学生個人にフォーカスする態度は、このイベントが SLA における学生の学びを出発点とするが故であろう。学生ひとりひとりが各々のモチベーションに従った姿勢でイベントに参加し、思い思いに楽しみ学ぶ、ということがここでは許容されている。参加学生の「まなび」を最大化・緻密化することに重点が置かれ、対話全体が客観的にみて深まっているか、対話がどの程度テーマに沿ったものであるか、という評価基準は比較的重要度が低い。この態度は、かんがえるソファにおける対話の営みをより自由なものにし、あるいはイベント自体への参加のハードルを下げる可能性を宿している。しかし同時に、かんがえるソファの価値ややりがいを参加学生各人に求めるからこそ、イベントの「成果」を評価することは困難を極める。イベントの目的さえ見失い

かねない。その諸刃の剣に依った在り方のかんがえるソファは求めているのだ。

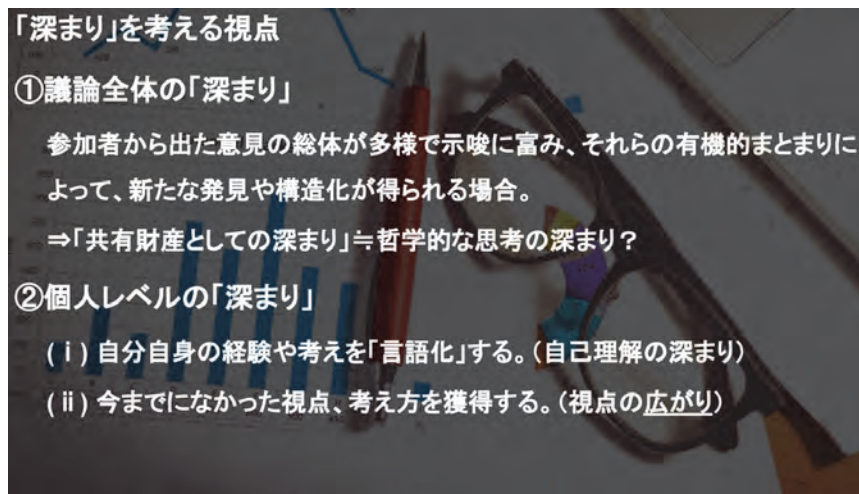


図2 かんがえるソファの「深まり」(坂本, 2020a)

### 3. 企画部会はなぜ「かんがえる」

#### 3.1. 企画部会のミッション

学習支援センターの使命は次の3点である。

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を、実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生としての資質を育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、東北大学の学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体(ラーニング・コミュニティ)の形成に寄与する。

SLAはこれと使命を同じくし、なかでも企画部会は企画発信型学習支援、すなわち学習イベントの実施によってこれらの使命に寄与する。

企画部会のミッションについて、坂本(2020b)をもとに考える。企画部会の立脚する学習支援課題は佐藤(2017)に詳しい。まとめると(a)授業外における自発的な学習雰囲気希薄、(b)文系学生支援主体の不足、(c)学際的ラーニング・コミュニティの不在、(d)学生の教養教育の意義に対する無理解である。

上述の課題解決に向けたアプローチについて、佐藤(2017)をまとめると以下の三つとなる。これらは企画部会発足の根拠であり、そのミッションと呼んでも差し支えないだろう。

- (イ) 科目の枠を取り払った、多様な学生が共に学ぶ場の創出
- (ロ) 知識の習熟にとらわれない汎用的能力（論理的思考力、批判的思考力、コミュニケーション力、チーム力、行動力など）向上の機会の提供
- (ハ) まなぶ楽しさの積極的普及

以上を鑑みれば、企画部会の実施する学習イベントは、分野の枠を跨ぎ学びあう学生たちのアクセラレーターであることが求められる。学習支援課題（a）～（d）に向き合い、（イ）～（ハ）の効果の最大化を図った企画であることが必要だ。

### 3.2. 企画部会とニーズ創出型支援

足立（2018a）には、次のような記述が見られる。「[企画発信型支援]は、質問を待つ形ではなく、こちらから学習（支援）の機会を提供する大小さまざまな企画提案型の支援形態で、ニーズ創出型の支援です」。「最も新しい領域は企画担当です。これは、学習イベント等を実施し授業の枠にとらわれない『学びを創る』支援を行うものです」。

「ニーズ創出型支援」は、学生の個別の疑問に対応する窓口対応をはじめとした「ニーズ先行型支援」に対する言葉であり、企画部会の企画発信の性質を踏まえれば、この言葉自体に違和感はない。問題は「ニーズ創出」と、先述した学習支援課題（a）「授業外における自発的な学習雰囲気希薄」との衝突にある。これについて以下の二つの問題について考えてみたい。

第一に、学習雰囲気の自発性を阻害しない「ニーズ創出」はどのようなものか、という問題がある。課題（a）は学習の場の提供のみで解決されるものではなく、学生たちの学習意欲をあおり、さらなる学習雰囲気の醸成をもって解決される必要がある。しかし、企画部会が学習イベントの場を設定し、参加学生を募る以上、両者の一方的な関係、とくに参加学生の受動的性質は排除しがたい。あるいは、企画部会が唯一無二の価値を生み出そうとすればするほど、参加学生が企画部会への依存を強める。

であればこそ、イベント内での学生の積極的参加は不可欠であり、他方でSLAは学生の学習意欲を煽り続けねばならない（ここには、学生にイベント成否の手綱を握らせながら、イベント効果の最大化を図るという矛盾が存在する）。さらには、学生がイベント外で学習を続けられるような取り組みが求められる。たとえば、問題となる分野の専門家や関心をもつ他の学生につなげる、インターネットや図書館の書籍を使って考えられる問題を提案する、授業や学外の学習イベントに接続する、といったものがあげられる。

第二に、学習雰囲気が希薄であるなら、「創出」されるニーズはいかにあるべきか、について考える。イベントへの参加だけで解決される単純で軽微な学習ニーズであれば、一定程度の資質を備えた本学学生にとって自身での解決は難くない。また、学生の学習意欲（学習雰囲気ではない）が希薄であれば、そもそも学習イベントに参加しない。そのように後ろ向きな言葉を並べることは簡単であるが、かくなる土壌の上に然るべきニーズを打ち立てていくことが、企画部会に与えられた負託



である。

結論を言えば、企画部会の創出するニーズは無から生み出すものではなく、基本は潜在的なニーズである必要がある。すなわち、学生自身が不足した学習に気づいていないもの、学習ニーズを満足させる具体的で身近な手法を知らないものに関して、気づきを与えるのが企画部会の学習イベントの役割といえる。一方で、学生が何か特定の学習ニーズを携えて企画部会を訪ねた際には、企画部会以外のものも含め様々な学習機会を提示するのがよいだろう。

### 3.3. かんがえるソファのはじまり

現在のかんがえるソファと直接的な関係はないものの、2013年の「放課後 SLA ゼミシリーズ」の一企画として「てつがくカフェ」が実施されたことが、足立（2018b）から読み取れる。詳細な内容は不明であるが、開催に費やした労力に対する学習効果の低さから継続的開催にはつながらなかったようだ。

かんがえるソファは2017年6月19日に東北大学で行われた「てつがくカフェ」をモデルとする。この企画では、ファシリテーターに福井大学 西村先生、ファシリテーショングラフィックに福井医療大学 近田真美子 先生をお招きした。

この年に始まった企画部会主導の哲学カフェ企画は、「考えるソファ（同年5月検討段階）」、「考えるソファ（同年6～7月）」と名前を変え、同年10月より「かんがえるソファ」名にて活動することとなった。以降、イベント内容に関して幾度も試行錯誤を繰り返してきた。その出発点を見てみよう。

前身となる2017年てつがくカフェの「企画書（当初案）」には、その目的が次のように記述されている。「ふだん考えないようなことについて一度立ち止まって考えて話し合う場を大学内に作ること」。また、その背景は以下のように記述された。

- ・自主ゼミや研究室など、同じような属性を持った人々が集まってその属性に沿った議論をする場はあるが、「誰でも」「開放された」議論の空間はない。

[...]

- ・現代は「すぐ分かる」時代である。わからないことがあれば、インターネット上の膨大な情報にすぐにアクセスできる。そのため、我々はよくわからないこと、あいまいなこと、正解がないことについて立ち止まって考える力、つまりてつがくする力を失った状況にあると考える。

### 3.4. かんがえるソファが参加学生に提供するまなび

2021年度かんがえるソファ紹介スライドでは、ソファ参加による効果を次のように見ることができる。「当たり前を疑う」「視野を拡げる」「考える力を高める」「発言に自信をもつ」の四点だ。その一つ一つについて考える。

○当たり前を疑う

「哲学とは、当たり前のこと（自明のこと）として捉えている事柄に対して、そもそもそれはどうということなのか、本当にそう言えるのかといった、根本に立ち還る問いを投げかけてみる試みから始まる。[...]そして、哲学とはモノログ（独白）ではなく、ダイアログ（対話）を通して心理（筆者注；「真理」の誤植か）に至る営みである」（西村，2018）。

当たり前のことに疑問を持ち、対話することは哲学の根源的ないし原始的な取り組みといえる。自分の視点から見える世界さらには自分の内部まで、当たり前があふれている。当たり前に対する疑問が自他の世界観をあらわにし、世界や自分を違った角度から捉えなおすことを可能にする。

とくに周囲の変化が大きい大学生活の只中においては、科目履修、アルバイトやサークルへの所属、資格取得、研究室配属、就職活動といった様々な選択の場面で「自分は何をしたいのか」「世界は自分に何を求めているのか」を問うはずだ。かんがえるソファは、そうした思案の基礎を築く機会となるだろう。

かんがえるソファに参加した学生が当たり前を疑う力をより高めるには、いかにすべきか。何度もソファに足を運んで多くの疑問に触れる、ファシリテーターの問いかけを参考に疑問に対するアプローチを学ぶ、ソファの後も疑問に向き合い続ける、といった方法が考えられ、企画部会は学生をそのように仕向ける必要がある。

#### ○視野を拓げる

特定分野における自己研鑽によって広い視野を得るには、非常に高度な学問の体得が求められる。より手早く学生の視野をひろげるうえで、他分野の学生との交流の日常的反復は一つの解決策といえる。異なる視座に繰り返し触れることで、それを自身の思考過程に落とし込み、多角的なものの見方を会得するものである。

広い視野を持つことによって人は、課題にぶつかった際に、課題の難易度や重要度を適切に評価できたり、とれる解決策の選択肢を増やしたりできる。故に広い視野は失敗を恐れない自信の根拠となるため、あらゆる場面で非常に有益である。

かんがえるソファでは、参加学生がより広い視野を持ち帰れるように多分野の学生に参加を促し、各人の価値観の違いが表れやすい問いかけをする必要がある。

#### ○考える力を高める

かんがえるソファでは抽象的・非定量的な意見が飛び交うため、特に理系学生にとっては普段なじみのない思考が求められる。また、ときにテンポの良い論理展開が進められるため、論理的思考力や批判的思考力とともに高い情報処理能力が求められる。それらの訓練の場を提供する絶好の企画なのだ。

かんがえるソファに参加してみると、高学年の学生ほどこれらの能力が高いことがわかる。運営するSLAには、能力が成長段階である1・2年生のフォローと、上級生との調整によって、より多くの参加学生が満足いく能力の向上と対話のおもしろさを感じられるソファを作り上げることが

求められる。

#### ○発言に自信をもつ

かんがえるソファでは、正解がない身近なテーマについて扱う分、「間違っただ」発言はほぼない。どんな発言も部分的に正しく、部分的に正しくないというのがほとんどだ。学生自身の価値観に従った多くの発言が許容され、学生自身の思考力に基づくどんな論理展開にも他の学生は理解に努める。発言すればするほど、それが対話を豊かにするだけでなく、多くの気づきを発言者自身に跳ね返してくれる。

SLA には、参加学生がより発言したくなるような雰囲気づくりが求められると同時に、各人の発言量に偏りがないように調整することが必要とされる。

### 3.5. かんがえるソファが SLA にもたらすまなび

あまり議論の俎上に載らない話題であるが、かんがえるソファを運営する SLA 自身が参加学生以上の成長を得ていることにも触れておきたい。どのような成長かといえば、先述した参加学生に提供するまなびとあまり大差ないだろう。加えて言えば、参加学生相互を調整する総合的能力の向上も期待できる。授業やゼミにおける討論、就職活動におけるグループディスカッションでその効果を実感してほしい。

過去に幾度か、かんがえるソファで参加学生にファシリテーションを任せることが検討・実践されたのもそれゆえである。

### 3.6. 企画部会はなぜ「かんがえる」

3.3.に示したてつがくカフェ企画の目的と背景は、後身のかんがえるソファに引き継がれたものと思われる。この目的は（少々自己目的的ではあるが）3.1.における（a）、（c）のような課題を踏まえたものである。さらに、背景は特に 3.1.で示した（イ）、（ロ）と関連が強く、かんがえるソファの性質を考えれば（ハ）もまた、ソファにて積極的に推し進めることができる。つまり、かんがえるソファは、課題（a）～（d）に基づく（イ）～（ハ）を目標に、3.4.（および 3.5.）に示したまなびの最大化を図るものである。

こうしてかんがえるソファの目的や企画背景が企画部会のミッションに合致し、その主たる学習効果もまた企画部会が取り組むべき課題に沿ったものであることが確認された。

### 3.7. 残された課題

3.6.で終わっていれば、かんがえるソファを経験した企画部会諸氏はおそらく、この第 3 章を読む必要はあまりないだろう。ここまではかんがえるソファのドグマをなぞったに過ぎない。考えようによっては、すべて答えのある推論だ。

一方で、かんがえるソファの需要・労力・効果の大小について、これからも逐一検討を繰り返す必

要がある。そこに確かな答えは無い。したがって、今後もかんがえるソファを実施する限り、多くの課題が付きまとう。以下に挙げるのは、その一例である。

- ・かんがえるソファは学生の需要を適切に満たしているか。

= (a) ~ (d) が学生の課題として変わらず存在しているか（とくにそれらのなかでも相対的な重要度の変化はないか）。

- ・かんがえるソファのコストパフォーマンス（労力 対 効果）を最大化するには、いかにすべきか。

=例えば、オンラインで開催したり、運営の一部を学生に委任したりするなどして、実施の軽量化と効果の充実が図れないか。

- ・かんがえるソファで得られるまなびが正しく参加学生に認知されているか。

- ・対話の効果やおもしろさが、参加学生にとって実感できるような実施内容になっているか。

- ・イベント全体として既に十分な思考力を獲得した者たちだけのものになっていないか。

- ・参加学生が当事者意識をもって参加できるイベントになっていないか。

=一般的な大学生活の中で考えるようなものから、大きくかけ離れたテーマになっていないか。ファシリテーターが恣意的な進行をしていないか。

## 4. かんがえるソファ実施マニュアル

### 4.1. 日時の設定

実施前後の準備とリフレクションの期間、授業にかぶらない曜日と時間帯、学期末テストの日程、SLA 各人の都合などを考慮し、長期的な目線で開催日時を設定する。とくに特定の曜日に開催が固まらないようにする必要がある。開催期日の前月第3週には日程が固まっていることが望ましい（第4週＝最終週の勤務はテーマ決定と広報作業、当月第1週を広報期間にあてるため）。

日時ごとに担当者を決め、各担当者はテーマの検討にかかる。担当者は各回異なるようにする（異なる曜日に開催することは、担当者が偏らないようにする効果もある）が、初任者の担当については学期初めを避ける。

オンライン開催の際にはさらに早めに日程を決定する必要があり、日程決定後、サポート室スタッフと調整しながら、空き教室の予約を行う。接続の不安な学生のための教室である。

### 4.2. テーマの設定、シミュレーションの作成と当日配布資料の検討

身近で、特定分野に偏った内容でなく、意見の二極化を招かないようなテーマを検討する。過去に開催したテーマを再利用したり、参加学生アンケートでリクエストがあったテーマを活用してもよい。月ごとにテーマに一貫性を持たせたり、季節を反映したテーマ設定をしたりした例もある。たとえば、2019年10月8日「目標をもつことにどんな意味があるの？」は、後期最初の開催であ

ることを受けたテーマ設定である。

可能な限り開催前週の勤務日には、ソファのシミュレーション（＝テーマに関する対話の思考実験）を文書にまとめ、複数人で内容を精査する。この文書は紙媒体か電子媒体かを問わず、書式も自由である。シミュレーションは「テーマ設定の理由やねらい」「テーマについて担当者自身が考えたいこと」「どのようなアイスブレイクを行うか（何を対話の出発点とするか）」「どのような問いかけが考えられるか」「問いかけに対してどのような参加学生のレスポンスが考えられるか」「対話のゴールにはどのようなものがあるか」等の記載によって構成される。箇条書きや図表を用いても構わないが、当日にはそれらを言葉で説明する可能性があることを踏まえ、可能な限り文章化しておくといえよう。シミュレーションの作成は、「どのように対話を進行すべきか」という疑問を開催前に解決し、テーマごとの進行の難易度や特徴を事前に把握しておくことが目的である。疑問が浮かんだら、気軽に他の SLA とともに考えてみよう。ソファ経験の多少にかかわらず多くの SLA と共有し、テーマや進行に関する多様な視点を得ることも必要である。

当日はシミュレーション通りの進行にする必要はなく、自然に参加学生の意欲に従うことが求められるのみである。シミュレーション通りに進行しようと、対話を強引に誘導することがあってはならない。

さらに、参加人数の多少や参加学生の学年分布は進行に大きな影響を与える要素であり、シミュレーション段階で各状況に応じた対応まで考えられるとなお良い。

シミュレーション設定後、当日配布資料（書籍のコピーや web ページの切り抜き等）の準備が必要か検討する。これは、参加学生全体のテーマに対する関心や知識を均質化したり、考える出発点にしたり、得られる学びをより大きくしたりするためのものである。とくに、留学生の参加が予定されていたり、扱うテーマが最新のニュースに強く関連していたりする場合に有効である。どのような資料を配布するか決めたら、サポート室に声をかけてコピー機をつかい、必要枚数を準備する。

#### 4.3. 広報作業

テーマ決定後、広報作業にとりかかる。

これまで、ポスター、学務情報システム、ツイッター（SLA 全体のアカウントと企画部会単体のアカウントがある）、希望者対象の案内メール、授業内での発信による広報が展開されてきた（一部では、SLA や参加学生から各々の友人に声をかけ、有機的な広報が行われた）。現状、自発的な参加学生の多くが学務情報システム、それ以外は授業内の課題としての参加がほとんどである。ツイッターによる広報機会の拡大が期待される。

学務情報システムによる広報の際には、必要な広報文を準備しサポート室に手続きを依頼する。ポスターの構内掲示についても同様である。サポート室への依頼の前には、予約フォームの更新が完了しているか、ポスターの内容に誤りはないか、リンクが確実にアクセスできるものになっているか、などのチェックが必要である。

各広報作業は負担の分散、チェック機能の充実、ノウハウの継承のため、経験の豊富な SLA と経

験の浅い SLA のペアによって行われることが望ましい。

#### 4.4. 参加学生メール対応

開催前日 17:00 までに、参加学生に対し当日の詳細を企画部会のメールアドレスから案内する。そのほかにも、企画部会アドレス宛てにキャンセル連絡や質問が来る場合もあるため、こまめにチェックして早め（目安 24 時間以内）の返信を心がけよう。

#### 4.5. 会場設営と当日対応

SLA ラウンジの黄色いソファをテーブルを囲むようにコの字型に配置し、ホワイトボードに対面させる。人数に応じて追加の椅子を用意するが、多数の参加が予定される場合には、SLA ラウンジ内にもう一つ会場を設けられるようにしておく。

ホワイトボードにはテーマ、時間、担当者名を記入しておき、グランドルールを貼り付ける。テーブル上には裏紙、ペン、配布資料、思索の軌跡（※）、アンケートを配置する。参加学生を後ろから撮影する形でビデオカメラを三脚上に設置し、録画の準備をする（充電と保存容量に注意）。

参加学生が会場に到着し次第、予約内容と照合しながら、参加学生の顔と名前を一致させる（途中退出など、配慮が必要な参加学生に気を配るため）。着席した参加学生には名札の作り方を説明する。名札は裏紙を三つに折り、そのうち一枠に名前（ハンドルネームなどでもよい）を記入し、三角柱を作る。時間があれば参加学生と雑談を行い、参加したきっかけを聞くなど広報上の情報収集に努め、同時に話しやすい雰囲気づくりを行う。

当日の遅刻者・中座者には柔軟に対応する。とくに参加申込フォームなどで遅刻などを事前に申告されていないかは、確実に把握する。可能な限り、遅刻者が到着した際にキリの良いところで対話を中断し、それまでの流れを一旦まとめるという対応をとる。

※「思索の軌跡」は参加学生に配布する A4 版メモ用紙である。「1. 私の考え&メモスペース」「2. 他人の考え」「3. 今日得られたこと・感想」の三つの枠からなる。メモに思索の軌跡を使うか、自身の手帳などを使うかは参加学生の自由であり、思索の軌跡を使ったとしても、三つの枠に沿ってメモを取る必要はない。思索の軌跡は、各回の参加学生の思索の軌跡（＝思考過程）を SLA が把握し、開催後のリフレクションの参考とすることを目的としている。参加学生の思考の整理のためにも役立つものであるが、それは本来グラフィックの役割であり、グラフィックの補助として参加学生に活用されるのが望ましい。

#### 4.6. 実施前後

開始時刻になり参加学生がそろったらソファ開始であるが、定刻になっても集合した学生が予約状況よりかなり少ない場合、2 分程度雑談してから開始する。最初に担当 SLA の紹介、注意事項・企画趣旨・グランドルールの説明を行う。この間、グラフィッカーが録画を開始する。

かんがえるソファ実施中のファシリテーターやグラフィッカーの役割等については、第 5 章にて

詳述する。いち参加学生として対話に加わる SLA は、対話に新しい視点を与える意見をしたり、積極的に他の参加学生に質問したりして、対話がより充実したものになるよう努める。

終了時刻が近づき意見をまとめ終わったら感想を共有しあい、参加学生がどのような学びを得られたか確認する。その後、アンケート記入の案内、SLA 全体の宣伝、直近のかんがえるソファの案内をする。この間、グラフィッカーが録画を終了する。思索の軌跡は、学生了解を得てコピーし返却する。ホワイトボード上のグラフィックについては、写真をドライブ内に保存し、可能であれば次回開催日まで消さずに残しておく。

#### 4.7. リフレクション

対話の流れを追いながら複数の SLA が検討を加えるミーティング形式のリフレクションと、SLA 個人が録画を見返すビデオリフレクションが存在する。

ミーティング形式のリフレクションでは、担当した SLA が対話の流れを時間軸に沿って説明し、主に対話の進め方について以下のような検討を加える。

- ・どのようなことを意識して進行したか
- ・それぞれの問いかけでどのような反応を期待したか
- ・ファシリテーターの主観的意識が強く現れた問いかけになっていなかったか
- ・対話の流れは自然だったか
- ・論点が整理できていたか
- ・適切に時間管理ができていたか
- ・グラフィッカーとうまく連携できていたか
- ・対話は活発だったか
- ・参加学生の間で発言量に大きな差がなかったか
- ・対話についていけない参加学生はいなかったか
- ・どのように参加学生の学びが深まったと考えているか
- ・失敗したと思うなら、それはどのようなことで、何が原因か

複数の SLA がリフレクションをすることで、担当した SLA の思考を整理したり、対話を多角的・客観的に分析したり、実施によって得られた知見を共有したりすることができる。

ビデオリフレクションには、(ア) 担当した SLA が実施時の自らの発言、身振りや表情を客観的に見て批評するものと、(イ) 参加学生の満足度が特に高い回の録画を担当 SLA 以外が見て、自身のファシリテーション術の向上につなげるものがある。(ア) では「こうすればより良い対話ができただけで終わらせることなく、なぜそれができなかったか、それは普遍的にできることなのか(特定のテーマや参加学生の場合のみできることではないのか) など、踏み込んだ反省をし、考えたことをすべて記録に残す。(イ) では視聴した回の進行を見てまねるだけでなく、自分だったらどのよう

な進行をするか、それはなぜか、について考えてみるとよい。

## 5. ファシリテーションとグラフィック

### 5.1. ファシリテーションの役割

かんがえるソファに限らずグループコミュニケーションは、そのコンテンツとプロセスがその価値を決定する。ファシリテーターの役割はプロセスを整理することであり、一般にはコンテンツに関与しない（かんがえるソファでは、考えるきっかけとしてファシリテーター自身が意見を述べることもあるが、その場合、非常に慎重になるべきである）。

では、プロセスの整理はどのようにすべきか。以下に、中野（2017）の「第二章ファシリテーションの基礎スキル」をまとめる。ここでは「場づくり」「グループサイズ」「問い」「見える化」「プログラムデザイン」の5つが基礎スキルとして挙げられている。

「場づくり」には空間の物理的デザインと関係性の心理的デザインが含まれる。物理的デザインにおいては、場の共創の意識を高めるため輪になることを意識する。心理的デザインにおいては、話し合いのゴールと道のりを示し、参加する全員の役割や心得（グラドルール）を明らかにしたうえで、楽しんで話せる雰囲気づくりを心がける。アイスブレイクとしてゲームをしたり、話し合いの間、BGMを流したりすることも有効である。

「グループサイズ」は小さいほうが熱気ある話し合いができ、大きいほうが意見の多様性により刺激が得られやすい。

「問い」は話し合いのいのちである。とくに問い始めは重要であり、話し始めやすい問いの作り方は「共通で触発的な問いから」「身近で具体的な問いから」「ポジティブで楽しい問いから」「自分の体験から」「裁かれる恐れのない問いから」の5種類に大別される。

「見える化」の手法はカラーマーカーや付箋、絵、スライド、紙芝居を用いるなど様々であり、目に見えない概念を印象的な形で整理する工夫ができる。

「プログラムデザイン」では話し合いの起承転結を明確にし、適切な時間管理を通して参加学生の満足度を高めることが求められる。

### 5.2. かんがえるソファにおけるファシリテーター

3.4.で挙げたまなびを提供するために企画部会はかんがえるソファを実施する。ならば、かんがえるソファにおけるファシリテーションは、それらのまなびを最大化することを目指して取り組まねばならない。ここでは、それぞれのまなびに注目し、ファシリテーションをいかにすべきか考える。

○当たり前を疑う



参加学生の内に「当たり前」を崩しにかかるべく、ファシリテーターは問いを投げる。例えば、反例を示したり、視点を変えたり、言外の部分を説明させたりする。この問いにまで「当たり前」（あるいはファシリテーター自身の偏見）が含まれていては元も子もないので、奇抜な問いでも構わない。ただし、参加学生の一言一句に疑問をぶつけていては対話が進まないため、テーマに関連のない問いや、容易に答えの見つからないような問い方は避けよう。

#### ○視野を広げる

かんがえるソファでは、参加学生が自身の視野範囲を認知することと、それとは異なる他の参加学生（あるいはファシリテーター）の視野の存在を認知することが同時並行で行われる。このためにはファシリテーターが参加学生の意見を対比することが基本になるが、以下の二点に注意する。

まず、参加学生の意見は非常に偏りやすく、学年が下るごとにこの傾向が強くなる。参加学生が概ね似通ったバックグラウンドを持っていることも原因であるが、答えのある問いを求められた経験がほとんどの（特に低学年の）学生ほど、より「正解」に近い答えを出そうとする意識が働くためでもある。その意識の所在を問わずして、参加学生から多様な意見を引き出すことは難しい。

また、意見の対比は同じ土俵で行わなければならない。前提や次元が異なる意見同士は矛盾し合って当然である。ある意見に対しては、それがどのような条件で成り立つのかを洗いだし、然るべき意見と対比する必要がある。

#### ○考える力を高める

かんがえるソファでは、発散より収束（事例を抽象化しつつ一般化する）の過程の方が頭を使う。収束の過程を参加学生に委ねつつ、ファシリテーターはその手綱を握るという作業を通して、学生の思考力を鍛えたり、論理的思考のアプローチを学んでもらったりする、というのがソファの学びの本質だろう。

手綱を握るとは、適切かつ端的な問いを繰り返すことを意味する（時間管理や参加学生間の発言機会の調整はそれ以前の問題である）。「適切」とはテーマを外れず、前提を含まず、学生の理解に沿って段階を踏んだ問いであるということだ。また「端的」とは、なぜ問われているのか、どのようなことが問われているのかが明確な問いであるということだ。

#### ○発言に自信をもつ

そもそも、かんがえるソファで求められる論理的思考力、批判的思考力や情報処理能力に関して、参加学生が高い水準を有していることは間違いない。しかし、学生間にその水準の差があり、またそうした思考に日常的に慣れているか、自信があるかによって、かんがえるソファでのパフォーマンスに差が生まれることも確かだ。ファシリテーターは、発言機会の調整や端的な問いによって学生全員が楽しめる雰囲気づくりを意識する。

### 5.3. ファシリテーションの Tips

(かんがえるソファ 勘所\_2019 後期より)

#### ○目標/目的をもつ

そのイベントを通して何を達成したいか、そのために自分はどうのような支援をすべきかを考える。自分の中で「今回はこれを頑張りたい」という意識があっても良い。

#### ○楽しいイベントにする

「また来たい」と思えるような、参加学生が楽しめるイベントにする。居心地の悪差を感じるような緊張感がなく、話したいときに話せる雰囲気を作る。名前を積極的に呼ぶようにすると打ち解けやすい。

#### ○下調べをする

過去回の反省点を確認する。テーマに関する数値やランキング、エピソード等必要な（もしくは、あれば話が広がりやすい）データがあれば調べておく。

#### ○場を調整する

ソファ開始時だけでなく、途中でも必要に応じて適宜アイスブレイクを行う。

#### ○「置いてけぼり」を作らない

積極的な参加学生に目が行きがちになるが、全体を見るようにする。分かりにくい専門用語は避ける。適宜フィードバックの機会を設ける。印象的な言葉は反復し、共有する。

「それってどういうこと?」「他の言葉で言い換えると?」という疑問を投げかけることは、議論を深めるのに有効である。「考えている間に話が進んでしまった...」という人のために、「今までのどの話でも良いので気になることなどあればどうぞ」という時間を設けると良い。

#### ○動じない

動揺したり悩んだりするなど、参加学生が不安になるような様子は見せない。

(かんがえるソファ Tips\_2020 後期より)

#### ○ファシリテーションの流れを意識する

「①素材集め（具体的な経験、印象を語ってもらう） ②素材の深化（経験の詳細や、その背後にある考えなどを掘り起こす） ③素材の比較検討・構造化（複数の「素材」を整理したり、新しい視点を導入したりする）」という 3 step の流れを意識することで、対話の進行状況がいくらかクリアになる。

#### ○発言の反復に終始してしまうことに注意

参加学生のが言っていることを整理し、全体に共有しようとして、相手の言っていることを発言のたび繰り返してしまうことがある。発言者に積極的に耳を傾ける姿勢を示したり、対話をメリハリのあるものにしたりする上では、逆効果である。

#### ○まとめる+アルファ

出た意見を単純に整理するだけでなく、対話が前に進むようにまとめると、まとめで思考が

ストップしてしまうことがない。例えば、まとめた後でそこから問いを作ったり、少し抽象度の高いまとめ方をしてそれが合っているかどうかを確認したり、まとめた内容とは反対の場合がないか探索したりといったものがある。

#### ○ファシリテーターが無理に手綱を握ろうとしない

考えてきたシミュレーションと実際の対話とにズレを感じると、やりづらかったり不安になったりするかもしれない。シミュレーションの枠から外れないように対話を進めようとする、どうしても考え方やアイデアは広がっていかない。予想外の考えに可能性や価値を与えて、ファシリテーターも自分が思考できる範囲の外へと出ていくことに楽しさを感じるべきだ。

ファシリが全部を理解しようと無理をして間違った解釈をするよりは、参加学生に投げかけて一緒に考えるのも1つの手である。

#### ○内容と背景のつながりをみる

参加学生の発言内容に加えて、「なんでこの人はそのように（Aという別な考え方・選択肢もあるはずなのにBのように）考えるんだろう？」「何がその人の思考を支えているんだろう？」という背景を探り、内容との関連性をみていく。そうすると、内容が同じでも背景が違ったり、内容が違っても背景が同じだったりすることがあるかもしれない。そこから相違点と共通点が出てくることもある。

#### ○意見の収集に走らず、1つ1つの発言を丁寧に扱う

参加学生から重要なキーワードがどんどん出てきて情報過多になる前に、大事だと掴み取った言葉、表現、キーワード、関係性などを発見したら、その都度立ち止まってそれについて考えてみると深まりを得られる。参加学生の発言を「ありがとうございます、他の方はどうですか？」と次々と流してしまうのではなく、思考の素材として大切に扱うべきだ。素材が多すぎると、それをどう整理すれば処理しきれなくなり、そのとき何について考えているのか、何を考えるべきか全員が見失った状態に陥りやすい。

#### ○参加学生同士の中継を意識する

ファシリテーターが媒介役となって参加学生同士の交流の中継する意識を持つ。

〈かんがえるソファ *Tips\_2021* 前期より〉

#### ○参加学生の発言や意見を、肯定的に受け止める

参加学生の発言に対してファシリテーターが「でも」「ただ」など否定で被せ続けると気分はよくない。「なるほどね」「それは新鮮な考えだ」「確かに」「それはありうるかも」「妙に納得した」など、まずは驚き、共感し、受け止めるところから始めよう。そのうえで批判的に吟味していく。

### 5.4. グラフィックの役割

グラフィックの参考として、近田（2018）を引用する。

”発言者の中には、まだ言葉にならないイメージで語られるケースもある。抽象的なイメージの段

階では、なるべく図式化する。感情的な表現については、誇張して書いてみるという工夫もしている。参加学生の思考がことばになる過程が、板書に表現されるように意識している。

板書の際に心がけているのは、参加学生の人数や時間に応じて、使えるスペースはどれくらいかを確認することである。[...]

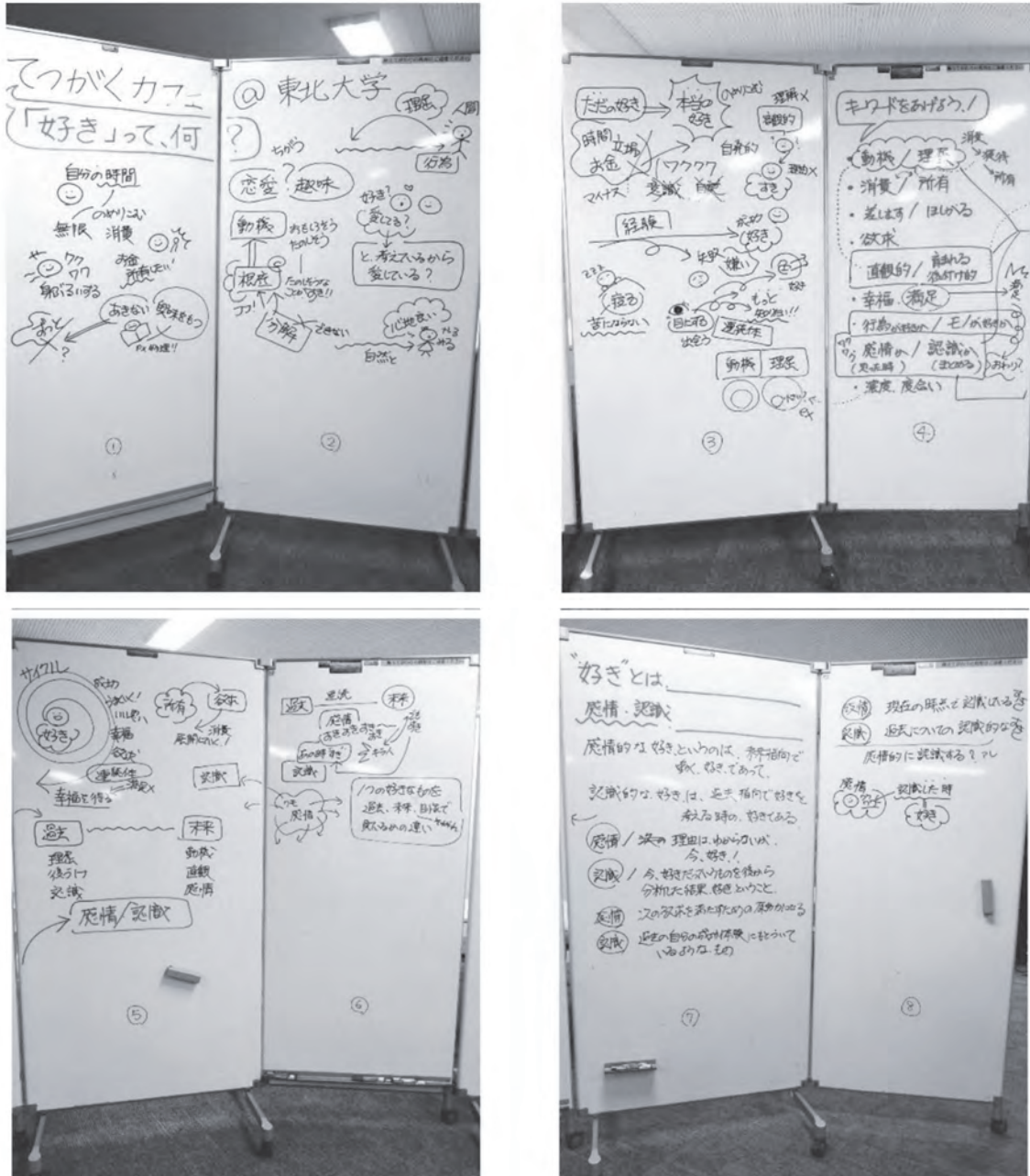


図3 2017年6月19日てがつくカフェでの近田先生によるグラフィック (近田, 2018)

「てがつくカフェ」での対話を記録するファシリテーション・グラフィックは、思考を育てるための道具の1つであり、「書く」技術よりも、発言者のことばをしっかりと「聴き取る」ことが重要である。また、文章をひたすら一言一句漏らさず板書するよりも、テーマに関するキーワードを漏

らさずホワイトボードに落とせるかのほうが大事である。つまり、まず聴くことが第一条件であり、いかに聴けるかが命綱となる。

一般的には、最後に会議の話の内容をうまく整理して書ける板書が上手というような印象もあるが、報告者が実践するファシリテーション・グラフィックでは、板書自体を「作品」として上手にまとめることが目標ではない。参加学生が板書を活かして思考する事が重要であり、「てつがくカフェ@せんだい」でのグラフィックの目的は、思考の材料を残しておくことにある。”

### 5.5. かんがえるソファにおけるグラフィッカー

かんがえるソファでは、グラフィッカーにサブファシリテーターの役割も与えられている。すなわちグラフィッカーは参加学生の意見をホワイトボード上に表現するうえで、意見の簡潔化や深い理解のために学生に問いかけなおすことができる。また、もしファシリテーターが問いに詰まったら、代わりに学生に問いを投げることができる。ゆえにグラフィッカーには、各意見に対する確かな理解と、対話全体を俯瞰した構造の把握が求められる。ファシリテーターの万一の誤り（テーマからの著しい逸脱や時間管理の失敗など）を指摘できる唯一の立場である。

意見の聞き書きに集中すると、文字を羅列したグラフィックになりがちであるが、前後の意見のつながりの可視化、キーワードの強調、言語化しがたい概念の表示などを意識した、図式化の試みが非常に重要である。グラフィッカーは自分が認識した対話全体の構造を、おそれずホワイトボード上に表現してほしい。

### 5.6. グラフィックの Tips

〈かんがえるソファ 勘所\_2019 後期より抜粋〉

#### ○見やすく書く

表を作ったり、対立軸を明確にしたりして、論理構造を整理する。ホワイトボードのグリッドを利用したり、左詰めで書いたりして、読み取りやすさを心がける。開始直後、文字の大きさが見えるかの確認を参加学生にとる。

#### ○イメージを伝える

イラストを用いる。ベン図や関連性を示す図を示す。

#### ○発言を正確に要約する

自分の言葉ではなく参加学生の言葉を拾って書く。必要に応じて、確認をとったうえで言い換えたり内容を確認したりする。

#### ○大事なところを強調する

キーワードや話のポイントになりそうなところにはペンの色を変えたり、下線を引いたりする。問いを明示する。

#### ○後で見て流れが分かるように書く

単語を並べるのではなく、時系列に沿って書く。問いやトピックごとに番号を付ける（ナンバリ

ング)。

#### ○余白をとって余裕をつくる

前のトピックにいつでも戻れるようにする。後で文字を付け加えるための余白を残しておく。

### 5.7. ファシリテーターとグラフィッカーの連携

SLA が参加学生の側で参加する場合を除き、ファシリテーターはグラフィッカーを、グラフィッカーはファシリテーターをサポートできる唯一の存在となる。

状況に応じて、それぞれの役割を超えてもよい。例えば、発言をグラフィックに落とすための言い換えや図式化を、ファシリテーターがグラフィッカーに代わって行う。あるいは、ファシリテーターの発した問いに対して、グラフィッカーが問い直したり、新たな問いを提示したりする。ファシリテーター・グラフィッカーともに協調して対話の流れを把握しておき、対話中いつでも役割を交代できるくらいの意識があれば理想的だ。

通常、ファシリテーターがグラフィッカーに対して可能なサポートは二つある。一つは進行速度の調整である。グラフィックが遅れがちになったときに、発言のまとめ・聞き返しや雑談を挟むとよい。グラフィッカーそれぞれの癖や練度に注意しながら、グラフィッカーの整理や理解が追い付かない速度で対話が進行しないようにする。もう一つはグラフィックする者の調整である。参加学生が言語化しにくいイメージを提示したり、ファシリテーターが気づいていない対話の流れを指摘したりした場合には、それらを積極的にグラフィックに表現してもらう必要がある。その際、グラフィッカー自身のまとめ方と齟齬がないよう調整する。

また、通常、グラフィッカーがファシリテーターにできるサポートは事務連絡のダブルチェックである。ファシリテーターのする、録画の許諾確認や次回開催・アンケートの案内といった事務連絡について抜けや誤りがないか、グラフィッカーはチェックする。

## 6. 広報

### 6.1. 新規参加

かんがえるソファが主に 1、2 年生を対象にしたものである以上、参加学生の新陳代謝がはやく、そのほとんどが初めてかんがえるソファに参加する学生、ということになる。新規参加学生にとって、かんがえるソファはつかみどころのないイベントであり、初めて参加した際の印象が各々の「かんがえるソファ」像を形成する。あらためて言うまでもないことだが、各回の担当者は自身の担当する回が過去のどの回よりもよいものとなるよう、気を引き締めよう。

また、はやい新陳代謝のため、新規参加学生の獲得はかんがえるソファを持続可能なものにするために重要である。さらに新規参加の獲得は、学内におけるかんがえるソファの認知向上や、かんがえるソファによって得られるまなびの普及を意味する。

「時間がない」「興味がない」以外の、かんがえるソファに参加しない理由としては、「そもそも認知してなかった」「興味はあるが、どのようなイベントか分からない」などがある。そのため、新規参加を増やすには以下のような方法が考えられる。

- ・ 広報する媒体や頻度を増やすことで、イベントが認知される可能性を高める
- ・ ”どのようなイベントか分かる”発信をすることで、参加へのハードルを下げる
- ・ 「刺さる」テーマで企画する
- ・ ターゲットを1、2年生（あるいは特定学部）に絞って、授業などに関連させる
- ・ SLA ラウンジ以外の目につきやすい場所で開催する（屋外、講義棟、学食、図書館など）

## 6.2. リピーター

かんがえるソファを経験すると、それがどのような学びのために行われる取り組みであるかが分かるようになる。複数回参加することで、かんがえるソファの中で自身がどのような立ち回りをすべきか理解するようになるため、リピーターの中にはSLAをサポートするように動いてくださる方もいる。そのような意味でもリピーターは非常にありがたい存在だ。リピーターを増やすには、各回の満足度向上に努めるだけでなく、参加後も希望者に案内を流すなどアフターケアが重要だ。

## 7. かんがえるソファの歩み

### 7.1. かんがえるソファをめぐる6年間の環境変化

ここでは、かんがえるソファの始動した2017年度前期から2022年度後期現在までの記録を辿る（2019年度前期より勤務を開始した筆者の記憶を参考に記述するため、とくにはじめの二年間については不正確な内容を含む可能性がある）。

この章では、大きな環境変化のあった6年間の試行錯誤の痕跡と、変わらない骨子の存在を読み取ってほしい。なかでも最大の環境変化は新型コロナウイルス感染症の世界的流行であり、2020年度当初から現在に至るまで（もちろんソファに限った話ではないが）無視できない影響を被ったことは言うまでもない。この点については7.5以降で詳述する。

ひとまず、かんがえるソファ担当メンバーの変遷について触れておきたい。度重なる世代交代がかんがえるソファ知の継承を難しくすることは先述の通りであるが、担当メンバーの人数や経験量の変化もまた実施プロセスや内容に少なからず影響する。

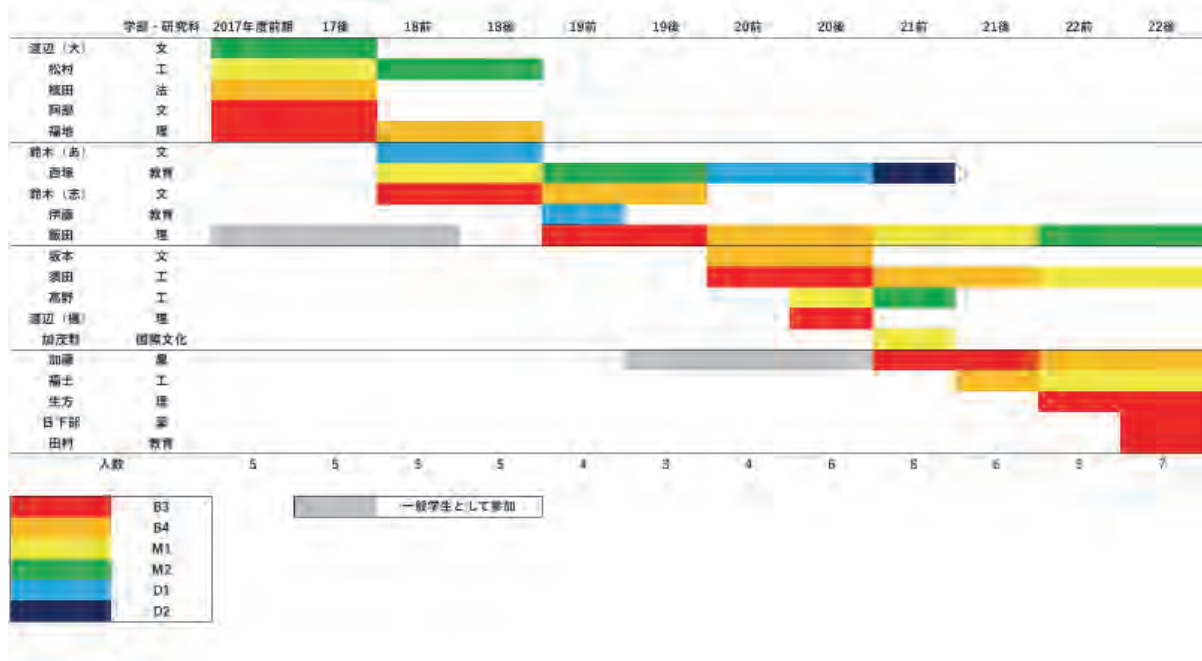


図4 企画部会かんがえるソファ担当メンバーの変遷

## 7.2. 2017年度

前期：開催2回、参加学生のべ9名（以下、参加実数であり予約のみの学生を除く）

後期：開催5回、参加学生のべ20名

各回60分（第7回のみ90分）

企画部会のその他の企画：「日本語カフェ」「チャレンジボード」「コタエテ！SLA」

てつがくカフェをモデルに、哲学カフェ企画「かんがえるソファ」が始動した。一部資料には「考えるソファ」「考えるソファ」名が混在している。始動メンバーは、6月のてつがくカフェをたたき台としながらも、学外の哲学カフェイベントに積極的に参加し、企画の在るべき形を模索した。始動メンバーの尽力あって、ポスターや学務情報システムによる広報、ブログ立ち上げ、さらにはSLAラウンジでのソファの配置といった、現在ある企画の根幹の形成がなされた。また、参加学生によるファシリテーションを固定化する「インターン制度」の検討もされたが、現在まで実現に至っていない。

年度末で始動メンバーの大半が卒業する危機感からか、後期には「企画SLA運営に関するTips」「かんがえるソファマニュアル」がまとめられ、かんがえるソファのフォーマット化が進められた。

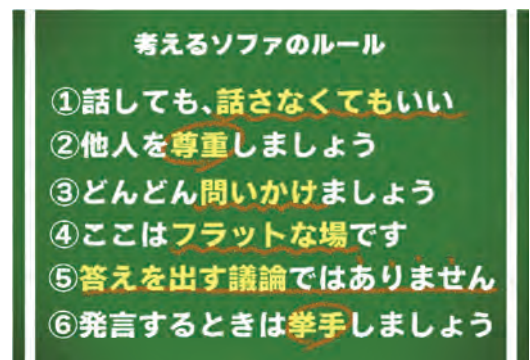


図5 2017年度「考えるソファのルール」



### 7.3. 2018 年度

前期：開催 12 回、参加学生のべ 27 名

後期：開催 10 回、参加学生のべ 68 名

各回 60 分

企画部会のその他の企画：「日本語カフェ」「チャレンジボード」「美術館の楽しみ方、教えます！」  
「SLA 雑談会」

年度当初、始動メンバーの大半の卒業を受けて、新規メンバーが過半数を占めるような大きな人員交代があった。そして、年度末で始動メンバー全員が卒業した。また、7 月 10 日の回にて、かんがえるソファ初となる留学生の参加があった。後期には授業内での紹介により参加学生数が大きく増加した（以降、後期に参加学生数が増加する傾向が続く）。

### 7.4. 2019 年度

前期：開催 4 回、参加学生のべ 8 名

後期：開催 14 回、参加学生のべ 124 名

各回 90 分（第 1 回のみ 60 分）

企画部会のその他の企画：「日本語カフェ」「美術館の楽しみ方、教えます！」

対話全体の確実な管理や参加学生のまなびの深化を目指し、グランドルールがより具体性をもったものに改訂された。さらに、対話の時間の延長、（それ以前はアドリブで対応していた）イベント前の企画趣旨説明の文章化、IC レコーダーによる録音（ビデオ撮影の補助）、参加学生側への SLA の配置、思索の軌跡の内容の記録（コピー）といった諸改革が試みられた。しかし、翌年度にはオンライン開催に切り替わったため、諸改革の成果が以降に引き継がれることはなかった。たとえば、企画趣旨説明はスライド化され、映像音響機器による録音が不要となり、紙媒体の思索の軌跡を配布することができなくなった。

11 月 27 日には、高知大学 Seekers のメンバーが東北大学を訪問し、かんがえるソファ体験会をするなど SLA と情報交換を中心とする交流を行った。Seekers は高知大学希望創発センターの取り組みから発展した学生サークルであり、サークル内で「対話すなっく」という哲学カフェ企画を実施している。Seekers には学習支援センター・佐藤智子准教授が指導に加わっているという縁があり、今後も機会があればぜひ交流したい。

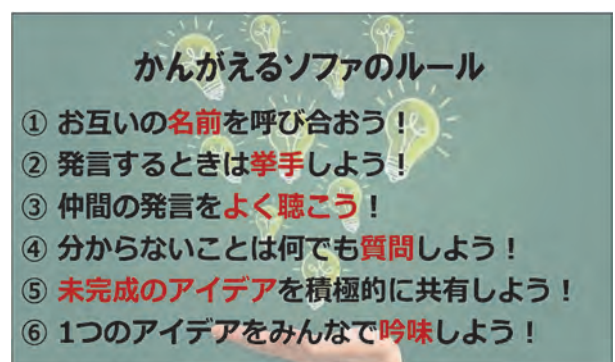


図 6 2019 年度「かんがえるソファのルール」

## 7.5. 2020 年度

前期：開催 10 回、参加学生のべ 98 名

（高知大学との合同研修会に伴い実施した回を含むが、かんがえる Café を除く）

後期：開催 13 回、参加学生のべ 81 名

11 月 27 日の回を除き、すべて web 会議サービス zoom を用いたオンライン開催

前期各回 75 分（第 3 回まで 60 分）、後期各回 90 分

企画部会のその他の企画：「かんがえる Café」

2019 年度以前から、企画部会内で日本語チームとイベントチーム（かんがえるソファチーム）は独立して活動していたが、2020 年度はじめに企画部会から日本語部会が分離独立した。

新学期になると、新型コロナウイルス感染症が本格的に日本で猛威を振るうようになった。東北大学では授業が原則オンライン化されたのに伴い、学部新生における孤立・不安・意欲喪失が危惧された。企画部会ではそれらに対応し、かんがえるソファをはじめとする SLA 諸活動への積極的参加の導入とすべく「かんがえる Café」を実施した。Café の各回では、zoom を用いて学部一年生を対象に「大学での学びのイメージって？」「なにか不安なことはある？」といったテーマの 60 分間の雑談を行った。さらにイベント後 10 分程度、参加学生が交流する時間を設けた。雑談の中で、新生同士で意見交換したり、哲学カフェに近い形で不安に対する解決策を話し合ったりした。Café は 6 回実施され、のべ 24 名の学部一年生が参加した。イベントの実施は SLA に zoom を用いたファシリテーションの練習の機会をもたらしたが、その一方で、イベント内で提示された新生の不安要素はその場で個別に解消されたものとして、それらに対応した新規企画の実施には至らなかった。

Café に続き、zoom によるかんがえるソファを実施し、さまざまな面で対面開催とは異なる環境に苦慮しながらも順応し、オンライン開催によるさまざまなメリットを得た。第 8 章にて詳述する。

8 月 5 日には zoom を用いた高知大学と合同のファシリテーション研修を行った。

11 月 27 日は、感染拡大が落ち着きを見せたことを受けて、SLA ラウンジを広く使った上で対面開催を行った。この回では参加学生の検温・消毒・ソーシャルディスタンスの確保を行い、以降の対面開催時の基準としたが、2020 年度内に再度の対面開催は叶わなかった。

## 7.6. 2021 年度

前期：開催 13 回、参加学生のべ 70 名（+と D を含む）

後期：開催 10 回、参加学生のべ 45 名（+を含む）

前期各回はすべて zoom を用いたオンライン開催、後期各回はすべてマルチメディア棟内教室における対面開催

各回 90 分

企画部会のその他の企画：「かんがえるソファ+」「かんがえるソファ D」

（「美術館の楽しみ方、教えます！」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う大学の方針に従い、2021年度内の開催を中止）

2020年度以前の企画部会の勤務は、SLA 各人のタスクに応じた活動からなり、事前・事後報告と成果物の共有を行うなどの諸条件を達成したうえで、一定程度各人の裁量に任された形態であった。このことによって柔軟な活動が可能であった一方、SLA3名で月4回程度のソファを開催した2019年度後期では時間外の対応が常態化するなど、無秩序な勤務の原因となっていた。2021年度から企画部会にシフト制が導入されたことは、勤務管理の徹底以上の効果をもたらした。たとえば、複数SLAがシミュレーション検討やリフレクションに常に参加できるようになったため、新規SLAの研修機会が充実し、かんがえるソファのファシリテーション技術や論理的思考についての質が向上したと感じる。さらに、SLAが常駐することでオンライン上でもメンバー間の交流が図れるようになった。

2021年度前期は、従来のかんがえるソファにはないまなびの提供を目指し、イベント「かんがえるソファ+」「かんがえるソファD」が企画された。前期の実施を受けて、+はDの主旨を包括しうることが確認されたため、後期には+のみを実施した。これらのイベントについて、第9章で詳述する。

## 7.7. 2022年度

前期：開催10回、参加学生のべ18名

後期：開催2回、参加学生のべ11名

前期は6月を除く各回はすべてzoomを用いたオンライン開催、6月開催の3回分のみSLAラウンジを広く用いて対面開催、後期は黄色いソファにおける対面開催

前期は各回75分（第1・2回のみ80分）、後期は各回70分

企画部会のその他の企画：「学芸員さんと巡る美術館ツアー」「はじめてのデザイン思考」「ディベート企画イベント」

前期からグランドルールにスライドをもう一枚加えることで、さらに発言しやすい雰囲気づくりを試みた（図6）。また、企画部会単体のTwitterを活用しイベント雰囲気の周知を図った。

一方で、参加学生18名のうち8名を留学生が占めた。かんがえるソファが留学生にとって日本語練習の機会となるうえ、多様な学生の参加によって幅広い意見が対話に与えられ、イベントによるまなびをさらに充実させる。しかし目立つのは日本人学生の参加の少なさである。広報面で前年度までと大きく異なる事情はないため、日本人学生における需要の変化が考えられる。かんがえるソファが大きな変革を求められる可能性を考慮せざるを得ない。

後期は留学生を積極的に受け入れるイベントとして、日本語部会との共同開催に取り組んだ。結果参加した学生11名のうち6名が留学生となった。集客に限界を感じていた企画部会と、多忙のた

め日本語上級者の留学生向けイベントの計画に苦慮していた日本語部会の利害がうまくかみ合った結果ともいえる。かんがえるソファの新たな方向性を検討する機会となった。

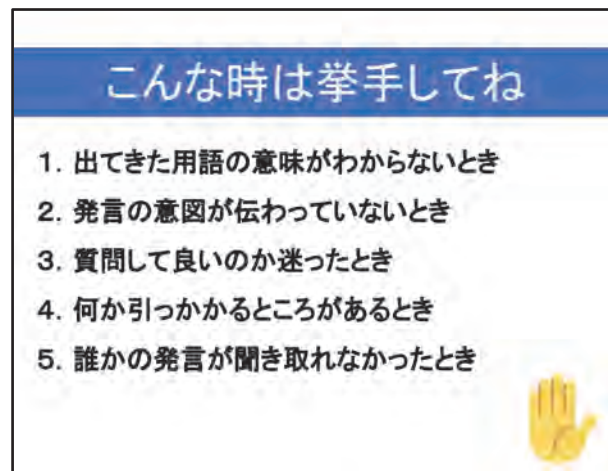


図7 2022年度グランドルール追加スライド

## 8. オンライン開催が与えた変化

### 8.1. オンライン開催がSLAに与えた変化

2020年度以降、ほとんどのかんがえるソファがzoomによるオンライン開催で行われている。これにより、以下のような点で対面開催とは異なるオペレーションが求められるようになった。

#### ・参加申し込みフォームの必須化

会場であるzoomのURLを送信する関係で参加学生全員のメールアドレスの収集が必須となり、参加希望者は参加申し込みフォームへの記入が絶対となった(それまでの参加フォームは、SLA側が参加学生層やその大体の人数を把握するためのものであり、参加にあたっての記入は絶対ではなかった)。また、フォームには接続機器等に関する質問項目が追加され、参加にあたって事前の負担が増えたと言わざるを得ない。さらに、参加学生には事前にURLを送信するため、当日参加に対する対応が難しくなった。

#### ・接続用の教室の確保

2021年度前期は教養科目が一部対面授業となったものの、かんがえるソファはオンライン開催であったため、キャンパスから接続する学生に供するべく川内北キャンパス内に参加時に利用可能な教室を確保した。

#### ・オンラインでのファシリテーション

オンライン開催の場合、共有するグラフィックの見え方が参加学生各人の接続状況により一律でない可能性があるため、対面開催時より各人のメモの重要度が増した。このことによりファ

シリテーターには、参加学生のメモのペースに配慮しつつ、こまめな理解の確認が求められる。

- ・オンラインでのグラフィック

実体のあるホワイトボードが使えなくなったことから、Google スライド等におけるグラフィックや、zoom チャットにおける発言の記録によって対応した。オンラインでのグラフィックは、ホワイトボードによるものに比べ見やすくなったが、その記入操作を対話のペースに合わせて進めるにはある程度の習熟が必要である。チャットによる記録は、どれが誰の発言かを明らかにするよう努めた点で有益であったが、記録量が膨大になり特定の発言を遡って見つけることが難しく、また対話を構造化・図表化したものの共有ができないという欠点がある。

- ・接続トラブル対応

SLA、参加学生ともに当日の接続トラブルが発生することがあり、その都度、臨機応変な対応が求められるようになった。接続不良のファシリテーターをグラフィッカーが代替したこともあった。参加学生が接続不良に陥った場合、カメラオフでも参加できるが、ファシリテーターはカメラオフでも発言しやすい雰囲気を作る必要がある。

- ・録画対応

担当 SLA が事前にホストキーからホスト設定をすることで、対面開催時のビデオカメラによる録画より容易に録画可能な環境となった。しかし、録画忘れ、パソコンの保存容量不足等の録画に関するトラブルが増加した。また、対面開催時とは異なり、カメラをオンにした参加学生の正面の顔が必然的に記録されるようになったため、録画データの取り扱いに一層の注意が必要となった。

- ・参加アンケートのメール送信

2019 年度以前は、事後のアンケートを紙媒体により参加学生にその場で記入させていたが、イベント終了後のメール等でアンケートフォームを案内する形にしたため、アンケート回収率の低下が見られた。

## 8.2. オンライン開催が参加学生に与えた変化

オンライン開催は、参加学生にも次のような点で変化を与えた。これらには、それぞれの参加学生にとってメリットにもデメリットにもなった側面がある。

- ・参加学生層

対面開催時は川内北キャンパスに通学する学生を主対象としたが、オンライン化により他キャンパスに通う学生の参加が増え、院生や留学生も積極的に参加できるようになった。これにより意見の幅が広がり、さらにまなびの多い対話が可能になった。同時にファシリテーターには、広い学年にまたがる参加学生間の思考力の差を埋める配慮や、参加留学生への気配りが求められるようになった。

## ・メモの重要性

8.1.で述べたように参加学生のメモの重要度が増した。共有するグラフィックが学生各人に必ずしも同じように見えていないことから、各人が対話の内容に対して共通の理解を得られているか疑問が残る。つまり、メモの技術がある学生と足りない学生との間で、対話がかみ合わなくなる可能性がある。これは、それぞれのメモによって各人が自由な発想を拡げられることと表裏一体である。

## ・SLA も含め参加学生が対等な状況

対面開催では担当 SLA がホワイトボードの前に立ち、ソファに座った参加学生に正対するのが一般的であるが、オンライン開催時、立場の違いこそあれど画面上では SLA と参加学生が同じ枠に収まっている。これにより”やりやすい”と感じる学生もいれば、”やりづらい”と感じる学生もいる。やりやすい学生にとっては、自分の意見がより尊重されやすく、自己の対話のペースに持って行きやすいと感じるだろう。一方でやりづらい学生にとっては、SLA がどこまで対話に介入するか分からず、自身の発言で対話のペースを乱してしまう不安を対面開催時以上に覚えるだろう。SLA が対話のペースを調整する必要性が増す一方、SLA 対参加学生のキャッチボールばかりにならないように学生間の質問の投げ合いを促す配慮が必要である。

## 9. かんがえるソファ類似イベントの開催

### 9.1. かんがえるソファ+の概要

かんがえるソファ+では、直近のニュースや社会問題を1つ取り上げ、参加学生同士で深く対話しながら、その本質的・根本的問題点と解決策について考えを拡げる。対話のあり方やSLAの関わり方は、通常のかんがえるソファと同様であり、ソファに新たな参加学生を呼び込むことも企図したイベントである。

企画書によると、かんがえるソファ+は以下のようなまなびを期待して企画された。

- ・自分の興味関心を広げることができる
- ・現代社会の可能性とそれに対して若者（特に大学生）ができることを考える
- ・教養を培うことができる
- ・時事問題への関心が高まる

イベント時間は90分間で、2021年度前後期に各一回開催された（「ジェンダーのステレオタイプについて考えよう」「新型コロナウイルスのこれからーワクチン接種の着地点ー」）。

## 9.2. かんがえるソファ+を実施して

一回目の開催は、東京オリンピック開催準備段階における関係者の女性蔑視発言を受けたものであった。対話の内容は発言の根底にあるステレオタイプに迫り、さらに研究職の男女格差の問題に飛び火した。+では、通常のソファより具体的な問題を扱うため、問題についての知識量の差が問題に対する認識の差に影響する可能性があり、さらに担当 SLA は参加学生以上に問題に対して多くの客観的知識を持っていることが望ましい。このことから、+では SLA や参加学生がスマホやパソコンを見ながら参加したほうが、コミュニケーションを円滑にすると考えられる。

また、問題の具体性が高いことによつて、参加学生各人の意見の違いは通常のかんがえるソファより明確になる。+において異なる意見が出る場合、それらは各人の価値観に結びついたものであり、それらを比較するとよりディスカッション要素の強いイベントになる。これは、通常のソファとの差別化という点で重要であるが、ディスカッション化することで参加学生が委縮したり、意見が先鋭化したり、あまり重要でない論点に時間を割いたり、といったことがないよう担当 SLA は注意が必要である。

二回目の開催は、新型コロナウイルスワクチン接種者数が回を追うごとに減少するなか、四回目の接種が全国的に本格開始したことを受けたものであった。ワクチン接種によるデメリットに関して、スマホや配布資料で確認しながら対話を進めたが、意見がデータ頼みになってしまったり、社会で良しとされる傾向に反する意見（この場合はワクチン接種拒否を支持する意見）が出にくくなったりしてしまわないよう注意を払った。

## 9.3. かんがえるソファ D の概要

かんがえるソファ D では、通常のかんがえるソファを一回実施し、別日にそれに関連したテーマをもとにディスカッション要素の強いソファを実施する。+と同様、様式は通常のソファと同じであり、通常のソファへの新たな参加学生の獲得を狙った。

D を開催した目的は、「ディスカッションをできる場がもっと欲しい、という声にこたえる」「テーマについてより深くかんがえる」「かんがえるソファの在り方を模索する」の三点である。通常のかんがえるソファでは忌避してきたディスカッション要素を意図的に取り入れていくことが、ソファにどのような影響を与えるか考えた。

ディスカッションでは、どちら側に立った意見で始めても、途中で意見を翻してもよく、意見の偏りを防ぐために SLA も参加した。

イベント時間は各 90 分間の 2 回で、2021 年度前期に一回開催された（「個性ってなんだろう」「学校の制服は廃止すべきか」）。

## 9.4. かんがえるソファ D を実施して

「個性ってなんだろう」の参加学生のメモ（思索の軌跡）を「学校の制服は廃止すべきか」の参加学生に事前共有し、地続きで考えられるように努力したが、「学校の制服は廃止すべきか」に生かせ

る意見があまりなかったこともあり、相互の対話のつながりが薄くなってしまった。テーマ設定の難しさを感じるとともに、二日にまたがるイベントであることに疑問を感じた。

「学校の制服は廃止すべきか」において、SLA 側で論点を整理しながらディスカッションをコントロールしたため、ディスカッションとしての良さは引き出せた（意見の整理と対比が十分にこなせた）が、参加学生側には話したいことが残ったままイベントの終了を迎えた。

## 10. これからのかがえるソファ

2022 年度末現在、かがえるソファは活動 6 年目を終えようとしている。担当メンバーの世代交代による目的や意義、ノウハウの風化といった運営上の問題や、イベントの内容やおもしろさの伝わりづらさに起因する広報上の問題といった、初期から指摘されてきた問題に加え、新型コロナウイルス感染症流行に伴う運営・開催両面にわたる諸々の制約を抱えてきた。

しかし、メンバーの交代はかがえるソファに新たな風が吹くことを意味する。幸運にも、SLA 企画部会は様々なバックグラウンドを持つ学生が集う、東北大学の中でも稀有な場である。これから世代を経てソファが開催されるならば、上述の問題に革新的な解決を見るかもしれない。それまで間断なくソファとそのノウハウを継承することが肝要だ。拙筆によってその一端を支えることができれば幸いである。

ここまで「かがえるソファ知の集成」を読んだみなさんなら、拙筆がソファの抱える問題の直接的な解決策を示していないことにお気づきだろう。拙筆によってかがえるソファへの理解を深め、運営と開催の実践を通じてソファの深淵に向き合って（できるだけ悩んで）ほしい。結局は「習うより慣れろ」というわけだ。

## 謝辞

執筆にあたって、これまでかがえるソファに関わってきた、学習支援センター佐藤智子准教授をはじめ、先輩方、同学年諸氏、後輩のみなさんがドライブに残してきた文書や活動記録等を参考にした。また、私自身のかげえるソファに対するマインドの大部分は西塚孝平（2018 年度前期～21 年度前期）・鈴木志保（18 年度前期～19 年度後期）両先輩のご指導のもと涵養されたものである。さらに、かつての渡邊早紀さん（21 年度前期～21 年度後期）による企画部会全体の新人研修資料の不十分の指摘や、坂本瑞生くん（20 年度前期～20 年度後期）によるソファの意義やねらいの明文化の不足の指摘が、執筆の出発点となった。執筆は田村彩奈さん（22 年度後期～）の新人研修と並行して行ったため、その研修の内容を全体構成の参考とした。そして、生方颯真くん（21 年度後期～）から寄せられた意見をもとに第 2 章の一部の表現を改めた。

多くの方に感謝を述べねばならない。さらに言えば「集成」は未だ完成ではなく、さらに後輩のみ



なさんが蓄積を重ねていくことを期待するため、予め感謝申し上げることにする。

### 「かんがえるソファ知の集成」の取り扱いについて

かんがえるソファの意識と知識の継承という「集成」の当初の目的に照らして、これが今後のソファ実施のよりどころとなることを期待する。そのため、研修資料や参考資料としての利用にとどまらず、広報発信での活用や積極的な改訂など自由に運用してほしい。

なお、あらゆる媒体に転載することを考え、互換性のない文字の使用や書式の設定は避けたが、万一の文字化けなどには注意されたい。

**参考文献** ※校正者注：非公開の SLA 作業用フォルダ内の資料および共有 URL の情報を削除している

足立佳菜 (2018a) 『学習支援ハンドブック：理系チュータリング Tips とチューター育成』 東北大学学習支援センター。

足立佳菜 (2018b) 「SLA 実践開発 8 年間の失敗クロニクル：現場の証言記録として」『2017 年度学習支援センター年次報告書』 東北大学学習支援センター， pp. 17-20.

中野民夫 (2017) 『学び合う場の作り方：本当の学びへのファシリテーション』 岩波書店。

西村高宏 (2018) 「CLS”学びの転換セミナー” (第 1 回) 『哲学的対話実践 (てつがくカフェ)』について」『2017 年度学習支援センター年次報告書』 東北大学学習支援センター， pp. 53-54.

坂本瑞生 (2020a) 「かんがえるソファの評価基準の言語化に向けて. 2020 年度前期」 企画 SLA 振り返り MTG 資料 (非公開)。

坂本瑞生 (2020b) 「企画部会を企画する：2017 年度『企画部会活動報告』続貂」『2020 年度学習支援センター年次報告書』 東北大学学習支援センター， pp. 82-85.

佐藤智子 (2017) 「企画発信型学習支援をなぜ『強化』するのか：企画担当 SLA 新設の経緯を踏まえて」『2016 年度学習支援センター年次報告書』 東北大学学習支援センター， pp. 17-20.

綿引周 (2017) 「よりよいてつがく対話のためのルール」 イベント配布資料 (非公開)。

2. 2022 年度発行ポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

ようこそ、東北大学へ

# SLAサポートを 利用してみよう !!

SLAサポートとは、主に学部1・2年生の学びを支援する仕組みです。  
SLAと呼ばれる学部3年生以上の先輩たちが皆さんの学びをサポートします。  
※個別対応型支援では、理系科目・ライティング・英会話を扱っています。

## Apr.18th mon START

それまでは、ガイダンスで配られた SLA SUPPORT GUIDE BOOK2022 を読んでね♪

利用方法  
12月～3月  
利用可能

先着100名  
大学での  
学びの  
ヒント

12月～3月  
利用可能

12月～3月  
利用可能

12月～3月  
利用可能

12月～3月  
利用可能

東北大学 学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F  
http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/ mail: sla-support@grp.tohoku.ac.jp  
最新の予約状況や学びに役立つ情報満載 ツイッターはこちら@sla\_tomosodechi

▲1) 前期利用案内 (全体)

SLAサポート  
個別対応型支援の内容

### 理系サポート

#### 物理・数学・化学

利用時間の目安: 45分-60分  
物理・数学・化学の学習に関する質問を受付!  
お友達と一緒にの利用も大歓迎!  
よくある質問:  
○教科書のこの部分、何度読んでも理解できません。  
○研究室・コース選択どうしましたか?

### 言語系サポート

#### ライティング

利用時間の目安: 45-60分  
レポートや論文をはじめとした文章の書き方を幅広く支援しています。  
よくある質問:  
○初めてで不安なので書いたものを見てほしいです。  
○文献や資料はどう探したらよいですか

#### 英会話

利用時間の目安: 30分  
英語が苦手な人も、英語力を伸ばしたい人も! マンツーマンで対応!  
利用学生の声:  
○英語の聞き方について、自分の直すべき箇所を的確にアドバイスしてもらえました。勉強の方針がたつた気がしました。  
○ただ英語を話すだけでなく、先輩の学習に関する経験やこれからのビジョンなどキャリア決定に役立つ話がありました。

東北大学 学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F  
http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/ sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲2) 前期利用案内 (全体)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAサポートとは学部3年生以上の先輩たちによる学習支援です。

## 理系科目・個別対応型学習支援 SLAサポートがはじまります

<b>SLAとは</b> 学部3年生以上の先輩で構成される学習支援スタッフです。	<b>対応科目</b> 物理・数学・化学の学習に関する質問をうけつけています。	<b>どんな</b> 教科書の理解できない部分や、学習方法など、学習に関する質問にお答えします。
<b>いつ</b> 授業期間中の平日、4-5時間の時間に利用できます。	<b>どのくらい</b> 利用時間の目安は1回あたり45分程度です。	<b>どこで</b> 4月はオンラインでの対応をおこないます。
<b>なにを</b> 全学教育の推進が対象です。専門科目については、ご相談ください。	<b>利用のながれ</b> 予約サイトから日時をしてくださいます。利用当日にMeetURLをお送りします。	<b>予約サイト</b> https://sla-science.edisone.jp/

ライティングサポート・英会話1on1のご予約はこちらどうぞぞ!  
https://sla-support.edisone.jp/

東北大学 学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F  
http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲3) 前期利用案内 (理系)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAサポートとは学部3年生以上の先輩たちによる学習支援です。

理系サポート

もう使ってみよう  
利用者の声を紹介しましたか?

非常に丁寧でわかりやすかったです。ありがとうございました。

レポートの書き方について不安だらけだったのですが、今回の相談で大まかな手順や注意点を知らることができてよかったです。

短1時間内にできるだけ解答しようとして聞いてありがとうございました。自分でも勉強してみます。

フレキシブルな対応ができるのがさすがだと思いました。

オンラインで人とやり取りするのがあまり得意ではないのですが、とても話しやすい雰囲気でした。

質問がはっきりしていなかったのですが、それを汲み取っていろいろなお話を広げてくださったのがよかったです。

理系対応予約サイト  
https://sla-science.edisone.jp/

東北大学 学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F  
http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲4) 前期利用案内 (理系)

東北大学 学習支援センター  
SLA英会話 presents

SLAサポートとは学部3年生以上の先輩たちによる学習支援です。あなたの学びに合わせたサポートをします。

SLA英会話 panel session

# 外国語の学び方 どうしてる？

先輩学生によるトークセッション

18 APR mon @B棟102  
14:40 - 15:40  
16:20 - 17:20

◆トークセッションでは…  
英語や他の外国語の学習に取り組んできた先輩学生が、語学学習の楽しさやおもしろさ、難しさやつらさ、そして外国語を学ぶ上でのコツなどをお話します。  
新入生の皆さん(2年生以上の皆さんも大歓迎！)、気軽に聞きに来てください！

東北大学学習支援センター (SLAサポート)  
sla-support@grp.tohoku.ac.jp  
SLA英会話Twitter: @SLAenglish

予約は不要です！  
ふらりと立ち寄ってね！

▲5) 英会話トークセッション

SLA主催

# かんがえるソファ

Zoom開催!

申込フォーム

かんがえるソファってなに？  
当イベントは誰でも一度は感じたことのある身近な疑問を学生同士で深掘りして見るイベントです！

「色んなアイデアを聞いてみたい」「友達を作りたい」「自分の考えを表現する練習をしてみたい」「なんだか面白そう…」キッカケはなんでもOK。  
普段とは違う場所で、まわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか？

今月のスケジュール

「やりたいことがないときは？」	5/13 (金) 14:55-16:10	@Zoom
「理想についてかんがえる」	5/18 (水) 16:20-17:35	@Zoom
「やる気ってどこから来るの？」	5/24 (火) 16:20-17:35	@Zoom

参加方法 右上QRコードから申込フォームを記入→送られてきたURLからZoomを開く

SLA(Student Learning Adviser)の活動って？  
学生同士の学びあい)をコンセプトに学部3年生~大学院生の幅広い層の先輩学生が  
全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています！HPとTwitterで詳細が確認できます！

東北大学学習支援センター (SLAサポート)  
企画チーム @sla\_event  
センターHP  
住所:川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟1F  
メール:sla\_support@grp.tohoku.ac.jp  
学習支援センター @sla\_tomosadachi

▲6) かんがえるソファ (5月)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAサポートとは主に学部1・2年生の学びを支援する仕組みです。  
サポートを担うのはSLAと呼ばれる学部3年生以上の先輩たちです。

お待ちを  
ほめた!!

# SLAサポートは 6/6 (月)から 理系科目の対面对応を開始します

【対応時間】 **15:00~17:00**  
受付最終時間は16:30です

【利用方法】

- ・ M棟前のホワイトボードで実施科目をCHECK
- ・ 対応時間にSLA質問カウンターへ
  - ・ 予約は不要です
  - ・ 初回は利用登録・利用ポリシーをご案内します
  - ・ SLAが空いていない時は、待ち札をお渡しします
- ・ カルテに相談内容を記入したら対応開始!
- ・ 利用後はアンケートにご協力ください

東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟 1F  
HP: <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp/> ■ [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲7) 前期利用案内 (理系)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAサポートとは主に学部1・2年生の学びを支援する仕組みです。  
サポートを担うのはSLAと呼ばれる学部3年生以上の先輩たちです。

お待ちを  
ほめた!!

# SLAサポートは 6/6 (月)から 理系科目の対面对応を開始します

【対応時間】 **15:00~17:00**  
受付最終時間は16:30です

【利用方法】

- ・ M棟前のホワイトボードで実施科目をCHECK
- ・ 対応時間にSLA質問カウンターへ
  - ・ 予約は不要です
  - ・ 初回は利用登録・利用ポリシーをご案内します
  - ・ SLAが空いていない時は、待ち札をお渡しします
- ・ カルテに相談内容を記入したら対応開始!
- ・ 利用後はアンケートにご協力ください

東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟 1F  
HP: <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp/> ■ [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲8) 前期利用案内 (理系)

**Tohoku University Student Learning Adviser**

学習支援センターワークショップ  
**上手なパラグラフの書き方**  
 たかがパラグラフ・ライティング、されどパラグラフ・ライティング...  
 今回のワークショップはライティング上級者を狙いたい人のための学習イベントです

\*日時\* 6月6日(月)

\*内容\* 実際にパラグラフを書き、ピアレビューをおこないます。

\*今後の予定\*

6月は「ライティング強化月間！」  
 毎週月曜日にライティングのワークショップを開催します。  
 学務情報システムでお知らせするほか、学習支援センター公式twitterで告知します。ぜひフォローをお願いします。 @sla\_tomosodachi

クラスコードから登録の上  
 アカデミックライティングの習得に  
 お役立てください！

<基礎を学べるポータルサイト>  
 アカデミック・ライティング (2022年度前期)  
 Classroom クラスコード: aopryfs

東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟 1F  
 HP: <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/> [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲9) ワークショップ (ライティング)

**Tohoku University Student Learning Adviser**  
 SLAサポートとは主に学部1・2年生の学びを支援する仕組みです。  
 サポートを担うのはSLAと呼ばれる学部3年生以上の先輩たちです。

**SLAライティング**  
**対面サポート はじめました**

**月曜日**  
**15:00~17:00**

~よくある相談~

- ・レポートを初めて書くので、色々不安です。
- ・引用のしかたや参考文献の書き方が、よくわかりません。
- ・論理的な構成になっているか、自分では自信がありません。

対応時間にM棟1Fの学習支援センターへ！

- ・事前予約は要りません。(オンラインで事前予約もできます。)
- ・初めて利用する時は利用方法説明と登録手続きがあります。
- ・待ち時間が発生する場合もあります。

東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟 1F  
 HP: <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/> [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲10) 対面開始案内 (ライティング)

**Tohoku University Student Learning Adviser**  
 SLAサポートとは主に学部1・2年生の学びを支援する仕組みです。  
 サポートを担うのはSLAと呼ばれる学部3年生以上の先輩たちです。

**SLA英会話 1 on 1**  
**オンラインで開催中です!**  
 英語が苦手な人も、英語力を伸ばしたい人も！これまで学んできた英語を「使える英語」に！

**月・火・水曜日**

①15:00- ②15:45- ③16:30  
 セッションは1回30分です

◆利用方法◆  
 予約サイトから希望の日時を選んでください。  
 利用当日の午後にGoogleMeetのURLをお送りします。  
<https://sla-support.edison.jp/>

◆利用学生の声◆

英語の聞き方について、自分の直すべき箇所を的確にアドバイスしてもらえました。勉強の方向がたった気がしました。

とでもとても楽しかったです。スピーキングの練習をSLAでスタートして本当に良かったです。

ただ英語を話すだけでなく、先輩の学期に関する経験やこれからのビジョンなどキャリア決定に役立つ話がありました。

140文字でお役立ちフレーズや英語学習のコツなどご紹介。ぜひフォローしてね！  
 SLA英会話twitter @SLAenglish

東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟 1F  
 HP: <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/> [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲11) 英会話利用案内 (6月)

**Tohoku University Student Learning Adviser**

学習支援センター・ライティングワークショップ  
**レポートの正しい書き方 総点検!**

"とりあえずいくつかの授業でレポートを書いたけど、正直あの書き方で良かったのか不安"...という方は、ぜひご参加ください。

\*日時\* 6月13日(月)  
 ①13:15-14:25 ②14:50-16:00 ※同一内容です。

\*対象\* 学部1~2年生

\*場所\* 講義棟AまたはC棟の教室 (川内北キャンパス)  
 ※参加申込者にメールでご案内します。

\*定員\* 12名程度 (各回)

\*申込方法\*

以下のフォームからお申し込みください。  
<https://forms.gle/RJ78St82jE3zjvL7>

\*申込締切\* 6月12日(日)

クラスコードから登録の上  
 アカデミックライティングの習得に  
 お役立てください！

<基礎を学べるポータルサイト>  
 アカデミック・ライティング (2022年度前期)  
 Classroom クラスコード: aopryfs

東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟 1F  
 HP: <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/> [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲12) ワークショップ (ライティング)

ふらっと、自由にきてください!  
※お申し込み不要です

SLA 主催

# かんがえるソファ

対面開催

かんがえるソファってなに?  
当イベントは誰でも一度は感じたことのある身近な疑問を学生同士で深掘りしてみるイベントです!

「色んなアイデアを聞いてみたい」「友達を作りたい」「自分の考えを表現する練習をしてみたい」「なんだか面白そう...」キッカケはなんでもOK。  
普段とは違う場所で、まわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか?

今月のスケジュール

「対面授業ってどう?」	6/15 (水)	14:55-16:10	@ M棟
「どうして人に親切にするの?」	6/21 (火)	14:55-16:10	@ M棟
「"空気を読む"は良いことか?」	6/29 (水)	14:55-16:10	@ M棟

参加方法 今月はM棟(マルチメディア棟)にて対面で開催します!  
1階ラウンジにて受付後、案内いたします。

SLA(Student Learning Adviser)の活動って?  
「学生同士の学びあい」をコンセプトに学部3年生~大学院生の幅広い層の先輩学生が全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています! HPとTwitterで詳細が確認できます!

東北大学学習支援センター (SLAサポート)  
会場: 川内北キャンパス 1階マルチメディア 東洋館1階101号室  
お問い合わせ: support@slg.jp | slg@tohoku.ac.jp

企画チーム @slg\_event  
学習支援センター @slg\_tomosodachi

▲13) かんがえるソファ (6月)

Tohoku University Student Learning Adviser  
学習支援センター・ライティングワークショップ

## 良いレポートを書く方法

計画的・効率的に書く方法

レポートを書く時に、何から始めればいいのか、どれくらい時間をかけたいのか、どのような計画と手順でレポートを書いていけばいいのかを指南します。

\*日時\* 6月20日(月)  
①13:15-14:25 ②14:50-16:00 ※同一内容です。

\*対象\* 学部1~2年生  
※「東北大学レポート指南書」(第3版)の内容を復習しておいてください

\*場所\* 講義棟Aの教室(川内北キャンパス)  
※参加申込者にメールでご案内します。

\*定員\* 12名程度(各回)

\*申込方法\* 以下のフォームからお申し込みください。  
<https://forms.gle/RJ78St82jF3zvjvL7>

\*申込締切\* 6月19日(日)

クラスコードから登録の上アカデミックライティングの習得に  
お役立てください!  
<基礎を学べるポータルサイト>  
アカデミック・ライティング(2022年度前期)  
Classroom クラスコード: aopryfs  
東北大学 学習支援センター(川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟1F  
HP: <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/> | [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲14) ワークショップ(ライティング)

Tohoku University Student Learning Adviser  
SLAサポートとは主に学部1・2年生の学びを支援する仕組みです。  
サポートを担うのはSLAと呼ばれる学部3年生以上の先輩たちです。

# SLA ENGLISH EVENT

Zoom開催

かんがえるソファってなに?  
当イベントは誰でも一度は感じたことのある身近な疑問を学生同士で深掘りしてみるイベントです!

「色んなアイデアを聞いてみたい」「友達を作りたい」「自分の考えを表現する練習をしてみたい」「なんだか面白そう...」キッカケはなんでもOK。  
普段とは違う場所で、まわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか?

今月のスケジュール

「"考える"とは?」	7/1 (金)	16:20-17:35	@Zoom
「なぜ"見た目"は大切?」	7/12(火)	16:20-17:35	@Zoom

参加方法 右上QRコードから申込フォームを記入→送られてきたURLからZoomを開く

SLA(Student Learning Adviser)の活動って?  
「学生同士の学びあい」をコンセプトに学部3年生~大学院生の幅広い層の先輩学生が全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています! HPとTwitterで詳細が確認できます!

東北大学学習支援センター (SLAサポート)  
会場: 川内北キャンパス 1階マルチメディア 東洋館1階101号室  
お問い合わせ: support@slg.jp | slg@tohoku.ac.jp

企画チーム @slg\_event  
学習支援センター @slg\_tomosodachi

▲15) ゲームで英会話しよう (6月)

SLA 主催

# かんがえるソファ

Zoom開催

かんがえるソファってなに?  
当イベントは誰でも一度は感じたことのある身近な疑問を学生同士で深掘りしてみるイベントです!

「色んなアイデアを聞いてみたい」「友達を作りたい」「自分の考えを表現する練習をしてみたい」「なんだか面白そう...」キッカケはなんでもOK。  
普段とは違う場所で、まわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか?

今月のスケジュール

「"考える"とは?」	7/1 (金)	16:20-17:35	@Zoom
「なぜ"見た目"は大切?」	7/12(火)	16:20-17:35	@Zoom

参加方法 右上QRコードから申込フォームを記入→送られてきたURLからZoomを開く

SLA(Student Learning Adviser)の活動って?  
「学生同士の学びあい」をコンセプトに学部3年生~大学院生の幅広い層の先輩学生が全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています! HPとTwitterで詳細が確認できます!

東北大学学習支援センター (SLAサポート)  
会場: 川内北キャンパス 1階マルチメディア 東洋館1階101号室  
お問い合わせ: support@slg.jp | slg@tohoku.ac.jp

企画チーム @slg\_event  
学習支援センター @slg\_tomosodachi

▲16) かんがえるソファ (7月)

Tohoku University Student Learning Adviser  
SLAサポートとは主に学部1・2年生の学びを支援する仕組みです。  
サポートを担うのはSLAと呼ばれる学部3年生以上の先輩たちです。

**7月4日(月)から  
SLA対面サポートは  
(理系・ライティング※のみ・英会話1on1※のみ)  
1時間早く開始します!!  
14:00~17:15**

※対応の最終受付は16:30です

<7月の曜日別対応科目>

月	火	水	木
物理	物理	物理	物理
数学	数学	数学	数学
化学		化学	化学
ライティング(対面)	ライティング		
英語	英語(対面)	英語	

※理系科目※  
授業でよく理解できない部分がある  
演習問題が解けない・計算があやふや  
習がわからないかすらあからなくとも  
大丈夫、まずは相談にきてね!

※ライティング※  
他人の目が入るとレポートは  
制約が大きくなります。  
まずは一度、利用してみてください

※英語※  
建設的に通って力をつけたい。  
実習を通して会話を楽しみたい  
リスニングに不安がある人も大丈夫!  
レベルに合わせてサポートします

対面利用は事前予約不要です。  
直接、M棟SLA窓口へお越しください。  
ライブハックも楽しめちゃSLA公式twitter → @sla\_tomosodachi  
日常にちょい足し! SLA英語部会公式twitter → @SLAenglish  
東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟1F  
HP: <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp/> [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲17) 前期対応案内

Tohoku University Student Learning Adviser  
SLAサポートとは学部3年生以上の先輩たちによる学習支援です。  
東北大学 学習支援センター SLAサポート室 (川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F)  
<http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp> mail: [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

SLA化学部会プレゼンツ

問題は全部で8問!  
きみはコンプリートできるかな?

**量子化学(化学A)  
4択問題**

✓テスト前の確認に!  
✓わからないところがあったらSLAへ!

結合が一番強いのはどれ?  
(答えは裏面)

1 $\text{HC}\equiv\text{CH}$	2 $\text{He}\text{---}\text{He}$
3 $\text{H}_3\text{C}\text{---}\text{CH}_3$	4 $\text{H}_2\text{C}=\text{CH}_2$

QRコード: SLA公式Twitterチャンネル

▲18) 化学4択問題(7月)

学芸員さんと巡る  
SLA主催 **美術館ツアー**  
追加開催

開催日時: 2022年8月3日(水) 14:00-15:30  
集合場所: 宮城県美術館エントランスホール  
(正面入口を入ってすぐ)  
持ち物: 学生証/鉛筆/メモ  
定員: 20名

イベント内容  
川内から徒歩5分にある宮城県美術館。実は行ったことないという方も多いのでは?  
このイベントは最初に学芸員の方から美術館の楽しみ方について簡単なレクチャーを頂  
いたあと、自由に展示を見て回って、感じたことを皆でシェアするイベントです!  
美術館ってなんか敷居が高いなあ...と感じている方! ぜひお越し下さい。

QRコード: 申し込みはこちら

東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟1F  
HP: <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp/> [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲19) 美術館ツアー案内

Tohoku University Student Learning Adviser  
SLAサポートは学部3年生以上の先輩たちによる学習支援活動です。

10月11日(火)から  
後期SLAサポートがはじまるよ!

**質問&相談受付中**  
月・火・水・木 15:15~17:15  
<最終受付 16:30>


対面対応科目  
理系科目(物理・数学・化学など)  
ライティング・英会話  
マルチメディア教育研究棟1Fの  
SLAラウンジにお越しください。

オンライン対応科目  
ライティング・英会話  
日本語会話  
専用サイトからご予約ください。  
<https://sla-support.edisona.jp/>

東北大学 学習支援センター SLAサポート室  
川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F  
HP <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp>  
email [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)  
Twitterでは学習に役立つ情報やSLAの最新情報を発信しています!  
[@sla\\_tomosodachi](https://twitter.com/sla_tomosodachi)

▲20) 後期利用案内(全体)

2022年度後期版  
SLAサポート理系窓口利用案内  
物理・数学・化学 etc



マルチメディア教育研究棟(M棟)での対面の学習支援を行っています。

SLAサポート理系窓口では学部3年生以上(大学院生含)の先輩に学習内容について相談できます。

- ・ SLAは教員ではないため「内容を教える」対応ではなく「一緒に考える」対応となります。
- ・ SLAはみなさんと一緒に一生懸命考えますが、一緒に考えるという性質上その内容の正しさについては保証できません。
- ・ 最終的な判断は自分で行いましょう。

全学教育の範囲の物理・数学・化学が対象です。

- ・ 専門科目等については、その都度ご相談ください。

授業期間中の平日午後後に活動しています。

- ・ 日によって受付科目は異なりますので、M棟前の看板などでご確認ください。

1回の対応は45分-60分が基本です。

サポートの利用を通して、自分の力で取り組める・問題解決できるようになることを重視しています

- ・ 授業プリント、ノート、テキスト等を持って来てもらえると、より良い対応ができます。

東北大学BCPレベルが1以下の場合は対面対応、2以上の場合は原則オンラインでの対応になります。

▲21) 後期利用案内 (理系科目)

2022年度後期版  
SLAサポート言語系利用案内  
ライティング・英会話1on1・日本語会話1on1



オンライン・対面の両方での支援を行っています。  
日本語会話はオンラインのみの対応です。

オンライン利用は下記より事前予約をお願いします。



<https://sla-support.edison.e/j/>  
・予約は平日の9時開校まで予約が可能です。  
・授業の希望の予約はできません。  
・オンライン予約は、google meetを使用します。

レポート・ライティング

- ・ レポートや文章作成の質問・相談に乗ります。
- ・ 授業のレポート課題のほかレジュメや応募書類等に関する質問も受け付けています。
- ・ 1回のセッションは60分です。

英会話1on1

- ・ SLAと1対1で英会話を練習します。
- ・ 日常会話の練習のほか、授業のプレゼンの練習、TOEFLや英検などの試験対策の相談も受け付けています。
- ・ 1回のセッションは30分です。

日本語会話 1on1 (留学生向け)

- ・ SLAと1対1で日本語会話を練習します。
- ・ 日常会話の練習のほか、日本語の文法や、日本の文化や習慣についての質問も受け付けています。
- ・ 1回のセッションは30分です。

学習支援センター-SLAサポート室 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟  
e-mail >sla-support@grp.tohoku.ac.jp HP >http://sla.cls.lhe.tohoku.ac.jp/  
Twitter >@sla\_tomosodachi ※ツイッターでは利用履歴や学習に役立つ情報を発信しています。


▲22) 後期利用案内 (言語系科目)

異文化交流したい！  
新しいことを始めたい！  
異なる価値観を知りたい！

みんなで  
かんがえる  
かんがえるソファ  
SLA主催

かんがえるソファってなに？  
当イベントは誰でも一度は感じたことのある身近な疑問を学生同士で深掘りしてみるイベントです！

「色々なアイデアを聞いてみたい」「友達を作りたい」「自分の考えを表現する練習をしてみたい」「なんだか面白そう...」  
きっかけはなんでもOK。  
普段とは違う場面で、まわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を採ってみませんか？



申込フォーム

今月のゲーム  
「周りと違っていて心地いい？」 10/27(木) 16:20-17:30  
今回のイベントは留学生も参加予定です！  
異文化交流をしたい方にピッタリのイベントです！

参加方法  
右上QRコードより予約した上で、マルチメディア教育研究棟(川内北キャンパス)にお越し下さい。 ※感染症対策として実施します

SLA(Student Learning Adviser)の活動って？  
「学内での学びあい」をコンセプトに学部3年生～大学院生の幅広い層の先輩学生が全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています！HPとTwitterで詳細が確認できます！

東北大学学習支援センター (SLAサポート) 問い合わせ  
住所: 川内北キャンパス 川内北5丁目1番10号 マルチメディア教育研究棟1F  
e-mail >sla-support@grp.tohoku.ac.jp HP >http://sla.cls.lhe.tohoku.ac.jp

学習支援センター 学号 sla\_tomosodachi



▲23) かんがえるソファ (10月)

Tohoku University Student Learning Adviser  
SLAサポートとは主に学部1・2年生の学びを支援する仕組みです。  
サポートを担うのはSLAと呼ばれる学部3年生以上の先輩たちです。

英語でゲーム  
Halloween Party  
しよう！

開催日: 10/31(月) 15:30-16:30  
場 所: 川内北キャンパス  
マルチメディア教育研究棟1階 SLAラウンジ  
定 員: 各回8名 (先着順、事前申込者優先)  
対 象: 英会話を実践的に学びたい東北大生  
申 込: <https://forms.gle/6PkQKWNjCNgasIAJ88> → [申込QRコード]  
※英会話初級者の学部1～2年生を優先です。  
※申込なしでも当日空きがあればご参加いただけます  
※希望者多数の場合、事前申込者を優先します。  
140文字でお役立ちフレーズや英語学習のコツを紹介！  
空き時間活用のフォローしてあげよう！

SLA英語部会twitter @SLAenglish

東北大学 学習支援センター (川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟1F  
HP: <http://sla.cls.lhe.tohoku.ac.jp/> 学号 sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲24) 英語イベント (10月)

論理的思考力を鍛えたい！

新しいことを始めたい！

いろんな価値観を知りたい！

みんなで  
かんがえる  
かんがえるソファ  
SLA主催

かんがえるソファってなに？

誰にとっても身近な問題なのに実は深く考えた事のない哲学的なテーマなどについて、多様な学生と一緒に集い、楽しくマジメに対話するイベントです！

「思考力に自信がない…」という方でもSLA（先輩学生スタッフ）がきちんとサポートします！  
学部生～大学院生・留学生のみならず、ぜひお気軽にご参加ください！

今月のテーマ  
「すごい人ってどんな人？」 12/1(木) 14:50-16:00  
定員：7名 使用言語：日本語  
★日本語サポートもあるので、留学生の方もお気軽にご参加ください！

参加方法 マルチメディア教育研究棟①(川内北キャンパス)1階SLAラウンジに直接お越し下さい  
※ご予約は不要です  
※参加費は無料です

SLA(Student Learning Adviser)の活動って？  
「学年問わず学びあい」をコンセプトに学部3年生～大学院生の幅広い層の先輩学生が全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています！HPとTwitterで詳細が確認できます！

東北大学学習支援センター (SLAサポート)  
URL: <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp>  
Twitter: @sla\_tomosodachi

▲25) かんがえるソファ (12月)

Tohoku University Student Learning Adviser

そうだ、  
SLA  
行こう

年内は12/23(木)まで  
年始は1/6(木)再開

質問・相談受付中！

理系科目 (物理・数学・化学)  
・対面での学習支援を行っています  
・予約不要！M棟1階SLAサポート窓口へ  
・受付時間：月・水・木・金 14:30-17:20 (最終受付16:50)

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟1F  
<http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp> #sla-support@grp.tohoku.ac.jp  
Twitter: @sla\_tomosodachi

▲26) 年末年始お知らせ

Tohoku University Student Learning Adviser

そうだ、  
SLA  
行こう

年内は12/23(木)まで  
年始は1/6(木)再開

質問・相談受付中！

理系科目 (物理・数学・化学)  
・対面での学習支援を行っています  
・予約不要！M棟1階SLAサポート窓口へ  
・受付時間：月・水・木・金 14:30-17:20 (最終受付16:50)

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟1F  
<http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp> #sla-support@grp.tohoku.ac.jp  
Twitter: @sla\_tomosodachi

▲27) 年末年始のお知らせ

Tohoku University Student Learning Adviser

1月  
かんがえるソファ

SLA 主催  
対面開催！

QRコード

テーマと日程 \*…参加者がファシリテーターをできる回

1/6(水) 15:20～17:40	「アイドンについてかんがえる」	■M203 (M棟2F 教室)
★ 1/16(水) 15:20～17:40	「愛するってなんだろう」	■M303 (M棟3F 教室)
★ 1/16(水) 15:20～17:40	「嘘についてかんがえる」	■SLA ラウンジ (M棟1F)

かんがえるソファとは？  
かんがえるソファとは、誰でも一度は感じることのある疑問や疑問はあまり考えないけど身近な問題について学生同士で話し合えるイベントです。  
みんなのアイデアを聞いてみたい、英語を学びたい、自分の考えを表現する練習をしてみたい、友達か友達か... キラカケはみんなでもOK。  
人の話を聞いてみるからとそまわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか？

参加方法  
①QRコードの半透明なQRコードを読み取り、参加費を請求される場合があります。  
②参加の開催場所へ行き、参加費を請求される場合があります。  
準備OK。

SLAって？  
SLA (Student Learning Adviser) とは、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことです。  
「学生同士の学びあい」をコンセプトに学部3年生～大学院生の幅広い層の先輩学生がSLAとして全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています。

東北大学学習支援センター (SLAサポート)  
住所：川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟1F  
Eメール: [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)  
Twitter: @sla\_tomosodachi  
#SLAtohosodachi

▲28) かんがえるソファ (1月)



Tohoku University Student Learning Adviser

**SLA理系科目 (物理・数学・化学)  
オンラインで対応中!**



予約サイトへアクセス!  
<https://sla-science.edisone.jp/>



利用当日お昼過ぎにご案内メールを送ります。

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟 1F  
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> ☎ [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)  
📱 学習に役立つ情報を発信中! @sla\_tomosodachi

▲29) オンライン対応開始案内

Tohoku University Student Learning Adviser

**SLA理系科目 (物理・数学・化学)  
オンラインで対応中!**



ホーホー  
ここが最後の勝負どころじゃ!

予約サイトへアクセス!  
<https://sla-science.edisone.jp/>



利用当日お昼過ぎにご案内メールを送ります。

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟 1F  
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> ☎ [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)  
📱 学習に役立つ情報を発信中! @sla\_tomosodachi

▲30) オンライン対応開始案内

Tohoku University Student Learning Adviser

2022年4月活动開始

**SLA募集**

SLAは「学生による学生のための学習支援スタッフ」です。  
一緒に全学教育(主に1・2年生)の学びをサポートしてくれる仲間を募集します!

◆募集枠  
数学 化学 ライティング 英会話 日本語会話 企画  
※各担当1名~数名募集。数学担当については3名以上募集  
※ライティング担当は修士以上の学生に集ります。

詳しい募集要項は [こちら](#) →



◆応募・採用の流れ  
1.活動説明会へのエントリー: **1/31(日) 10:00am 締め**  
各のQRコードにアクセスし、エントリーシートを提出  
後日、活動説明会や面接を定めます。  
<http://forms.doc1kZgOq5VfXp5ACU9>

2.活動説明会への参加: 1月末から2月4日頃  
SLAの活動内容や 面接・試験について説明を行います。  
説明会参加まで、応募するかどうかを考えて下さい。

3.面接・試験: 2月10日-25日頃  
説明会の内容を踏まえ、正式に応募したい方に対して  
後日実施。11.5時間程度。内容は科目ごとに異なります。

4.採否結果の通知: 3月4日

◆問い合わせ先  
mail: [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)  
web: <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp>

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟 1F  
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> ☎ [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)  
📱 学習に役立つ情報を発信中! @sla\_tomosodachi

▲31) SLA 募集案内

Tohoku University Student Learning Adviser

**SLA 英会話・日本語会話  
春休みスケジュール**

2/10 【英会話】 Thu. ・ 1on1セッション	【日本語】 ・ 1on1セッション ・ 日本語ワークショップ (14:15) ・ 文化カフェ (15:00)
2/15 【英会話】 Tue. ・ 1on1セッション	【日本語】 ・ 1on1セッション
2/17 【英会話】 Thu. ・ 1on1セッション	
2/21 【英会話】 Mon. ・ 1on1セッション	【日本語】 ・ 1on1セッション ・ 日本語ワークショップ (16:00)

1on1開始時刻  
1 枠目: 14:15 2 枠目: 15:00 3 枠目: 15:45

1on1セッションの  
予約はこちら!

日本語会話イベントの  
申し込みはこちら!

文化カフェ ワークショップ





東北大学学習支援センター(川内キャンパス)マルチメディア教育研究棟 1F  
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> ☎ [sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)

▲32) 春休み延長対応案内

## ＝編集後記＝

『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書』第9号が刊行の運びとなりました。2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を引き続き受けつつも、ポスト・コロナを見据えた事業展開を考える必要を痛感する1年ともなりました。

2022年度は、東北大学の全学教育改革が施行され、新カリキュラムがスタートした年度でもあります。本学では、全ての学部・研究科・附置研究所による全学総出動体制により運営していることから、教養教育課程を「全学教育」と称しています。2022年度の全学教育改革により、リベラルアーツ教育を現代の状況に対応した形に変えつつ一層の強化を図るため、複数の新たな科目群が新設されました。特に初年次教育における大きな変化としては、入学したばかりの初年次学生が第1 Semesterに必修科目として履修する「学問論」が新たにスタートしています。学習支援センターがこれらの科目運営に直接的な責任を有しているわけではありませんが、本学の全学教育と密接に関連して学習支援事業を展開してきた当センターとしては、これらの全学教育改革に対応した事業の見直しと改革を迫られている状況でもあります。これらの全学教育改革とそれに伴う授業科目および時間割の変更により、初年次学生に向けた支援も、従前と同様には進まない面が多く生じました。これからの学習支援センターとしては、先を見据えつつ、ポスト・コロナと全学教育改革に対応した事業展開を模索していく必要があります。

このように、全学教育改革という大きな波を目の前にして、十分な対応ができたとは言い難いところもあります。ですが、2010年よりこれまでの12年間、大きな実績を積み上げてきた「SLA サポート事業」も、大きな転換点を迎えています。そこに向けて私たちの学習支援に対する発想も変革していかなくてはならないかもしれません。

重い課題を残した1年でもありましたが、2022年度も、学内外の多くの皆様に支えられてセンターの活動が完遂できました。関係者の皆様に感謝をお伝えすると共に、引き続き、ご支援・ご協力の程、宜しくお願い致します。

(佐藤 智子)

---

学習支援センター(SLA サポート)年次活動報告書 -2022年度-

Annual Report 2022 / Center for Learning Support (SLA Support Office)

2023年11月30日発行

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター(SLA サポート)

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41番地 マルチメディア教育研究棟 1F

website : <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/>

---

印刷 北日本印刷株式会社

※SLA 学生の各種作成物の情報は、学生個人の見解によるものも含まれることをあらかじめご了承ください。

※本冊子掲載の写真データの無断使用を固く禁じます。

---



